

出水 庸介

Yosuke DEMIZU, Ph. D.

Education

2001年 九州大学 薬学部 卒業
2003年 九州大学大学院 薬学府 博士前期課程 修了
2006年 九州大学大学院 薬学府 博士後期課程 修了 博士（薬学）

Research Experience

2004年 徳島文理大学 香川薬学部 助手
2006年 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 助教
2008年 国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部第二室 研究員
2011年 国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部 主任研究官
2011年 国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部第二室 室長
2012年 ウィスコンシン大学マディソン校化学科 JSPS海外特別研究員
2013年 東京工業大学 生命理工学部 非常勤講師
2013年 横浜市立大学 客員教授
2016年 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 非常勤講師
2017年 国立医薬品食品衛生研究所 有機化学部 部長（現職）
2018年 横浜市立大学大学院 生命医科学研究科 大学院客員教授
創薬有機化学研究室 主宰（併任）
2020年 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 客員教授
生物有機化学研究室 主宰（併任）
2020年 東京都医学総合研究所 客員研究員
2021年 京都府立医科大学 非常勤講師
2023年 広島大学 非常勤講師

Committee

- 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 化学物質安全対策部会 委員（2024～）
- 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 毒物劇物部会 委員（2021～）
- 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 毒物劇物部会毒物劇物調査会 委員（2021～）
- 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 化粧品・医薬部外品部会 委員（2021～）
- 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 日本薬局方部会 委員（2018～2022）
- 厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 指定薬物部会 委員（2018～）
- 厚生労働省 依存性薬物検討会 委員（2019～）

- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会 委員 (2023～)
- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 総合小委員会 委員 (2023～)
- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 標準品委員会 委員 (2021～2022) 座長 (2023～)
- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 化学薬品委員会 委員 (2015～2022) 座長 (2023～)
- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 化学薬品委員会各条国際調和パイロットWG 委員 (2023～)
- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 医薬品名称委員会 委員 (2011～)
- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会 天秤WG 委員 (2023～)
- PMDA 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会 ICH M7 日局取込み検討WG 座長 (2023～)
- PMDA 医薬品一般名称委員会 委員 (2017～)
- ICH-M7 専門家会議 副トピックリーダー (2018～)
- 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 化学薬品標準品評価委員会 委員 (2023～)
- 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 一般試験法用標準品評価委員会 委員 (2023～)
- JPTI 編集委員 (2025～)
- 日本薬学会 代議員 (2019～2020, 2021～2022, 2023～2024)
- 日本ペプチド学会 評議員 (第16期 2020～2021, 第17期 2022～2023, 第18期 2024～2025)
- 日本薬学会レギュラトリーサイエンス部会 常任世話人 (2024～)
- 日本法中毒学会 若手研究者委員会 委員 (2020～2022)
- Guest Editor in *Pharmaceuticals*, Special Issue: “Target Protein Degradation: From Chemical Biology to Drug Discovery”
- *Chemical and Pharmaceutical Bulletin* 編集員 (2022～2024)
- Editorial Board of the *Journal of Peptide Science* (2025～)

Organizer

- International Symposium on Protein and Organelle Lifetime Regulation Organizing Committee (2025.10)
- 第41回日本DDS学会学術集会シンポジウム8「ケミカルバイオロジー」(2025.6)
- 第47回日本分子生物学会年会シンポジウム「プロテインノックダウンが切り開くシン・バイオロジー」(2024.11)
- 第14回レギュラトリーサイエンス学会学術大会「中分子ペプチド医薬品開発

- に向けた規制上の課題と取組」(2024. 9)
- 日本薬学会第144回年会シンポジウム「中分子ペプチド医薬品の未来を拓くイノベーションとレギュレーション」(2024. 3)
 - キングスカイフロントサイエンスフォーラム運営委員会 (2022～)
 - 令和4年度M7ワークショップ (2022. 10)
 - CBI学会2022年大会プログラム委員 (2022. 10)
 - 日本薬学会第142回年会シンポジウム「中分子創薬研究のフロンティア -ニューモダリティへの戦略展開-」(2022. 3)
 - 第25回日本がん分子標的治療学会学術集会シンポジウム「ユビキチン創薬」(2021. 5)
 - 日本薬学会第141回年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -基礎から材料・創薬研究へ-」(2021. 3)
 - 第10回レギュラトリーサイエンス学会学術大会「中分子ペプチド医薬品開発に向けた規制上の課題と取組」(2020. 9)
 - 日本薬学会第140回年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -ペプチド創薬のパラダイムシフト-」(2020. 3)
 - 新学術ケモユビキチン第3回班会議 (2019. 12)
 - 日本薬学会第139回年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -新たな創薬への可能性-」(2019. 3)
 - 10th International Peptide Symposium Local Organizing Committee (2018. 12)
 - 日本薬学会第138回年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -設計・構造・機能-」(2018. 3)
 - 第49回若手ペプチド夏の勉強会 (2017. 8)

Award

1. 日本ペプチド学会奨励賞：「短鎖ペプチドのヘリカル構造制御と機能化」(2014)
2. JSPS Postdoctoral Fellowships for Research Abroad (2011)
3. 2010年有機合成化学協会研究企画賞(カネカ)：「高度に空間制御されたペプチドフォルダマーを利用した不斉有機触媒の開発」(2010)
4. 2006年有機合成化学協会研究企画賞(大正製薬)：「電極酸化反応を用いた非天然型アミノ酸の合成と機能性ペプチドへの展開」(2006)
5. 第20回日本薬学会九州支部大会優秀発表賞：「 α 位に不斉を持たない光学活性アミノ酸によるヘリカル構造の制御は可能か？」(2003)

Funding Support

研究代表者

1. AMED・医薬品等規制調和評価研究事業（令和6～8年）
「ペプチド薬物複合体の品質及び安全性評価に関する研究」
2. JSPS学術変革領域研究A・タンパク質寿命が制御するシン・バイオロジー（令和5～9年）
「ケミカルデグラダーによるタンパク質寿命制御」
3. AMED・医薬品等規制調和評価研究事業（令和3～5年）
「中分子ペプチド医薬品の品質及び安全性評価に関する研究」
4. JSPS科研費・基盤研究C（令和3～6年）
「革新的中分子医薬品創出を目指したペプチドフォルダマー研究」
5. AMED・医薬品等規制調和評価研究事業（平成30～令和2年）
「次世代型中分子ペプチド医薬品の品質及び安全性確保のための規制要件に関する研究」
6. JSPS科研費・基盤研究C（平成29～令和3年）
「ペプチド二次構造制御を基軸とした創薬研究」
7. JSPS科研費・基盤研究C（平成26～29年）
「安定化ヘリカルペプチドを用いた標的タンパク質分解誘導剤の開発」
8. 日本学術振興会・JSPS海外特別研究員（平成24～25年）
「 β -アミノ酸から構成される機能性ペプチドの開発」
9. 日本学術振興会・国際学会等派遣事業（平成22年）
「非天然アミノ酸を用いたペプチド二次構造の高度制御に関する研究」
10. JSPS科研費・若手研究B（平成21～22年）
「ハイブリッド手法による機能性プロリンの創製と応用研究」
11. JSPS科研費・若手研究B（平成19～20年）
「電極反応を利用したアミノ酸の合成」
12. JSPS科研費・若手研究B（平成17～18年）
「非天然型アミノ酸を利用した機能性ペプチドの創製」

研究分担者

1. AMED・医薬品等規制調和評価研究事業（令和6～8年）
「医薬品の品質及び安全性確保のための評価手法等に係る国内基盤整備と国際調和の推進に資する研究」
2. AMED・次世代がん医療加速化研究事業（令和5～7年）
「ミトコンドリアの機能タンパク質を標的とした非アルコール性脂肪性肝炎関連肝がんの新規治療戦略」
3. 科研費・基盤研究C（令和5～8年）

「自在にストランドインバージョンできる擬似相補的ペプチド核酸の医薬分子設計」

4. 厚生科研費・特別研究事業（令和4年）
「急増する植物成分由来危険ドラッグの迅速な規制に資する研究」
5. AMED・新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（令和4年）
「フラビノウイルスの生活環に特異的な抗フラビノウイルス薬の創出」
6. AMED・B型肝炎創薬実用化等研究事業（令和4～6年）
「B型肝炎ウイルスの解析に関する基礎研究と創薬ターゲットの探索・同定に資する研究」
7. AMED・肝炎等克服実用化研究事業（令和4～6年）
「肝炎ウイルスによる病原性発現機構解析による新規治療法の開発」
8. AMED・創薬基盤推進研究事業（令和4～6年）
「新規モダリティ医薬品に関する基盤評価技術の開発」
9. AMED・医薬品等規制調和評価研究事業（令和4～6年）
「医薬品の品質水準の効率的確保に向けた日本薬局方の新規試験法と国際調和の検討」
10. AMED・医薬品等規制調和評価研究事業（令和3～5年）
「先進的分析法を用いた広範な医薬品等の微量不純物の管理に関する研究開発」
11. AMED・新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（令和3年）
「核輸送ダイナミクスに着目した新型コロナウイルスの新規治療薬の開発」
12. 厚生科研費・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策（令和3～5年）
「危険ドラッグ等の乱用薬物の迅速識別に関する分析情報の収集及び危害影響予測のための研究」
13. AMED・新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業（令和2年）
「COVID-19 に対する蛋白質分解医薬の開発とオフターゲット評価法の構築」
14. 厚労科研費・食品の安全確保推進研究事業（令和2～4年）
「既存添加物の品質向上に資する研究」
15. AMED・医薬品等規制調和評価研究事業（令和元年～3年）
「医薬品の品質確保のための日本薬局方改正に向けた試験法等開発に関する研究」
16. 厚生科研費・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策（令和元年

～3年)

「規制薬物の分析と鑑別等の手法の開発のための研究」

17. JSPS新学術領域・ケモテクノロジーが拓くユビキチンニューフロンティア
(令和元年)
「ケモテクノロジーが拓くユビキチンニューフロンティア」
18. JSPS新学術領域・ケモテクノロジーが拓くユビキチンニューフロンティア
(平成30～令和4年)
「ケミカルプロテインノックダウン技術の開発と細胞制御」
19. AMED・医療分野研究成果展開事業ACT-MS (平成30～令和元年)
「がん特異的な蛋白質分解医薬品の開発」
20. AMED・次世代がん医療創生研究事業 (平成30～令和元年)
「難治性がんの特異的に発現するIAPのユビキチンリガーゼ活性を利用した革新的治療薬の開発」
21. 厚労科研費・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策 (平成30～令和2年)
「危険ドラッグ等の乱用薬物に関する分析情報の収集及び危害影響予測のための研究」
22. JSPS科研費・基盤研究C (平成30～令和3年)
「アンチジーン法における配列制限の克服を目指したペプチド核酸の医薬分子設計」
23. AMED・創薬基盤推進研究事業 (平成29～令和3年)
「革新的医薬品等開発のための次世代安全性評価法の開発・標準化と基盤データ取得」
24. 厚労科研費・食品の安全確保推進研究事業 (平成29年)
「食品添加物等の遺伝毒性発がんリスク評価のための新戦略法に関する研究」
25. 厚労科研費・食品の安全確保推進研究事業 (平成29～令和元年)
「既存添加物の品質確保のための評価手法に関する研究」
26. 厚労科研費・化学物質リスク研究事業 (平成28～30年)
「透明性を確保した化学物質の新規なインシリコ毒性予測法の開発」
27. 厚労科研費・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策 (平成28～30年)
「麻薬・向精神薬, 法規制植物等の規制薬物の鑑別等に関する研究」
28. 厚労科研費・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策 (平成27～29年)
「危険ドラッグ等の乱用薬物に関する分析情報の収集及び危害影響予測に

関する研究」

29. AMED・次世代がん医療創生研究事業（平成28～29年）
「プロテインノックダウン法の特性を活かした新しいがん分子標的薬の開発」
30. 厚労科研費・化学物質リスク研究事業（平成25～27年）
「高度な化学物質有害予測システムの構築」
31. 厚労科研費・医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策（平成25～27年）
「乱用薬物の鑑別法に関する研究」
32. 厚労科研費・化学物質リスク研究事業（平成22～24年）
「化学物質の有害予測の迅速化・高度化に関する研究」

Research Publication

2025

1. Mechanistic study of plasmid DNA delivery by Magainin 2-derived stapled peptides
M. Hirano, Y. Takechi-Haraya, Y. Abe, T. Misawa, N. Shibata, Y. Sato, **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem., 123, 118176 (2025).
2. 日本薬局方の国際調和に資する定量法の改正に関する研究
辻巖一郎, **出水庸介**
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 印刷中.
3. Enzymatic hydrolysis of Δ^8 -THC-O, Δ^9 -THC-O, 11- α -HHC-O, and 11- β -HHC-O by pooled human liver microsomes to generate Δ^8 -THC, Δ^9 -THC, 11- α -HHC, and 11- β -HHC
S. Zhao, J. C. P. García, R. Li, R. Kikura-Hanajiri, **Y. Demizu**, Y. Tanaka, Y. Ishii*
Forensic Toxicol., in press.
4. 日本薬局方における医薬品の品質確保に資する結晶評価手法に関する研究
内山奈穂子, 横尾英知, **出水庸介**, 小出達夫, 山本栄一
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 56, 70-75 (2025).
5. Advances in the development of Wnt/ β -catenin signaling inhibitors
M. Fujita, **Y. Demizu***
RSC Med. Chem., 16, 984-999 (2025).
<Selected as Front Cover>
6. Comprehensive in-vitro evaluation of the inhibitory effects of relatively high molecular weight peptides on drug-drug interaction-associated four liver transporters and its association with physicochemical properties
R. Ishikawa, T. Misawa, **Y. Demizu**, Y. Saito, R. Kikura-Hanajiri, K. Saito*

Drug Metab. Pharmacokinet., 61, 101055 (2025).

7. Clozapine as an E3 ligand for PROTAC technology

R. Takano, N. Ohoka,* T. Kurohara, N. Arakawa, K. Ohgane, T. Inoue, H. Yokoo,* **Y.**

Demizu*

ACS Med. Chem. Lett., 16, 258-262 (2024).

<Selected as Supplementary Cover>

2024

8. Correlation Between Membrane Permeability and the Intracellular Degradation Activity of Proteolysis-Targeting Chimeras

H. Yokoo, H. Osawa, K. Saito,* **Y. Demizu***

Chem. Pharm. Bull., 72, 961-965 (2024).

Selected as Featured Article

9. Strategic design of GalNAc-helical peptide ligands for efficient liver targeting

T. Ito, N. Ohoka, M. Aoyama, T. Nishikaze, T. Misawa, T. Inoue, A. Ishii-Watabe, **Y.**

Demizu*

Chem. Sci., 15, 18789-18795 (2024).

<Selected as Outside Front Cover>

10. Linker and Conjugation Site Synergy in Antibody–Drug Conjugates: Impacts on Biological Activity

M. Aoyama,* M. Tada, H. Yokoo, T. Ito, T. Misawa, **Y. Demizu**, A. Ishii-Watabe

Bioconjug. Chem., 35, 1568-1576 (2024).

<Selected as Supplementary Cover>

11. Hydrophobic CPP/HDO Conjugates: A New Frontier in Oligonucleotide-Warheaded PROTAC Delivery

M. Naganuma, N. Ohoka,* M. Hirano, D. Watanabe, G. Tsuji, T. Inoue, **Y. Demizu***

RSC Med. Chem., 15, 3695-3703 (2024).

<Selected as Inside Front Cover>

12. Dual-modified penetratin peptides: Enhancing nucleic acid delivery through stapling and endosomal escape domain

K. Horikoshi, M. Miyamoto, K. Tsuchiya, H. Yokoo,* **Y. Demizu***

Bioorg. Med. Chem., 111, 117871 (2024).

13. Nitrosamine contamination of pharmaceuticals: Cases in Japan, formation mechanisms, detection methods, regulatory perspectives, and insights

G. Tsuji, H. Yokoo, **Y. Demizu**, Y. Abe, S. Masada, N. Uchiyama, T. Tsutsumi, E. Yamamoto*

JPBA Open, 4, 100034 (2024).

14. One-pot C(sp³)-H difluoroalkylation of tetrahydroisoquinolines and isochromans via electrochemical oxidation and organozinc alkylation
K. Kamata, M. Kuriyama,* H. Tahara, A. Nishikawa, K. Yamamoto, **Y. Demizu**, O. Onomura*
Chem. Commun., 60, 6395-6398 (2024).
15. The application of microsampling disks in circular dichroism spectroscopy for peptide and nucleic acid drugs
G. Tsuji,[#] T. Misawa,[#] **Y. Demizu***
Chem. Pharm. Bull., 72, 658-663 (2024).
[#]These authors equally contributed to this work.
Selected as Featured Article
16. In silico design, synthesis and evaluation of PROTAC against hematopoietic prostaglandin D synthase
H. Yokoo, N. Shibata,* **Y. Demizu***
Methods Mol. Biol., 2780, 345-359 (2024).
17. Innovative peptide architectures: advancements in foldamers and stapled peptides for drug discovery
Z. Dongrui, M. Miyamoto, H. Yokoo,* **Y. Demizu***
Expert Opin. Drug Discov., 19, 699-723 (2024).
18. Photo-regulated PROTACs: A novel tool for temporal control of targeted protein degradation
H. Xu, N. Ohoka,* T. Inoue, H. Yokoo,* **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem. Lett., 107, 129778 (2024).
19. 日本薬局方の国際化の一層の推進を目指した定量法改正に関する研究
辻巖一郎, 伊藤貴仁, **出水庸介**
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 55, 140-156 (2024).
20. Development of STING degrader with double covalent ligands
M. Nakamura, N. Ohoka,* N. Shibata, T. Inoue, G. Tsuji,* **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem. Lett., 102, 129677 (2024).
21. [3+2] Cycloaddition of Heteroaromatic *N*-Ylides with Sulfenes
K. Yamamoto,* K. Torigoe, M. Kuriyama, **Y. Demizu**, O. Onomura*
Org. Lett., 26, 798-803 (2024).
22. Expansion of targeted degradation by gilteritinib-warheaded PROTACs to ALK fusion proteins
H. Yokoo,[#] G. Tsuji,[#] T. Inoue, M. Naito, **Y. Demizu**,* N. Ohoka*
Bioorg. Chem., 145, 107204 (2024).

#These authors equally contributed to this work.

23. Rapid structure determination of ranitidine hydrochloride API in two crystal forms using microcrystal electron diffraction

H. Yokoo,* Y. Aoyama, T. Matsumoto, E. Yamamoto, N. Uchiyama, **Y. Demizu***
Chem. Pharm. Bull., 72, 471-474 (2024).

<Selected as Featured Article>

24. Structural analysis of an lysergic acid diethylamide (LSD) analogue *N*-methyl-*N*-isopropyllysergamide (MiPLA): Insights from Rotamers in NMR spectra

T. Shoda,#,* G. Tsuji,# M. Kawamura, T. Kurohara, T. Misawa, R. Hanajiri-Kikura, **Y. Demizu**

Drug Test. Anal., 16, 588-594 (2024).

#These authors equally contributed to this work.

25. *In silico* prediction of *N*-nitrosamine formation pathways in pharmaceutical products

G. Tsuji,* T. Kurohara, T. Shoda, H. Yokoo, T. Ito, S. Masada, N. Uchiyama, E. Yamamoto, **Y. Demizu***

Chem. Pharm. Bull., 72, 166-172 (2024).

26. Rational design of amphipathic antimicrobial peptides with alteration of L-/D-amino acids that form helical structures

M. Hirano, H. Yokoo,* N. Ohoka, T. Ito, T. Misawa, M. Oba, T. Inoue, **Y. Demizu***
Chem. Pharm. Bull., 72, 149-155 (2024).

2023

27. Development of decoy oligonucleotide-warheaded chimeric molecules targeting STAT3

Po-C. Shih, M. Naganuma, G. Tsuji, **Y. Demizu**, M. Naito*

Bioorg. Med. Chem., 95, 117507 (2023).

28. Sculpting secondary structure of a cyclic peptide: Conformational analysis of a cyclic hexapeptide containing a combination of L-Leu, D-Leu and Aib residues

T. Ito, H. Yokoo, T. Kato,* M. Doi, **Y. Demizu***

ACS Omega, 8, 44106-44111 (2023).

<Selected as Supplementary Cover>

29. Structural optimization of decoy oligonucleotide-based PROTAC that degrades the estrogen receptor

M. Naganuma, N. Ohoka,* G. Tsuji, T. Inoue, M. Naito, **Y. Demizu***

Bioconjug. Chem., 34, 1780-1788 (2023).

<Selected as Supplementary Cover>

30. Magainin 2-derived stapled peptides derived with the ability to deliver pDNA, mRNA, and siRNA into cells
M. Hirano, H. Yokoo, C. Goto, M. Oba, T. Misawa,* **Y. Demizu***
Chem. Sci., 14, 10403-10410 (2023).
<Selected as Front Cover>
31. Enhancing chemical stability through structural modification of antimicrobial peptides with non-proteinogenic amino acids
T. Ito,[#] N. Matsunaga,[#] M. Kurashima, **Y. Demizu**,* T. Misawa*
Antibiotics, 12, 1326 (2023).
[#]These authors equally contributed to this work.
32. Design of antimicrobial peptides containing non-proteinogenic amino acids using multi-objective Bayesian optimization
Y. Murakami, S. Ishida, **Y. Demizu**, K. Terayama*
Digital Discovery, 2, 1347-1353 (2023).
ChemRxiv, 10.26434/chemrxiv-2023-cbrjc
33. Structure-activity relationship study of helix-stabilized antimicrobial peptides containing non-proteinogenic amino acids
T. Ito, W. Hashimoto, N. Ohoka, T. Misawa, T. Inoue, R. Kawano, **Y. Demizu***
ACS Biomater. Sci. Eng., 9, 4654-4661 (2023).
<Selected as Supplementary Cover>
34. Development of hydrophobic cell-penetrating stapled peptides as drug carriers
K. Tsuchiya, K. Horikoshi, M. Fujita, M. Hirano, M. Miyamoto, H. Yokoo,* **Y. Demizu***
Int. J. Mol. Sci., 24, 11768 (2023).
35. Identification of the stapled α -helical peptide ATSP-7041 as a substrate and strong inhibitor of OATP1B1 in vitro
R. Ishikawa, K. Saito,* T. Misawa, **Y. Demizu**, Y. Saito
Biomolecules, 13, 1002 (2023).
36. Development of DNA aptamer-based PROTACs that degrade the estrogen receptor
H. Tsujimura,[#] M. Naganuma,[#] N. Ohoka,* T. Inoue, M. Naito, G. Tsuji,* **Y. Demizu***
ACS Med. Chem. Lett., 14, 827-832 (2023).
[#]These authors equally contributed to this work.
37. 日本薬局方の国際化の一層の推進を目指した定量法改正に関する研究
辻巖一郎, 内山奈穂子, **出水庸介**
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 54, 257-265 (2023).

38. Design and properties of PNA containing a dicationic nucleobase based on N^4 -benzoylated cytosine
S. Moriya, K. Funaki, **Y. Demizu**, M. Kurihara, A. Kittaka, T. Sugiyama*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 88, 129287 (2023).
39. Development of a versatile solid-phase synthesis of PROTAC with diverse E3 ligands
H. Xu[#], T. Kurohara[#], N. Ohoka, G. Tsuji, T. Inoue, M. Naito, **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem., 86, 117293 (2023).
[#]These authors equally contributed to this work.
40. In silico optimization of peptides that inhibit Wnt/ β -catenin signaling
M. Fujita, K. Tsuchiya,* T. Kurohara, K. Fukuhara, T. Misawa, **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem., 84, 117264 (2023).
41. CRBN ligand expansion for Hematopoietic Prostaglandin D₂ Synthase (H-PGDS) targeting PROTAC design and their ADME profiles
H. Osawa,[#] T. Kurohara,[#] T. Ito, N. Shibata, **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem., 84, 117259 (2023).
[#]These authors equally contributed to this work.
42. Current status of oligonucleotide-warheaded protein degraders
Po-C. Shih, M. Naganuma, **Y. Demizu**, M. Naito*
Pharmaceutics, 15, 765 (2023).
43. Developmental trends of peptide drugs and their quality assessment using secondary structure analysis
T. Misawa,* **Y. Demizu**
ChemistrySelect, 8, e202300408 (2023).
44. Investigating the cell permeability of PROTACs
H. Yokoo, M. Naito,* **Y. Demizu***
Expert Opin. Drug Discov., 18, 357-361 (2023).
45. Structure-activity relationship studies of substitutions of cationic amino acid residues on antimicrobial peptides
M. Takada, T. Ito, M. Kurashima, N. Matsunaga, **Y. Demizu**,* T. Misawa*
Antibiotics, 12, 19 (2023).
46. Comprehensive synthesis of 20 fentanyl derivatives for use as reference materials
T. Kurohara,[#] T. Ito,[#] G. Tsuji,* T. Misawa,* H. Yokoo, M. Kawamura, T. Shoda, R. Hanajiri-Kikura, **Y. Demizu**
Heterocycles, 106, 82-93 (2023).
[#]These authors equally contributed to this work.

47. Advanced solid-state NMR analysis of two crystal forms of ranitidine hydrochloride: Detection of ^1H - ^{14}N intra-/intermolecular correlations
H. Yokoo,[#] S. Tanaka,[#] E. Yamamoto, G. Tsuji, **Y. Demizu**,* N. Uchiyama*
Chem. Pharm. Bull., 71, 58-63 (2023).

[#]These authors equally contributed to this work.

**Highlighted Paper selected by Editor-in-Chief
Selected as Featured Article**

48. 日本薬局方の国際化を目的とした各条の試験法変更に関する研究 (第3報): クロモグリク酸ナトリウムおよびトリヘキシフェニジル塩酸塩の HPLC による定量法設定に向けた検討
辻巖一郎*, 伊藤貴仁, 内山奈穂子, 細江潤子, **出水庸介**, 合田幸広
Yakugaku Zasshi, 143, 297-307 (2023).

2022

49. Structure-activity relationship study of PROTACs against hematopoietic prostaglandin D₂ synthase
Y. Murakami,[#] H. Osawa,[#] T. Kurohara,[#] Y. Yanase, T. Ito, H. Yokoo, N. Shibata, M. Naito, K. Aritake, **Y. Demizu***
RSC Med. Chem., 13, 1495-1503 (2022).

[#]These authors equally contributed to this work.

<Selected as Front Cover>

50. Development of Gilteritinib-based chimeric small molecules that potently induce degradation of FLT3-ITD protein
N. Ohoka,* M. Suzuki, T. Uchida, G. Tsuji, Y. Tsukumo, M. Yoshida, T. Inoue, **Y. Demizu**, H. Ohki, M. Naito*
ACS Med. Chem. Lett., 13, 1885-1891 (2022).
51. Development of a penetratin-conjugated stapled peptide that inhibits Wnt/ β -catenin signaling
K. Tsuchiya, M. Kiyoshi, N. Hashii, M. Fujita, T. Kurohara, A. Ishii-Watabe, K. Fukuhara, T. Misawa,* **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem., 73, 117021 (2022).
52. Oligoarginine-conjugated peptide foldamers inhibiting vitamin D receptor-mediated transcription
M. Takyō, Y. Sato, N. Hirata, K. Tsuchiya, H. Ishida, T. Kurohara, Y. Yanase, T. Ito, Y. Kanda, K. Yamamoto, T. Misawa,* **Y. Demizu***
ACS Omega, 7, 46573-46582 (2022).
53. Recent advances in PROTAC technology toward new therapeutic modalities

H. Yokoo,* M. Naganuma, M. Oba, **Y. Demizu***

Chem. Biodivers., 19, e202200828 (2022).

<Selected as Front Cover>

54. Development of delivery carriers for plasmid DNA by conjugation of a helical template to oligoarginine

H. Yokoo,# T. Misawa,# T. Kato, M. Tanaka, **Y. Demizu**,* M. Oba*

Bioorg. Med. Chem., 72, 116997 (2022).

#These authors equally contributed to this work.

55. Derivatives of methoxetamine and major methoxetamine metabolites potently block NMDA receptors

T. Irie,* Y. Yanase, **Y. Demizu**, M. Usami, R. Kikura-Hanajiri

J. Pharmacol. Sci., 150, 233-243 (2022).

56. Organocatalytic synthesis of phenols from diaryliodonium salts with water under metal-free conditions

K. Katagiri, M. Kuriyama,* K. Yamamoto, **Y. Demizu**, O. Onomura*

Org. Lett., 24, 5149-5154 (2022).

57. Development of rapid and facile solid-phase synthesis of PROTACs via a variety of binding styles

H. Xu#, T. Kurohara#, R. Takano, H. Yokoo, N. Shibata, N. Ohoka, T. Inoue, M. Naito, **Y. Demizu***

ChemistryOpen, 11, e303300131 (2022).

#These authors equally contributed to this work.

58. Analysis of the interaction of cyclosporine congeners with cell membrane models

M. Nakao, Y. Takeuchi-Haraya, T. Ohgita, H. Saito, **Y. Demizu**, K. Izutsu, K. Sakai-Kato*

J. Pharm. Biomed. Anal., 218, 114874 (2022).

59. Helix-stabilized cell-penetrating peptides for delivery of antisense morpholino oligomers: Relationships among helicity, cellular uptake, and antisense activity

H. Takada, K. Tsuchiya, **Y. Demizu***

Bioconjug. Chem., 38, 1311-1318 (2022).

<Selected as Front Cover>

60. Current status and challenges of analytical methods for evaluation of size and surface modification of nanoparticle-based drug formulations

Y. Takeuchi-Haraya,* T. Ohgita, **Y. Demizu**, H. Saito, K. Izutsu, K. Sakai-Kato*

AAPS PharmSciTech, 23, 150 (2022).

61. Nanoparticle tracking analysis for characterization of extracellular vesicles including

- exosomes
K. Sakai-Kato,* S. Yahata, Y. Takeuchi-Haraya, T. Ohgita, **Y. Demizu**, H. Saito, K. Izutsu
Pharm. Tech. Japan, 38, 213-218 (2022).
62. Copper-catalyzed asymmetric oxidative desymmetrization of 2-substituted 1,2,3-triols
K. Yamamoto, Y. Suganomata, T. Inoue, M. Kuriyama, **Y. Demizu**, O. Onomura*
J. Org. Chem., 87, 6479-6491 (2022).
63. Antiviral activity of ciclesonide acetal derivatives blocking SARS-CoV-2 RNA replication
G. Tsuji,[#]* S. Nakajima,[#] K. Watashi, S. Torii, R. Suzuki, T. Fukuhara, N. Ohoka, T. Inoue, **Y. Demizu***
J. Pharmacol. Sci., 149, 81-84 (2022).
[#]These authors equally contributed to this work.
64. Control of STING agonistic/antagonistic activity using amine skeleton-based c-di-GMP analogues
Y. Yanase, G. Tsuji,* M. Nakamura, N. Shibata, **Y. Demizu***
Int. J. Mol. Sci., 23, 6847 (2022).
65. Helical Foldamers and stapled peptides as new modalities in drug discovery: Modulators of protein-protein interactions
K. Tsuchiya, T. Kurohara, K. Fukuhara, T. Misawa,* **Y. Demizu***
Processes, 10, 924 (2022).
66. 薬局方各条における有害試薬の可及的排除に関する研究 (第4報)
辻巖一郎, 内山奈穂子, 合田幸広, **出水庸介**
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 53, 37-52 (2022).
67. Development of chimeric molecules that degrade the estrogen receptor using decoy oligonucleotide ligands
M. Naganuma, N. Ohoka,* G. Tsuji, H. Tsujimura, K. Matsuno, T. Inoue, M. Naito, **Y. Demizu***
ACS Med. Chem. Lett., 13, 134-139 (2022).
<Selected as Supplementary Cover>
ChemRxiv, 10.33774/chemrxiv-2021-0f96d
68. Fcγ receptor-dependent internalization and off-target cytotoxicity of antibody-drug conjugate aggregates
M. Aoyama,* M. Tada, H. Yokoo, **Y. Demizu**, A. Ishii-Watabe
Pharm. Res., 39, 89-103 (2022).

69. The effects of magainin 2-derived and rationally designed antimicrobial peptides on *Mycoplasma pneumoniae*
K. Hayashi,* T. Misawa, C. Goto, **Y. Demizu**, Y. Hara-Kudo, Y. Kikuchi
PLoS ONE, 17, e0261893 (2022).
70. Molecular design, synthesis and evaluation of SNIPER(ER) that induces targeted protein degradation of ER α
N. Ohoka,# H. Yokoo,# K. Okuhira, **Y. Demizu**, M. Naito*
Methods Mol. Biol., 2418, 363-382 (2022).

#These authors equally contributed to this work.

2021

71. Synthesis of Norgestomet and its 17 β -isomer and evaluation of their agonistic activities against progesterone receptor
T. Kurohara, T. Ito, G. Tsuji,* T. Misawa,* H. Yokoo, Y. Yanase, T. Shoda, T. Sakai, J. Hosoe, N. Uchiyama, H. Akiyama, **Y. Demizu**
Bioorg. Med. Chem., 49, 116425 (2021).
72. Discovery of a highly potent and selective PROTAC targeting hematopoietic prostaglandin D synthase via *in silico* design
H. Yokoo, N. Shibata,* A. Endo, T. Ito, Y. Yanase, Y. Murakami, K. Fujii, K. Hamamura, Y. Saeki, M. Naito,* K. Aritake,* **Y. Demizu***
J. Med. Chem., 64, 15868-15882 (2021).

<Selected as Supplementary Cover>

ChemRxiv, doi.org/10.26434/chemrxiv.14739486.v1

73. Peptide stapling improves the sustainability of a peptide-based chimeric molecule that induces targeted protein degradation
H. Yokoo,# N. Ohoka,# M. Takyō, T. Ito, K. Tsuchiya, T. Kurohara, K. Fukuhara, T. Inoue, M. Naito, **Y. Demizu***
Int. J. Mol. Sci., 22, 8772 (2021).

#These authors equally contributed to this work.

74. 薬局方各条における有害試薬の可及的排除に関する研究 (第3報)
辻巖一郎, 内山奈穂子, 合田幸広, **出水庸介**
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 52, 496-510 (2021).
75. Discovery of non-proteinogenic amino acids inhibiting biofilm formation of *S. aureus* and methicillin-resistant *S. aureus*
K. Ikeda, T. Shoda, **Y. Demizu**,* G. Tsuji*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 48, 128259 (2021).

76. Nickel-catalyzed hydrodeoxygenation of aryl sulfamates with alcohols as mild reducing agents
K. Matsuo, M. Kuriyama,* K. Yamamoto, **Y. Demizu**, K. Nishida, O. Onomura*
Synthesis, 53, 4449-4460 (2021).
77. Structure-activity relationship study of amphipathic antimicrobial peptides using helix-destabilizing sarcosine
H. Yokoo,* M. Hirano, N. Ohoka, T. Misawa, **Y. Demizu***
J. Pept. Sci., e3360, 1-6 (2021).
78. N-Nitrosodimethylamine (NDMA) formation from ranitidine impurities: Possible root causes of the presence of NDMA in ranitidine hydrochloride
H. Yokoo,# E. Yamamoto,#,* S. Masada, N. Uchiyama, G. Tsuji, T. Hakamatsuka, **Y. Demizu**, K. Izutsu, Y. Goda
Chem. Pharm. Bull., 69, 872-876 (2021).
#These authors equally contributed to this work.
79. 日本薬局方の国際化を目的とした各条の試験法変更に関する研究 (第2報) :
ロラゼパムの HPLC による定量法設定に向けた検討
馬庭愛加, 辻巖一郎*, 伊藤貴仁, 内山奈穂子, 細江潤子, 大槻崇, 松藤寛,
出水庸介, 合田幸広
Yakugaku Zasshi, 141, 961-970 (2021).
80. Development of agonist-based PROTACs targeting liver X receptor
H. Xu,# N. Ohoka,# H. Yokoo, K. Nemoto, T. Ohtsuki, H. Matsufuji, M. Naito, T. Inoue, G. Tsuji,* **Y. Demizu***
Front. Chem., 9, 674967 (2021).
#These authors equally contributed to this work.
81. Development of ciclesonide analogues that block SARS-CoV-2 RNA replication
G. Tsuji,# K. Yonemitsu,# T. Ito, Y. Yanase, M. Uema, N. Ohoka, T. Inoue, H. Asakura,
Y. Demizu*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 43, 128052 (2021).
#These authors equally contributed to this work.
82. Miroestrol quantification in *Pueraria mirifica* crude drugs and products by single-reference UPLC/PDA/MS using relative molar sensitivities to kwakhurin
S. Masada, J. Hosoe, R. Arai, **Y. Demizu**, T. Hakamatsuka, Y. Goda, N. Uchiyama*
Chem. Pharm. Bull., 69, 573-580 (2021).
83. Development of antimicrobial stapled peptides based on Magainin 2 sequence
M. Hirano, C. Saito, H. Yokoo, C. Goto, R. Kawano, T. Misawa,* **Y. Demizu***

- Molecules*, 26, 444 (2021). *Special Issue Novel Antibacterials: Antimicrobial Peptides, Peptidomimetics and Conjugates*
84. Synthesis and characterization of PNA oligomers containing preQ1 as a positively charged guanine analogue
S. Moriya, H. Shibasaki, M. Kohara, K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, A. Kittaka, T. Sugiyama*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 39, 127850 (2021).
85. Design and synthesis of novel estrogen receptor antagonists with acetal containing biphenylmethane skeleton
M. Yuyama, T. Misawa, **Y. Demizu**, T. Kanaya, M. Kurihara*
Results in Chemistry, 3, 100124 (2021).
86. Helical antimicrobial peptide foldamers containing non-proteinogenic amino acids
H. Yokoo, M. Hirano, T. Misawa, **Y. Demizu***
ChemMedChem, 16, 1226-1233 (2021).
87. TRIP12 enhances small molecule-induced degradation of BRD4 through K29/K48 branched ubiquitin chains
A. Soma-Kaiho, Y. Akizuki, K. Igarashi, A. Endo, T. Shoda, Y. Kawase, **Y. Demizu**, M. Naito, Y. Saeki, K. Tanaka, F. Ohtake*
Mol. Cell, 81, 1411-1424 (2021).
88. Development of hematopoietic prostaglandin D synthase-degradation inducer
H. Yokoo,[#] N. Shibata,[#] M. Naganuma, Y. Murakami, K. Fujii, T. Ito, K. Aritake,* M. Naito,* **Y. Demizu***
ACS Med. Chem. Lett., 12, 236-241 (2021).
<Selected as Supplementary Cover>
ChemRxiv, doi.org/10.26434/chemrxiv.13040723.v1
[#]These authors equally contributed to this work.
89. Approach to establishment of control strategy for oral solid dosage forms using continuous manufacturing
H. Ishimoto,* M. Kano, H. Sugiyama, H. Takeuchi, K. Terada, A. Aoyama, T. Shoda, **Y. Demizu**, J. Shimamura, R. Yokoyama, Y. Miyamoto, K. Hasegawa, M. Serizawa, K. Unosawa, K. Osaki, N. Asai, Y. Matsuda
Chem. Pharm. Bull., 69, 211-217 (2021).
90. Transition metal-free *O*-arylation of quinoxalin-2-ones with diaryliodonium salts
M. Kuriyama,* Y. Mochizuki, T. Miyagi, K. Yamamoto, **Y. Demizu**, O. Onomura*
Heterocycles, 103, 502-510 (2021).
91. Protocols for synthesis of SNIPERs and the methods to evaluate the anticancer effects

Y. Tsukumo,[#] G. Tsuji,[#] H. Yokoo, N. Shibata, N. Ohoka, **Y. Demizu**, M. Naito*
Methods Mol. Biol., 2365, 331-347 (2021).

[#]These authors equally contributed to this work.

92. 日本薬局方の国際化を目的とした各条の試験法変更に関する研究 (第1報):
クロニジン塩酸塩の HPLC による定量法設定に向けた検討
馬庭愛加, 辻巖一郎*, 伊藤貴仁, 内山奈穂子, 細江潤子, 大槻崇, 松藤寛,
出水庸介, 合田幸広
Yakugaku Zasshi, 141, 591-598 (2021).

93. Amine skeleton-based c-di-GMP derivatives as biofilm formation inhibitors
K. Ikeda,[#] Y. Yanase,[#] K. Hayashi, Y. Hara-Kudo, G. Tsuji,* **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem. Lett., 32, 127713 (2021).

[#]These authors equally contributed to this work.

94. Development of novel selective TGR5 ligands based on 5,6,7,8-tetrahydro-5,5,8,8-tetramethylnaphthalene skeleton
R. Terui, Y. Yanase, H. Yokoo, Y. Suhara, M. Makishima, **Y. Demizu**,* T. Misawa*
ChemMedChem, 16, 458-462 (2021).

<Selected as Front Cover>

2020

95. Rational design of helix-stabilized antimicrobial peptide foldamers containing α,α -disubstituted amino acids or side-chain stapling
M. Hirano, C. Saito, C. Goto, H. Yokoo, R. Kawano, T. Misawa,* **Y. Demizu***
ChemPlusChem, 85, 2731-2736 (2020). *Special Issue : Synthesis, Properties, and Applications of Foldamers*

96. 薬局方各条における有害試薬の可及的排除に関する研究 (第二報)
辻巖一郎, **出水庸介**, 合田幸広
医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 51, 618-627 (2020).

97. Temperature-dependent formation of *N*-nitrosodimethylamine during the storage of ranitidine reagent powders and tablets
Y. Abe,[#] E. Yamamoto,[#] H. Yoshida, A. Usui, N. Tomita, H. Kanno, S. Masada, H. Yokoo, G. Tsuji, N. Uchiyama, T. Hakamatsuka, **Y. Demizu**, K. Izutsu,* Y. Goda, H. Okuda
Chem. Pharm. Bull., 68, 1008-1012 (2020).

[#]These authors equally contributed to this work.

98. Synthesis of chiral α -trifluoromethyl α,α -disubstituted α -amino acids and conformational analysis of L-Leu-based peptides having an (*R*)- or a (*S*)- α -trifluoromethylalanine

- A. Ueda, M. Ikeda, T. Kasae, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Oba, M. Tanaka*
ChemistrySelect, 5, 10882-10886 (2020).
99. Design, synthesis, and biological activity of conformationally-restricted analogues of silibinin
M. Mizuno, K. Mori, K. Tsuchiya, T. Misawa, **Y. Demizu**, M. Shibamura, K. Fukuhara*
ACS Omega, 5, 23164-23174 (2020).
100. Facile synthesis of kwakhurin, a marker compound of *Pueraria mirifica*, and its quantitative NMR analysis for standardization as a reagent
G. Tsuji,[#] M. Yusa,[#] S. Masada, H. Yokoo, J. Hosoe, T. Hakamatsuka, **Y. Demizu**,* N. Uchiyama*
Chem. Pharm. Bull., 68, 797-801 (2020).
[#]These authors equally contributed to this work.
101. De novo design of cell-penetrating foldamers
H. Yokoo, T. Misawa,* **Y. Demizu***
Chem. Rec., 20, 912-921 (2020).
<Selected as Front Cover>
102. Design and synthesis of peptide-based chimeric molecules to induce degradation of the estrogen and androgen receptors
H. Yokoo,[#] N. Ohoka,[#] M. Naito, **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem., 28, 115595 (2020).
[#]These authors equally contributed to this work.
103. Targeted protein degradation by chimeric compounds using hydrophobic E3 ligands and adamantane moiety
T. Shoda,* N. Ohoka, G. Tsuji, T. Fujisato, H. Inoue, **Y. Demizu**, M. Naito, M. Kurihara
Pharmaceuticals, 13, 34 (2020).
104. Selective degradation of target proteins by chimeric small-molecular drugs, PROTACs and SNIPERs
M. Ishikawa,* S. Tomoshige, **Y. Demizu**, M. Naito
Pharmaceuticals, 13, 74 (2020).
105. Development of photoswitchable estrogen receptor ligands
K. Tsuchiya, T. Umeno, G. Tsuji, H. Yokoo, M. Tanaka, K. Fukuhara, **Y. Demizu**,* T. Misawa*
Chem. Pharm. Bull., 68, 398-402 (2020).
106. Copper-catalyzed enantioselective synthesis of oxazolines from aminotriols via

asymmetric desymmetrization

K. Yamamoto, Y. Tsuda, M. Kuriyama, **Y. Demizu**, O. Onomura*

Chem. Asian J., 15, 840-844 (2020).

107. Design and synthesis of 4-(2-pyrrolyl)-4-phenylheptane derivatives as estrogen receptor antagonists

M. Naganuma, H. Yokoo, T. Misawa, K. Matsuno, G. Tsuji,* **Y. Demizu***

Heterocycles, 101, 429-434 (2020).

108. Critical role of mitochondrial ubiquitination and the OPTN–ATG9A axis in mitophagy

K. Yamano,* R. Kikuchi, W. Kojima, R. Hayashida, F. Koyano, J. Kawawaki, T. Shoda, **Y. Demizu**, M. Naito, K. Tanaka, N. Matsuda*

J. Cell. Biol., 219, e201912144 (2020).

109. Deubiquitylase USP25 prevents degradation of BCR-ABL protein and ensures proliferation of Ph-positive leukemia cells

N. Shibata, N. Ohoka, G. Tsuji, **Y. Demizu**, K. Miyazawa, K. Ui-Tei, T. Akiyama, M. Naito*

Oncogene, 39, 3867-3878 (2020).

2019

110. Development of small molecule chimeric degraders that bring target proteins and the aryl hydrocarbon receptor (AhR) E3 ligase into close proximity

N. Ohoka, G. Tsuji, T. Shoda, T. Fujisato, M. Kurihara, **Y. Demizu**, M. Naito*

ACS Chem. Biol., 14, 2822-2832 (2019).

111. Development of amphipathic antimicrobial peptide foldamers based on Magainin 2 sequence

C. Goto, M. Hirano, K. Hayashi, Y. Kikuchi, Y. Hara-Kudo, T. Misawa,* **Y. Demizu***

ChemMedChem, 14, 1911-1916 (2019).

112. Inhibition of β -amyloid-induced neurotoxicity by planar analogues of procyanidin B3

M. Mizuno, K. Mori, T. Misawa, **Y. Demizu**, M. Shibanuma, K. Fukuhara*

Bioorg. Med. Chem. Lett., 29, 2659-2663 (2019).

113. Refining calibration procedures of circular dichroism spectrometer to improve usability

K. Sakai-Kato,* K. Yoshida, T. Ohgita, Y. Takechi-Haraya, **Y. Demizu**, H. Saito

Anal. Sci., 35, 1275-1278 (2019).

114. Rapid and efficient high-performance liquid chromatography analysis of *N*-nitrosodimethylamine impurity in valsartan drug substance and its medicines

S. Masada,[#] G. Tsuji,[#] R. Arai, N. Uchiyama,* **Y. Demizu**,* T. Tsutsumi, Y. Abe, H. Akiyama, T. Hakamatsuka, K. Izutsu, Y. Goda, H. Okuda

[#]These authors contributed equally to this work.

Sci. Rep., 9, 11852 (2019).

115. Palladium-catalyzed synthesis of deuterated alkenes through deuterodechlorination of alkenyl chlorides

M. Kuriyama,* G. Yano, H. Kiba, T. Morimoto, K. Yamamoto, **Y. Demizu**, O. Onomura*

Org. Process Res. Dev., 23, 1552-1557 (2019).

116. Development of 2-aminoisobutyric acid (Aib)-rich cell-penetrating peptide foldamers for efficient siRNA delivery

T. Misawa,* N. Ohoka,* M. Oba, H. Yamashita, M. Tanaka, M. Naito, **Y. Demizu***
Chem. Commun., 55, 7792-7795 (2019).

117. Rational design of novel amphipathic antimicrobial peptides focused on distribution of cationic amino acid residues

T. Misawa, C. Goto, N. Shibata, M. Hirano, Y. Kikuchi,* M. Naito,* **Y. Demizu***
MedChemComm, 10, 896-900 (2019).

<Selected as Front Cover>

118. 薬局方各条における有害試薬の可及的排除に関する研究

出水庸介, 辻巖一郎, 合田幸広

医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス, 50, 280-285 (2019).

119. フォルダマーの魅力 -設計・構造・機能-

大庭誠, 梅澤直樹, **出水庸介**

Yakugaku-Zasshi, 139, 579-580 (2019).

120. Facile synthesis of α -*exo*-methylene ketones from α,α -disubstituted allyl alcohols by electrochemical oxidative migration

K. Yamamoto, N. Kikuchi, T. Hamamizu, H. Yoshimatsu, M. Kuriyama, **Y. Demizu**, O. Onomura*

ChemElectroChem, 16, 4169-4172 (2019).

121. Analysis of an impurity, *N*-nitrosodimethylamine, in valsartan drug substances and associated products using GC-MS

T. Tsutsumi, H. Akiyama,* **Y. Demizu**, N. Uchiyama, S. Masada, G. Tsuji, R. Arai, Y. Abe, T. Hakamatsuka, K. Izutsu, Y. Goda, H. Okuda

Biol. Pharm. Bull., 42, 547-551 (2019).

2018

122. Left-handed helix of three-membered ring amino acid homopeptide interrupted

by an N-H···ethereal O type hydrogen bond

Y. Koba, A. Ueda, M. Oba, M. Doi, T. Kato, **Y. Demizu**, M. Tanaka*

Org. Lett., 20, 7830-7834 (2018).

123. Structural development of non-secosteroidal vitamin D receptor (VDR) ligands without any asymmetric carbon

T. Misawa,* G. Tsuji, T. Takahashi, E. Ochiai, K. Takagi, K. Horie, S. Kakuda, M. Takimoto-Kamimura, M. Kurihara,* **Y. Demizu***

Bioorg. Med. Chem., 26, 6146-6152 (2018).

124. Design and synthesis of cell-permeable fluorescent nitrilotriacetic acid derivatives

G. Tsuji,* T. Hattori, M. Kato, W. Hakamata, H. Inoue, M. Naito, M. Kurihara, **Y. Demizu**, T. Shoda*

Bioorg. Med. Chem., 26, 5494-5498 (2018).

125. The extent of helical induction caused by introducing α -aminoisobutyric acid into an oligovaline sequence

G. Tsuji, T. Misawa, M. Doi, **Y. Demizu***

ACS Omega, 3, 6395-6399 (2018).

126. Structural development of cell-penetrating peptides containing cationic proline derivatives

H. Kobayashi, T. Misawa,* M. Oba, N. Hirata, Y. Kanda, M. Tanaka, K. Matsuno, **Y. Demizu***

Chem. Pharm. Bull., 66, 575-580 (2018).

Highlighted Paper selected by Editor-in-Chief

127. Design and synthesis of estrogen receptor ligands with a 4-heterocycle-4-phenylheptane skeleton

R. Eto, T. Misawa,* N. Ohoka, M. Kurihara, M. Naito, M. Tanaka, **Y. Demizu***

Bioorg. Med. Chem., 26, 1638-1642 (2018).

128. Development of a small hybrid molecule that mediates degradation of His tag-fused proteins

K. Okitsu, T. Hattori, T. Misawa, T. Shoda, M. Kurihara, M. Naito,* **Y. Demizu***

J. Med. Chem., 61, 576-582 (2018).

2017

129. Rational design and synthesis of post-functionalizable peptide foldamers as helical templates

T. Misawa,* Y. Kanda, **Y. Demizu***

Bioconjug. Chem., 28, 3029-3035 (2017).

130. Right-handed and left-handed helical structures with fourteen (*R*)-chiral centers
R. Eto, M. Oba, A. Ueda, T. Uku, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Tanaka*
Chem. Eur. J., 23, 18120-18124 (2017).
<Selected as Supplementary Cover>
131. Preorganized cyclic α,α -disubstituted α -amino acids bearing functionalized side chains that act as peptide-helix inducers
H. Kobayashi, T. Misawa, K. Matsuno, **Y. Demizu***
J. Org. Chem., 82, 10722-10726 (2017).
132. Development of a peptide-based inducer of protein degradation targeting NOTCH1
N. Ohoka,[#] T. Misawa,[#] M. Kurihara, **Y. Demizu**,* M. Naito*
#These authors contributed equally to this work.
Bioorg. Med. Chem. Lett., 27, 4985-4988 (2017).
133. Simple and efficient knockdown of His-tagged proteins by ternary molecules consist of His-tag ligand, ubiquitin ligase ligand and cell penetrating peptide
T. Hattori, K. Okitsu, N. Yamazaki, N. Ohoka, N. Shibata, T. Misawa, M. Kurihara, **Y. Demizu**,* M. Naito*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 27, 4478-4481 (2017).
134. Development of helix-stabilized antimicrobial peptides composed of lysine and hydrophobic α,α -disubstituted α -amino acid residues
T. Misawa, M. Imamura, Y. Ozawa, K. Haishima, M. Kurihara, Y. Kikuchi,* **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem. Lett., 27, 3950-3953 (2017).
135. PNA monomers fully compatible with standard Fmoc-based solid-phase synthesis of pseudocomplementary PNA
T. Sugiyama,* G. Hasegawa, C. Niikura, K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, A. Kittaka*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 27, 3337-3341 (2017).
136. Low pH-responsive change in side chain structure of an amino acid from cyclic acetal to acyclic diol leads to conformational change in a peptide from a helical to random structure
K. Furukawa, M. Oba,* K. Toyama, G. O. Opiyo, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Doi, M. Tanaka*
Org. Biomol. Chem., 15, 6302-6305 (2017).
137. Helical L-Leu-based peptides having chiral five-membered carbocyclic ring amino acids with an ethylene acetal moiety

- Y. Koba, A. Ueda, M. Oba, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Tanaka*
ChemistrySelect, 2, 8108-8114 (2017).
138. Development of an ON/OFF switchable fluorescent probe targeting His tag fused proteins in living cells
K. Okitsu, T. Misawa,* T. Shoda, M. Kurihara, **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem. Lett., 27, 3417-3422 (2017).
139. Efficient synthesis of a multi-substituted diphenylmethane skeleton as a steroid mimetic
T. Misawa,* K. Tanaka, **Y. Demizu**, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 27, 2590-2593 (2017).
140. Tamoxifen and fulvestrant hybrid showed potency as a selective estrogen receptor down-regulator
T. Shoda,* M. Kato, T. Fujisato, **Y. Demizu**, H. Inoue, M. Naito, M. Kurihara*
Med. Chem. (Bentham), 13, 206-213 (2017).
141. Development of non-secosteroidal vitamin D receptor (VDR) ligands bearing a long alkyl chain
T. Misawa,* **Y. Demizu**, T. Yachide, N. Ohoka, H. Nojiri, A. Kittaka, M. Makishima, M. Naito, M. Kurihara*
Bitamin, 91, 113-120 (2017).
142. Development of helix-stabilized cell-penetrating peptides containing cationic α,α -disubstituted amino acids as helical promoters
H. Yamashita, T. Misawa, M. Oba, M. Tanaka, M. Naito, M. Kurihara,* **Y. Demizu***
Bioorg. Med. Chem., 25, 1846-1851 (2017).
143. Targeted degradation of proteins localized in subcellular compartments by hybrid small molecules
K. Okuhira, T. Shoda, R. Omura, N. Ohoka, T. Hattori, N. Shibata, **Y. Demizu**, R. Sugihara, A. Ichino, H. Kawahara, Y. Ito, M. Ishikawa, Y. Hashimoto, M. Kurihara, S. Itoh, H. Saito, M. Naito*
Mol. Pharmacol., 91, 159-166 (2017).
144. Design and synthesis of novel selective estrogen receptor degradation inducers based on diphenylheptane skeleton
T. Misawa,* T. Fujisato, Y. Kanda, N. Ohoka, T. Shoda, M. Yorioka, M. Makishima, Y. Sekino, M. Naito, **Y. Demizu**, M. Kurihara*
MedChemComm, 8, 239-246 (2017).

145. Influence of L-Leu to D-Leu replacement on the helical secondary structures of L-Leu-Aib-based dodecapeptides
Y. Demizu,* K. Okitsu, M. Doi, T. Misawa, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara*
ChemistrySelect, 1, 5805-5811 (2016).
146. Development of BCR-ABL degradation inducers via the conjugation of an imatinib derivative and a cIAP1 ligand
Y. Demizu,^{#,*} N. Shibata,[#] T. Hattori, N. Ohoka, H. Motoi, T. Misawa, T. Shoda, M. Naito,* M. Kurihara*
These authors contributed equally to this work.
Bioorg. Med. Chem. Lett., 26, 4865-4869 (2016).
147. Helical structures of homo-chiral isotope-labeled α -aminoisobutyric acid peptides
A. Ueda, M. Oba, Y. Izumi, Y. Sueyoshi, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Tanaka*
Tetrahedron, 39, 5864-5871 (2016).
148. Development of a cell-penetrating peptide that exhibits responsive changes in its secondary structure in the cellular environment
H. Yamashita, T. Kato, M. Oba, T. Misawa, T. Hattori, N. Ohoka, M. Tanaka, M. Naito, M. Kurihara,* **Y. Demizu***
Sci. Rep., 6, 33003, DOI:10.1038/srep33003 (2016).
149. The side-chain hydroxy groups of a cyclic α,α -disubstituted α -amino acid promote oligopeptide helix packing in the crystalline state
Y. Demizu,* M. Doi, H. Yamashita, T. Misawa, M. Oba, M. Kurihara, H. Suemune, M. Tanaka
Biopolymers (Pept. Sci.), 106, 757-768 (2016).
150. Identification of embryonic precursor cells that differentiate into thymic epithelial cells expressing autoimmune regulator
N. Akiyama, N. Takizawa, M. Miyauchi, H. Yanai, R. Tateishi, M. Shinzawa, R. Yoshinaga, M. Kurihara, **Y. Demizu**, H. Yasuda, S. Yagi, G. Wu, M. Matsumoto, R. Sakamoto, N. Yoshida, J. M. Penninger, Y. Kobayashi, J. Inoue, T. Akiyama*
J. Exp. Med., 213, 1441-1458 (2016).
151. Synthesis of chiral five-membered ring amino acids with an acetal moiety and helical conformations of its homo-chiral homopeptides
Y. Koba, Y. Hirata, A. Ueda, M. Oba, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Tanaka*
Biopolymers (Pept. Sci.), 106, 555-562 (2016).

152. Peptide nucleic acid with a lysine side chain at the β -position: synthesis and application for DNA cleavage
T. Sugiyama,* K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Chem. Pharm. Bull., 64, 817-823 (2016).
153. Synthesis and evaluation of raloxifene derivatives as a selective estrogen receptor down-regulator
T. Shoda,* M. Kato, T. Fujisato, T. Misawa, **Y. Demizu**, H. Inoue, M. Naito, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem., 24, 2914-2919 (2016).
154. α -Helical structures of oligopeptides with alternating L-Leu-Aib segment
Y. Demizu,* K. Okitsu, H. Yamashita, M. Doi, T. Misawa, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara*
Eur. J. Org. Chem., 2815-2820 (2016).
155. Plasmid DNA delivery using arginine-rich cell-penetrating peptides containing unnatural amino acids
T. Kato, H. Yamashita, T. Misawa, K. Nishida, M. Kurihara, M. Tanaka, **Y. Demizu**,* M. Oba*
Bioorg. Med. Chem., 24, 2681-2687 (2016).
156. Development of peptide-based nuclear receptors degradation inducer
Y. Demizu,* N. Ohoka, T. Nagakubo, H. Yamashita, T. Misawa, K. Okuhira, M. Naito, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 26, 2655-2658 (2016).
157. 1,4-Bis[(*N*-acetyl-L-phenylalanyl-glycyl-L-alanyl)aminomethyl]benzene
Y. Demizu,* K. Tsutsui, T. Misawa, M. Kurihara*
Molbank, doi:10.3390/M893 (2016).
158. Handedness preferences of heterochiral helical peptides containing homochiral peptide segments
Y. Demizu,* H. Yamashita, T. Misawa, M. Doi, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara*
Eur. J. Org. Chem., 840-846 (2016).
159. A helix-stabilized cell-penetrating peptide as an intracellular-delivery tool
H. Yamashita, M. Oba, T. Misawa, M. Tanaka, T. Hattori, M. Naito, M. Kurihara,* **Y. Demizu***
ChemBioChem, 17, 137-140 (2016).
<Selected as Front Cover >

160. Induction of proteasomal degradation of ER α and subsequent cell death in breast cancer cells
K. Okuhira, **Y. Demizu**, T. Hattori, N. Ohoka, N. Shibata, T. Nishimaki-Mogami, H. Okuda, M. Kurihara, M. Naito*
Methods Mol. Biol., 1366, 549-560 (2016).

2015

161. Effects of alkyl side chains and terminal hydrophilicity on vitamin D receptor (VDR) agonistic activity based on the diphenylpentane skeleton
T. Misawa, M. Yorioka, **Y. Demizu**, T. Noguchi-Yachide, N. Ohoka, M. Kurashima-Kinoshita, H. Motoyoshi, H. Nojiri, A. Kittaka, M. Makishima, M. Naito, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 25, 5362-5366 (2015).
162. Topological study of the structures of heterochiral peptides with equal amounts of L-Leu and D-Leu
Y. Demizu,* H. Yamashita, M. Doi, T. Misawa, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara*
J. Org. Chem., 80, 8597-8603 (2015).
163. A synthetic cannabinoid FDU-NNEI, two 2*H*-indazole isomers of synthetic cannabinoids AB-CHMINACA and NNEI indazole analog (MN-18), a phenethylamine derivative *N*-OH-EDMA, and a cathinone derivative dimethoxy- α -PHP, newly identified in illegal products
N. Uchiyama,* Y. Shimokawa, R. Kikura-Hanajiri, **Y. Demizu**, Y. Goda, T. Hakamatsuka
Forensic Toxicol., 33, 244-259 (2015).
164. Synthesis, evaluation, and molecular docking studies of novel carbocyclic oxetanocin A (COA-Cl) derivatives as potential tube formation agents
N. Sakakibara,* J. Igarashi, M. Takata, **Y. Demizu**, T. Misawa, M. Kurihara, R. Konishi, Y. Kato, T. Maruyama, I. Tsukamoto
Chem. Pharm. Bull., 63, 701-709 (2015).
165. Design, synthesis, and anti-HIV-1 activity of 1-substituted 3-(3,5-dimethylbenzyl)triazine derivatives
N. Sakakibara,* G. Balboni, C. Congiu, V. Onnis, **Y. Demizu**, T. Misawa, M. Kurihara, Y. Kato, T. Maruyama, M. Toyama, M. Okamoto, M. Baba
Antiviral Chem. Chemother., 24, 62-71 (2015).
166. Plasmid DNA delivery using fluorescein-labeled arginine-rich peptides
M. Oba,* **Y. Demizu**, H. Yamashita, M. Kurihara, M. Tanaka
Bioorg. Med. Chem., 23, 4911-4918 (2015).

167. Structural development of stabilized helical peptides as inhibitors of estrogen receptor (ER)-mediated transcription
Y. Demizu*, T. Misawa, T. Nagakubo, Y. Kanda, K. Okuhira, Y. Sekino, M. Naito, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem., 23, 4132-4138 (2015).
168. Synthesis and resolution of substituted [5]carbohelicenes
K. Usui,* K. Yamamoto, T. Shimizu, M. Okazumi, B. Mei, **Y. Demizu**, M. Kurihara, H. Suemune*
J. Org. Chem., 80, 6502-6508 (2015).
169. Synthesis and evaluation of tamoxifen derivatives with a long alkyl side chain as selective estrogen receptor down-regulators
T. Shoda,* M. Kato, T. Fujisato, K. Okuhira, **Y. Demizu**, H. Inoue, M. Naito, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem., 23, 3091-3096 (2015).
170. A preorganized β -amino acid bearing a guanidinium side chain and its use in cell-penetrating peptides
Y. Demizu*, M. Oba, K. Okitsu, H. Yamashita, T. Misawa, M. Tanaka, M. Kurihara, S. H. Gellman
Org. Biomol. Chem., 13, 5617-5620 (2015).
171. Methyl 2-[(2-aminophenyl)ethynyl]benzoate and 2-[(2-acetamidophenyl)ethynyl]benzoic acid
Y. Demizu*, T. Misawa, N. Yamagata, M. Doi, M. Kurihara*
Molbank, M854, doi:10.3390/M854 (2015).
172. Peptide foldamers composed of six-membered ring α,α -disubstituted α -amino acid with two changeable chiral acetal moieties
K. Tanda, R. Eto, K. Kato, M. Oba, A. Ueda, H. Suemune, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Tanaka*
Tetrahedron, 71, 3909-3914 (2015).
173. Amino equatorial effect of a six-membered ring amino acid on its peptide 3_{10} - and α -helices
T. Hirata, A. Ueda, M. Oba, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Nagano, H. Suemune, M. Tanaka*
Tetrahedron, 71, 2409-2420 (2015).
174. Synthesis of a bis-cationic α,α -disubstituted amino acid (9-amino-bispidine-9-carboxylic acid) and its effects on the conformational properties of peptides
H. Yamashita, **Y. Demizu***, T. Misawa, T. Shoda, M. Kurihara*

- Tetrahedron*, 71, 2241-2245 (2015).
175. Structural development of stapled short helical peptides as vitamin D receptor (VDR)-coactivator interaction inhibitors
T. Misawa, **Y. Demizu***, M. Kawamura, N. Yamagata, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem., 23, 1055-1061 (2015).
176. Effects of D-Leu residues on the helical secondary structures of L-Leu-based nonapeptides
Y. Demizu*, H. Yamashita, T. Misawa, M. Doi, M. Tanaka, M. Kurihara*
Chem. Pharm. Bull., 63, 218-224 (2015).
177. Design, synthesis and anti-HIV-1 activity of 1-aromatic methyl-substituted 3-(3,5-dimethylbenzyl)uracil and N-3,5-dimethylbenzyl-substituted urea derivatives
N. Sakakibara,* M. Baba, M. Okamoto, M. Toyama, **Y. Demizu**, T. Misawa, M. Kurihara, K. Irie, Y. Kato, T. Maruyama
Antiviral Chem. Chemother., 24, 3-18 (2015).
- 2014**
178. Development of cell-penetrating R7 fragment-conjugated helical peptides as inhibitors of estrogen receptor-mediated transcription
T. Nagakubo, **Y. Demizu***, Y. Kanda, T. Misawa, T. Shoda, K. Okuhira, Y. Sekino, M. Naito, M. Kurihara*
Bioconjug. Chem., 25, 1921-1924 (2014).
179. 短鎖ペプチドのヘリカル構造制御と機能化
出水庸介*, 三澤隆史, 栗原正明*
有機合成化学協会誌, 72, 1336-1347 (2014).
180. Conformational studies on peptides having chiral five-membered ring amino acid with two azido or triazole functional groups within the sequence of Aib residues
M. Oba,* N. Kawabe, H. Takazaki, **Y. Demizu**, M. Doi, M. Kurihara, H. Suemune, M. Tanaka*
Tetrahedron, 70, 8900-8907 (2014).
181. Helical peptide-foldamers having chiral five-membered ring amino acid with two azido functional groups
M. Oba, H. Takazaki, N. Kawabe, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, H. Kawakubo, M. Nagano, H. Suemune, M. Tanaka*
J. Org. Chem., 79, 9125-9140 (2014).
182. NAD-dependent isocitrate dehydrogenase as a novel target of tributyltin in human embryonic carcinoma cells
S. Yamada, Y. Kotake, **Y. Demizu**, M. Kurihara, Y. Sekino, Y. Kanda*

- Sci. Rep.*, 4, 5952, DOI:10.1038/srep05952 (2014).
183. Amphipathic short helix-stabilized peptides with cell-membrane penetration
H. Yamashita, **Y. Demizu**,* T. Shoda, Y. Sato, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem., 22, 2403-2408 (2014).
184. Design and synthesis of a tamoxifen derivative of selective estrogen receptor
down-regulator
T. Shoda,* K. Okuhira, M. Kato, **Y. Demizu**, H. Inoue, M. Naito, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 24, 87-89 (2014).
185. Isoheleproline: a new amino acid-sesquiterpene adduct from *Inula helenium*
K. Zaima, D. Wakana, **Y. Demizu**, Y. Kumeta, H. Kamakura, T. Maruyama, M.
Kurihara, Y. Goda*
J. Nat. Med., 68, 432-435 (2014).
- 2013**
186. Oligopeptides with equal amounts of L- and D-amino acids may prefer a helix
screw sense
Y. Demizu,* H. Yamashita, N. Yamazaki, Y. Sato, M. Doi, M. Tanaka, M. Kurihara*
J. Org. Chem., 78, 12106-12113 (2013).
187. Helical oligomer with changeable chiral acetal moiety
M. Oba, N. Ishikawa, **Y. Demizu**, M. Kurihara, H. Suemune, M. Tanaka*
Eur. J. Org. Chem., 7679-7682 (2013).
188. Development of hybrid small molecules that induce degradation of estrogen
receptor-alpha and necrotic cell death in breast cancer cells
K. Okuhira, **Y. Demizu**, T. Hattori, N. Ohoka, N. Shibata, T. Nishimaki-Mogami, H.
Okuda, M. Kurihara, M. Naito*
Cancer Science, 104, 1492-1498 (2013).
189. Helical foldamer containing a combination of cyclopentane-1,2-diamine and 2,2-
dimethylmalonic acid
N. Yamazaki, **Y. Demizu**,* Y. Sato, M. Doi, M. Kurihara*
J. Org. Chem., 78, 9991-9994 (2013).
190. Development of stapled short helical peptides capable of inhibiting vitamin D
receptor (VDR)-coactivator interactions
Y. Demizu,* S. Nagoya, M. Shirakawa, M. Kawamura, N. Yamagata, Y. Sato, M. Doi,
M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 23, 4292-4296 (2013).
191. Synthesis and evaluation of novel 3-(3,5-dimethylbenzyl)uracil analogs as
potential anti-HIV-1 agents

N. Sakakibara,* T. Hamasaki, M. Baba, **Y. Demizu**, M. Kurihara, K. Irie, M. Iwai, E. Asada, Y. Kato, T. Maruyama
Bioorg. Med. Chem., 21, 5900-5906 (2013).

2012

192. Twisted structure of a cyclic hexapeptide containing a combination of alternating L-Leu-D-Leu-Aib segments
Y. Demizu*, S. Nagoya, M. Doi, Y. Sato, M. Tanaka, M. Kurihara*
J. Org. Chem., 77, 9361-9365 (2012).
193. Helical structures of bicyclic α -amino acid homo-chiral oligomers with the chiral centers at the side-chain fused-ring junctions
K. Anan, **Y. Demizu**, M. Oba, M. Kurihara, M. Doi, H. Suemune, M. Tanaka*
Helv. Chim. Acta, 95, 1694-1713 (2012).
194. Conformations of helical Aib peptides containing a pair of L- and D-amino acids
Y. Demizu*, Y. Yabuki, M. Doi, Y. Sato, M. Tanaka, M. Kurihara*
J. Pept. Sci., 18, 466-475 (2012).
195. Design and synthesis of estrogen receptor degradation inducer based on a protein knockdown strategy
Y. Demizu, K. Okuhira, H. Motoi, A. Ohno, T. Shoda, K. Fukuhara, H. Okuda, M. Naito*, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem. Lett., 22, 1793-1796 (2012).
196. Monoallylation of 1,2-diols by Pd/Sn bimetallic catalysis
M. Kuriyama, T. Takeuchi, M. Ito, N. Yamasaki, R. Yamamura, **Y. Demizu**, O. Onomura*
Chem. Eur. J., 18, 2477-2480 (2012).
197. One-handed helical-screw direction of homopeptide-foldamer exclusively induced by cyclic α -amino acid side-chain chiral centers
Y. Demizu, M. Doi, M. Kurihara, T. Maruyama, H. Suemune, M. Tanaka*
Chem. Eur. J., 18, 2430-2439 (2012).
198. Solid-phase nucleophilic fluorination
Y. Demizu, K. Sano, N. Terayama, W. Hakamata, Y. Sato, H. Inoue, H. Okuda, M. Kurihara*
Synth. Commun., 42, 1724-1730 (2012).

2011

199. β -PNA: Peptide nucleic acid (PNA) with a chiral center at the β -position of the PNA backbone

- T. Sugiyama*, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Bioorg. Med. Chem. Lett., *21*, 7317-7320 (2011).
200. Design, synthesis and X-ray crystallographic study of new nonsecosteroidal vitamin D receptor ligands
Y. Demizu, T. Takahashi, F. Kaneko, Y. Sato, H. Okuda, E. Ochiai, K. Horie, K. Takagi, S. Kakuda, M. Takimoto-Kamimura, M. Kurihara*
Bioorg. Med. Chem. Lett., *21*, 6104-6107 (2011).
201. Screw-sense control of helical oligopeptides containing equal amounts of L- and D-amino acids
Y. Demizu*, M. Doi, Y. Sato, M. Tanaka, H. Okuda, M. Kurihara*
Chem. Eur. J., *17*, 11107-11109 (2011).
202. Identification of mutdenafil in a dietary supplement and its subsequent synthesis
Y. Demizu[#], D. Wakana[#], H. Kamakura, M. Kurihara, H. Okuda, Y. Goda*
These authors contributed equally to this work.
Chem. Pharm. Bull., *59*, 1314-1316 (2011).
203. Enantioselective epoxidation of α,β -unsaturated ketones catalyzed by stapled helical peptides
Y. Demizu*, N. Yamagata, S. Nagoya, Y. Sato, M. Doi, M. Tanaka, K. Nagasawa, H. Okuda, M. Kurihara*
Tetrahedron, *67*, 6155-6165 (2011).
204. Effect of one D-Leu residue on right-handed helical -L-Leu-Aib- peptides in the crystal state
Y. Demizu*, M. Doi, Y. Sato, M. Tanaka, H. Okuda, M. Kurihara*
J. Pept. Sci., *17*, 420-426 (2011).
205. Conformational studies on peptides containing α,α -disubstituted α -amino acids: chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acid as an α -helical inducer
Y. Demizu*, M. Doi, M. Kurihara, H. Okuda, M. Nagano, H. Suemune, M. Tanaka*
Org. Biomol. Chem., *9*, 3303-3312 (2011).
206. Design of a stabilized short helical peptide and its application to catalytic enantioselective epoxidation of (*E*)-chalcone
N. Yamagata, **Y. Demizu***, Y. Sato, M. Doi, M. Tanaka, K. Nagasawa, H. Okuda, M. Kurihara*
Tetrahedron Lett., *52*, 798-801 (2011).

207. Facile synthesis of stereoisomers of the non-secosteroidal ligand LG190178 and their evaluation using the mutant vitamin D receptor
Y. Demizu*, A. Nakatsu, S. Honzawa, A. Yamashita, T. Sugiura, A. Kittaka, S. Kato, H. Okuda, M. Kurihara*
Lett. Org. Chem., 8, 43-47 (2011).

2010

208. Three-dimensional structural control of diastereomeric Leu-Leu-Aib-Leu-Leu-Aib sequences in the solid state
Y. Demizu*, M. Doi, Y. Sato, M. Tanaka, H. Okuda, M. Kurihara*
J. Org. Chem., 75, 5234-5239 (2010).
209. Conformations of peptides containing a chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acid within the sequence of Aib residues
Y. Demizu*, M. Tanaka*, M. Doi, M. Kurihara, H. Okuda, H. Suemune
J. Pept. Sci., 16, 621-626 (2010).
210. Solid-state conformation of diastereomeric -Pro-Pro-(Aib)₄ sequences
M. Oba, **Y. Demizu***, N. Yamagata, Y. Sato, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune, H. Okuda, M. Kurihara*
Tetrahedron, 66, 2293-2296 (2010).
211. Controlling the helical screw sense of peptides with C-terminal L-valine
Y. Demizu*, N. Yamagata, Y. Sato, M. Doi, M. Tanaka, H. Okuda, M. Kurihara*
J. Pept. Sci., 16, 153-158 (2010).
212. Facile synthesis of optically active oxindoles by copper-catalyzed asymmetric monotosylation of prochiral 1,3-diols
M. Kuriyama, S. Tanigawa, Y. Kubo, **Y. Demizu**, O. Onomura*
Tetrahedron: Asymmetry, 21, 1370-1373 (2010).

2009

213. Non-enzymatic kinetic resolution of racemic α -hydroxyalkanephosphonates with chiral copper catalyst
Y. Demizu, A. Moriyama, O. Onomura
Tetrahedron Lett., 50, 5241-5244 (2009).
<Highlighted by Synfacts 1126 (2009)>
214. Helical-screw directions of diastereoisomeric cyclic α -amino acid oligomers
M. Nagano, M. Tanaka, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, H. Suemune
Org. Lett., 11, 1135-1137 (2009).

215. Direct electrochemical α -cyanation of *N*-protected cyclic amines
S. S. Libendi, **Y. Demizu**, O. Onomura
Org. Biomol. Chem., 7, 351-356 (2009).
216. Ring contraction of α,β -unsaturated cyclic amines with *cis*-dihydroxylation at the α,β -position
S. S. Libendi, **Y. Demizu**, Y. Matsumura, O. Onomura
Heterocycles, 77, 311-321 (2009).

2008

217. Convenient synthesis of enantiomerically enriched bicyclic proline and the corresponding *N*-oxyls
Y. Demizu, H. Shiigi, H. Mori, K. Matsumoto, O. Onomura
Tetrahedron: Asymmetry, 19, 2659-2665 (2008).
218. Efficient kinetic resolution of *racemic*-aminoaldehydes by oxidation with NIS
D. Minato, Y. Nagasue, **Y. Demizu**, O. Onomura
Angew. Chem. Int. Ed., 47, 9458-9461 (2008).
219. Oxidative C-C bond cleavage of *N*-alkoxycarbonylated cyclic amines by sodium nitrite in trifluoroacetic acid
O. Onomura, A. Moriyama, K. Fukae, Y. Yamamoto, T. Maki, Y. Matsumura, **Y. Demizu**
Tetrahedron Lett., 49, 6728-6731 (2008).
220. Regioselective protection of sugars catalyzed by dimethyltin dichloride
Y. Demizu, Y. Kubo, H. Miyoshi, T. Maki, Y. Matsumura, N. Moriyama, O. Onomura
Org. Lett., 10, 5075-5077 (2008).
221. Regioselective introduction of electrophiles into piperidine derivatives at the 4-position
O. Onomura, N. Fujimura, T. Oda, Y. Matsumura, **Y. Demizu**
Heterocycles, 76, 177-182 (2008).
222. Chiral azabicyclo-*N*-oxyls mediated enantioselective electrooxidation of *sec*-alcohols
H. Shiigi, H. Mori, T. Tanaka, **Y. Demizu**, O. Onomura
Tetrahedron Lett., 49, 5247-5251 (2008).
223. Diastereoselective arylation of L-proline derivatives at the 5-position

- O. Onomura, P. G. Kirira, T. Tanaka, S. Tsukada, Y. Matsumura, **Y. Demizu**
Tetrahedron, 64, 7498-7503 (2008).
224. Asymmetric electrochemical oxidation of 1,2-diols, aminoalcohols and aminoaldehydes in the presence of chiral copper catalyst
D. Minato, H. Arimoto, Y. Nagasue, **Y. Demizu**, O. Onomura
Tetrahedron, 64, 6675-6683 (2008).
225. High regioselective in electrochemical α -methoxylation of *N*-protected cyclic amines
S. S. Libendi, **Y. Demizu**, Y. Matsumura, O. Onomura
Tetrahedron, 64, 3935-3942 (2008).
226. Non-enzymatic kinetic resolution of 3-hydroxyalkanamides with chiral copper catalyst
Y. Demizu, Y. Kubo, Y. Matsumura, O. Onomura
Synlett, 433-437 (2008).
227. Efficient oxidation of alcohols electrochemically mediated by azabicyclo-*N*-oxyls
Y. Demizu, H. Shiigi, T. Oda, Y. Matsumura, O. Onomura
Tetrahedron Lett., 49, 48-52 (2008).
- 2007**
228. Asymmetric tosylation of *racemic* 2-hydroxyalkanamides with chiral copper catalyst
O. Onomura, M. Mitsuda, T. T. M. Nguyen, **Y. Demizu**
Tetrahedron Lett., 48, 9080-9084 (2007).
229. Asymmetric oxidation of 1,2-diols using *N*-bromosuccinimide in the presence of chiral copper catalyst
O. Onomura, H. Arimoto, Y. Matsumura, **Y. Demizu**
Tetrahedron Lett., 48, 8668-8672 (2007).
<Highlighted by Synfacts 276 (2008)>
230. Copper complex catalyzed asymmetric monosulfonylation of *meso-vic*-diols
Y. Demizu, K. Matsumoto, O. Onomura, Y. Matsumura
Tetrahedron Lett., 48, 7605-7609 (2007).

231. Lipase-catalyzed kinetic resolution of cyclic trans-1,2-diols bearing a diester moiety: Synthetic application to chiral seven-membered ring α,α -disubstituted α -amino acid
M. Tanaka, **Y. Demizu**, M. Nagano, M. Hama, Y. Yoshida, M. Kurihara, H. Suemune
J. Org. Chem., 72, 7750-7756 (2007).
<Hot off the press in Nat. Prod. Rep., 24, 1207-1210 (2008)>
232. Antiviral activity of 3-(3,5-dimethylbenzyl)uracil derivatives against HIV-1 and HCMV
T. Maruyama, **Y. Demizu**, S. Kozai, M. Witvrouw, C. Pannecouque, P. J. Balzarini, R. Snoecks, G. Andrei, E. De Clercq
Nucleosides, Nucleotides & Nucleic Acids, 26, 1553-1558 (2007).
233. Controlling 3_{10} -helix and α -helix of short peptides in the solid state
Y. Demizu, M. Tanaka, M. Nagano, M. Kurihara, M. Doi, T. Maruyama, H. Suemune
Chem. Pharm. Bull., 55, 840-842 (2007).
234. 1, 2-ジオール分子認識に基づく選択的分子変換反応
松村功啓, 尾野村治, **出水庸介**
有機合成化学協会誌, 第65巻, 46-55 (2007) .

2006

235. Asymmetric desymmetrization of *meso-vic*-diols by carbamoylation catalyzed with a chiral Cu(II) complex
K. Matsumoto, M. Mitsuda, N. Ushijima, **Y. Demizu**, O. Onomura, Y. Matsumura
Tetrahedron Lett., 47, 8453-8456 (2006).
<Selected as Front Cover>
236. Kinetic resolution of *vic*-amino alcohols catalyzed by a chiral Cu(II) complex
M. Mitsuda, T. Tanaka, T. Tanaka, **Y. Demizu**, O. Onomura, Y. Matsumura
Tetrahedron Lett., 47, 8073-8077 (2006).
237. Electrochemical oxidation of L-prolinol derivative protected with 1-alkoxy-2,2,2-trifluoroethyl group
O. Onomura, Y. Ishida, T. Maki, D. Minato, **Y. Demizu**, Y. Matsumura
Electrochemistry, 74, 645-648 (2006).
238. Synthesis of 6-arylthio analogs of 2',3'-dideoxy-3'-fluoroguanosine and their effect against hepatitis B virus replication
T. Torii, T. Onishi, K. Izawa, T. Maruyama, **Y. Demizu**, J. Neyts, E. De Clercq
Nucleosides, Nucleotides & Nucleic Acids, 25, 655-665 (2006).

239. Synthesis and anti-HIV-1 and anti-HCMV activity of 1-substituted 3-(3,5-dimethylbenzyl)uracil derivatives
T. Maruyama, S. Kozai, **Y. Demizu**, M. Witvrouw, C. Pannecouque, J. Balzarini, R. Snoecks, G. Andrei, E. De Clercq
Chem. Pharm. Bull., 54, 325-333 (2006).

2005

240. Reaction of O6-methyl-guanosine with nitrite in the presence of carboxylic acid: synthesis of the purin-2-yl carboxylate
T. Maruyama, N. Moriwaka, **Y. Demizu**, M. Ohtsuka
Tetrahedron Lett., 46, 8225-8228 (2005).
241. Side-chain chiral centers of amino acid and helical-screw handedness of its peptides
M. Tanaka, K. Anan, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Doi, H. Suemune
J. Am. Chem. Soc., 127, 11570-11571 (2005).

2004

242. Chiral centers in the side chains of α -amino acids control the helical screw sense of peptides
M. Tanaka, **Y. Demizu**, M. Doi, M. Kurihara, H. Suemune
Angew. Chem. Int. Ed., 43, 5360-5363 (2004).
<Selected as VIP & Front Cover>
243. Asymmetric ring cleavage reaction with a combination of optically active cycloalkane-1,2-diol and Lewis acid: application to formal synthesis of (-)-alloyohimbane and approach to construction of adjacent chiral quaternary centers
M. Tanaka, E. Toyofuku, **Y. Demizu**, O. Yoshida, K. Nakazawa, K. Sakai, H. Suemune
Tetrahedron, 60, 2271-2281 (2004).

2003

244. An extended planar C₅ conformation and a 3₁₀-helical structure of peptide foldamer composed of diverse α -ethylated α,α -disubstituted α -amino acids
M. Tanaka, S. Nishimura, M. Oba, **Y. Demizu**, M. Kurihara, H. Suemune
Chem. Eur. J., 9, 3082-3090 (2003).

Proceedings

1. Synthesis of dicationic cytosine derivative for peptide nucleic acid

- S. Moriya, M. Yonezu, Y. Kondo, **Y. Demizu**, M. Kurihara, A. Kittaka, T. Sugiyama*
Peptide Science 2022, 87-88 (2023).
2. Intracellular plasmid DNA delivery using helical template conjugated oligoarginine
H. Yokoo, T. Misawa, T. Kato, M. Tanaka, **Y. Demizu**, M. Oba*
Peptide Science 2022, 77-78 (2023).
 3. PreQ₁ facilitates DNA strand invasion by PNA
S. Moriya, Y. Yoneta, K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, A. Kittaka,
T. Sugiyama*
Peptide Science 2021, 111-112 (2022).
 4. An approach toward visual detection of single nucleotide polymorphism using
pseudocomplementary peptidenucleic acid
S. Moriya, Y. Sasa, K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, A. Kittaka, T.
Sugiyama*
Peptide Science 2019, 173-174 (2020).
 5. Development of cationic cell-penetrating peptides focused on their secondary
structures
H. Kobayashi, T. Misawa, M. Oba, M. Tanaka, M. Naito, K. Matsuno, **Y. Demizu***
Peptide Science 2017, 98-99 (2018).
 6. Development of post functionalizable foldamers as helical template
T. Misawa,* **Y. Demizu***
Peptide Science 2017, 100-101 (2018).
 7. Peptide nucleic acid possessing PreQ₁ as a cationic analogue of guanine
T. Sugiyama,* M. Kohara, K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, A.
Kittaka
Peptide Science 2017, 192-193 (2018).
 8. Development of helix-stabilized amphipathic cell-penetrating peptide using helical
promoter
T. Misawa,* **Y. Demizu**, H. Yamashita, T. Kato, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara
Peptide Science 2016, 11-12 (2017).
 9. Development of helical peptides as inhibitors of estrogen receptor-mediated
transcription
Y. Demizu,* T. Misawa, Y. Kanda, N. Ohoka, Y. Sekino, M. Naito, M. Kurihara
Peptide Science 2015, 283-284 (2016).
 10. Design and synthesis of short helical peptides as vitamin D receptor (VDR)-
coactivator interaction inhibitors
T. Misawa,* **Y. Demizu**, M. Kurihara

- Peptide Science 2015*, 209-210 (2016).
11. Development of helix-stabilized cationic peptides with cell-membrane penetrating ability
H. Yamashita, **Y. Demizu**,* T. Misawa, T. Hattori, M. Oba, M. Tanaka, M. Naito, M. Kurihara*
Peptide Science 2015, 29-30 (2016).
 12. Conformational analysis of peptides composed of chiral cyclic amino acids
Y. Koba, A. Ueda, M. Oba, M. Doi, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Tanaka
Peptide Science 2015, 145-146 (2016).
 13. Synthesis of PNA oligomers containing modified deazaguanines for the development of functional PNA
T. Sugiyama,* K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Peptide Science 2015, 307-308 (2016).
 14. Development of stabilized short helical peptides and their functionalization
Y. Demizu*
Peptide Science 2014, 7-10 (2015).
 15. Sequence-specific cleavage of DNA by β -peptide nucleic acid bearing a pendant metal complex
T. Sugiyama,* K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Peptide Science 2014, 87-88 (2015).
 16. Development of stabilized short helical peptides with cell-membrane penetrating ability
H. Yamashita, **Y. Demizu**,* T. Misawa, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara*
Peptide Science 2014, 149-150 (2015).
 17. Development of cell-permeable peptide for transcriptional inhibitor of estrogen receptor
T. Nagakubo, **Y. Demizu**,* T. Misawa, Y. Sato, Y. Kanda, K. Okuhira, Y. Sekino, M. Naito, M. Kurihara*
Peptide Science 2014, 155-156 (2015).
 18. Synthesis and conformational analysis of helical oligomers with a changeable chiral acetal moiety
R. Eto, M. Oba, A. Ueda, N. Ishikawa, M. Kurihara, **Y. Demizu**, H. Suemune, M. Doi, M. Tanaka
Peptide Science 2014, 217-218 (2015).

19. Helical screw-sense control of LD-peptides containing equal amounts of L- and D-amino acids
Y. Demizu,* H. Yamashita, Y. Sato, M. Doi, M. Oba, M. Tanaka, M. Kurihara*
Peptide Science 2013, 2013, 271-272 (2014).
20. Development of helical foldamer containing a combination of cyclopentane-1,2-diamine and 2,2-dimethylmalonic acid
N. Yamazaki, **Y. Demizu**,* Y. Sato, M. Doi, M. Kurihara*
Peptide Science 2013, 273-274 (2014).
21. Sequence-specific cleavage of DNA by β -peptide nucleic acid bearing a pendant metal complex
T. Sugiyama,* K. Kuwata, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Peptide Science 2013, 369-370 (2014).
22. Synthesis of chiral five-membered ring amino acids with an azido group, and their peptides
A. Imanishi, M. Oba, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Doi, H. Takazaki, H. Suemune, M. Tanaka*
Peptide Science 2012, 131-132 (2013).
23. Synthesis of β -chiral peptide nucleic acids bearing lysine side chains
T. Sugiyama,* Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Peptide Science 2012, 385-386 (2013).
24. Design of stapled helical peptides for catalytic enantioselective epoxidation of α,β -unsaturated ketones
Y. Demizu,* S. Nagoya, Y. Sato, M. Tanaka, M. Doi, H. Okuda, M. Kurihara
Peptide Science 2011, 149-150 (2012).
25. Design of stable helical peptides
M. Kurihara,* **Y. Demizu**, S. Nagoya, Y. Sato, M. Doi, M. Tanaka
Peptide Science 2011, 213-214 (2012).
26. Design and synthesis of conformational freedom restricted endomorphine-2 analogues
T. Hanada, T. Kato, E. Ikeda, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Doi, Y. Tsuda, M. Fukudome, M. Oba, M. Tanaka*
Peptide Science 2011, 103-104 (2012).
27. Synthesis and conformational analysis of peptides composed of five-membered ring amino acids
Y. Hirata, M. Oba, M. Fukudome, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Doi, M. Tanaka*

- Peptide Science* 2011, 101-102 (2012).
28. Synthesis of beta-chiral peptide nucleic acids and their DNA binding properties
T. Sugiyama,* Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Peptide Science 2011, 353-354 (2012).
29. Design of non-secosteroidal VDR ligands and binding mode to VDR-LBD
Y. Demizu,* Y. Sato, K. Horie, K. Takagi, S. Kakuda, M. Takimoto-Kamimura, H. Okuda, M. Kurihara
Proceeding of 4ECCLS, 17-20 (2011).
30. Conformational studies of diastereomeric -Leu-Aib- peptides
Y. Demizu,* M. Doi, Y. Sato, M. Tanaka, H. Okuda, M. Kurihara*
Peptide Science 2010, 140 (2011).
31. Computational study on conformation of oligopeptides containing α,α -disubstituted α -amino acids
M. Kurihara, **Y. Demizu**, Y. Sato, N. Yamagata, H. Okuda, M. Nagano, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune
Peptide Science 2010, 135 (2011).
32. Design of short α -helical peptides for transcriptional inhibitor of nuclear receptor
N. Yamagata, **Y. Demizu**, Y. Sato, K. Nagasawa, M. Doi, M. Tanaka, H. Okuda, M. Kurihara
Peptide Science 2010, 137 (2011).
33. Synthesis of 4-substituted chiral PNA monomers
T. Sugiyama, Y. Imamura, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Takano, A. Kittaka
Peptide Science 2010, 284 (2011).
34. Helical secondary structures of oligopeptides composed of chiral five-membered ring amino acids
M. Tanaka, M. Nagano, **Y. Demizu**, M. Doi, M. Kurihara, H. Suemune
Peptide: Building Bridges, 124-125 (2011).
35. Design of a stabilized short helical peptide and its application
M. Kurihara, **Y. Demizu**, N. Yamagata, Y. Sato, Y. Takeuchi, M. Doi, M. Tanaka, H. Okuda
Peptide: Building Bridges, 124-125 (2011).
36. Computational study on helical structure of chiral α,α -disubstituted oligopeptides
M. Kurihara, Y. Sato, N. Yamagata, **Y. Demizu**, H. Okuda, M. Nagano, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune
Peptide Science 2009, 385-386 (2010).
37. Controlling the helical screw sense of peptides by N-terminal proline

- N. Yamagata, **Y. Demizu**, Y. Sato, M. Oba, M. Tanaka, M. Doi, K. Nagasawa, H. Suemune, H. Okuda, M. Kurihara
Peptide Science 2009, 383-384 (2010).
38. Conformational analysis of water-soluble oligopeptides composed of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids
Y. Demizu,* M. Tanaka, H. Suemune, M. Doi, Y. Sato, H. Okuda, M. Kurihara*
Peptide Science 2009, 381-382 (2010).
39. Computational study on helical structure of α,α -disubstituted oligopeptides containing chiral α -amino acids
M. Kurihara, Y. Sato, N. Yamagata, H. Okuda, M. Nagano, **Y. Demizu**, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune
Peptide Science 2008, 149-150 (2009).
40. Computational study on secondary structure of oligopeptides containing α,α -disubstituted α -amino acids
M. Kurihara, Y. Sato, F. Kaneko, H. Okuda, M. Nagano, **Y. Demizu**, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune
Peptide Science 2007, 137-138 (2008).
41. Computational study on conformation of oligopeptides containing chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids
M. Kurihara, Y. Sato, W. Hakamata, H. Okuda, **Y. Demizu**, M. Nagano, N. Kawabe, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune
Peptides 2006, 546-547 (2007).
42. Side-chain chiral centers of amino acids and helical-screw handedness of their peptides
M. Tanaka, M. Nagano, **Y. Demizu**, K. Anan, M. Kurihara, M. Doi, H. Suemune
Peptides 2006, 268-269 (2007).
43. Secondary structure of heteropeptides using chiral cyclic α,α -disubstituted amino acids
M. Nagano, M. Tanaka, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Doi, H. Suemune
Peptides 2006, 476-477 (2007).
44. Synthesis of various chiral cyclic α,α -disubstituted amino acids and conformational analysis of their peptides
N. Kawabe, **Y. Demizu**, M. Tanaka, M. Kurihara, H. Suemune
Peptide Science 2005, 346-347 (2006).
45. Chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids bearing two chiral centers and conformation of their peptides

- M. Nagano, **Y. Demizu**, M. Tanaka, M. Kurihara, M. Doi, H. Suemune
Peptide Science 2005, 345-346 (2006).
46. Computational study on conformation of oligopeptides containing chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids
M. Kurihara, Y. Sato, W. Hakamata, H. Okuda, **Y. Demizu**, M. Nagano, N. Kawabe, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune
Peptide Science 2005, 371-372 (2006).
47. Synthesis of optically active cyclic α,α -disubstituted amino acids by enzymatic kinetic resolution and conformational analysis of their peptides
M. Hama, M. Tanaka, Y. Yoshida, **Y. Demizu**, M. Kurihara, H. Suemune
Peptide Science 2006, 39 (2006).
48. Controlling helical secondary structures by cyclic α,α -disubstituted amino acids having side-chain chiral centers
M. Tanaka, M. Nagano, M. Hama, N. Kawabe, **Y. Demizu**, M. Kurihara, M. Doi, H. Suemune
Peptide Science 2006, 135 (2006).
49. Synthesis of purin-2-yl carboxylate from *O*6-methylguanosine
T. Maruyama, N. Moriwaka, **Y. Demizu**, M. Ohtsuka
Nucleic Acids Symposium Series, 49 109-110 (2005).
50. Computational study on conformation of oligopeptides controlled by side chain chiralities of α -amino acids
M. Kurihara, Y. Sato, W. Hakamata, H. Okuda, **Y. Demizu**, K. Anan, Y. Takano, M. Oba, M. Doi, M. Tanaka, H. Suemune
Peptide Science 2004, 297-298 (2005).
51. Relationship between α -amino acid chiral center and helical secondary structure of its oligopeptides
M. Tanaka, **Y. Demizu**, K. Anan, N. Kawabe, Y. Takano, M. Oba, T. Maruyama, M. Doi, M. Kurihara, H. Suemune
Peptide Science 2004, 45-46 (2005).
52. Prediction of helical screw sense of oligopeptides containing chiral α,α -disubstituted α -amino acids: Computational study
M. Kurihara, H. Okuda, M. Oba, **Y. Demizu**, M. Tanaka, H. Suemune
Peptides 2004, 206-207 (2005).
53. Design and synthesis of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids and its peptides

- Y. Demizu**, M. Tanaka, K. Anan, Y. Yoshida, M. Doi, M. Kurihara, T. Maruyama, H. Suemune
Peptides 2004, 1027-1028 (2005).
54. Controlling the helical screw sense of oligopeptide by alpha-amino acid side-chain chirality
M. Tanaka, **Y. Demizu**, M. Doi, M. Kurihara H. Suemune
Peptides 2004, 277-278 (2005).
55. Synthesis and antiviral activity of 1-substituted 3-(3,5-dimethylbenzyl)uracil against HIV-1
T. Maruyama, S. Kozai, **Y. Demizu**, M. Witvrouw, C. Pannecouque, J. Balzarini, R. Snoeck, G. Andrei, E. De Clercq
Nucleic Acids Symposium Series, 48, 3-4 (2004).
56. Prediction of helical screw sense of oligopeptides containing chiral amino acids: computational study
M. Kurihara, Y. Sato, S. Nomoto, H. Okuda, M. Oba, **Y. Demizu**, M. Tanaka, H. Suemune
Peptide Science 2003, 411-412 (2004).
57. Controlling the helical screw sense of oligopeptides by chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acid
M. Tanaka, **Y. Demizu**, M. Doi, M. Kurihara, H. Suemune
Peptide Science 2003, 109-110 (2004).
58. Conformational study of heteropeptide prepared from chiral alpha-ethylated alpha, alpha-disubstituted alpha-amino acids
M. Tanaka, S. Nishimura, M. Oba, **Y. Demizu**, M. Kurihara, H. Suemune
Peptides 2002, 902-903(2003).
59. Synthesis of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acid and its peptides
Y. Demizu, M. Tanaka, M. Kurihara, H. Suemune
Peptide Science 2002, 321-322 (2003).
60. Prediction of the helical screw sense of oligopeptides containing chiral alpha, alpha-disubstituted amino acids
M. Kurihara, Y. Sato, M. Tanaka, M. Oba, **Y. Demizu**, H. Suemune, H. Okuda
Peptide Science 2002, 323-324 (2003).

Patent

1. **出水庸介**, 横尾英知, 黒原崇, 鈴木哲朗, 中島謙治: 新規化合物を利用した B 型肝炎ウイルス (HBV) の治療に利用できる医薬組成物, 特願 2024163247.

2. 横尾英知, 出水庸介, 大庭誠, 内田智士: ペプチド化合物, 特願 2024104612.
3. 出水庸介, 三澤隆史, 石井明子, 青山道彦: 新規ペプチド, 特願 2023166345.
4. 正田卓司, 橋井則貴, 原園景, 出水庸介, 石井明子, 上松亮平, 坂本泉: 新規化合物及びその製造方法, 特願 2022171206.
5. 出水庸介, 辻巖一郎, 朝倉宏, 上間匡, 米満研三, 井上貴雄, 大岡伸通, 伊藤貴仁: 新規化合物及び抗コロナウイルス剤, 特願 2020195723.
6. 出水庸介, 柴田識人, 内藤幹彦, 有竹浩介, 横尾英知: 新規化合物及び医薬組成物, 特願 2021115706 (特願 2021016808, 特願 2020122534) .
7. 出水庸介, 三澤隆史, 大岡伸通, 内藤幹彦: 細胞膜透過ペプチド, 構築物, 及び, カーゴ分子を細胞内に輸送する方法, 第 7013626 号 (2022 年 1 月 24 日) 特開 2019118307. (2019 年 7 月 22 日)
8. 出水庸介, 栗原正明, 三澤隆史: 細胞膜透過性を有するペプチド, 構築物, 及び, カーゴ分子を細胞内に輸送する方法, 特開 2017137256 (W02017135273A1). (2017 年 8 月 10 日)
9. 内藤幹彦, 奥平桂一郎, 出水庸介, 栗原正明: アポトーシス阻害タンパク質リガンドーエストロゲン受容体リガンドハイブリッド化合物並びにそれを利用したエストロゲン受容体分解誘導剤及び乳癌, 子宮頸癌又は卵巣癌の予防及び治療剤, 特開 2013056837. (2013 年 3 月 28 日)
10. 尾野村治, 出水庸介, 森山敦, 岩崎史哲: 光学活性 α -アシルオキシリン酸誘導体の製造方法, 特開 2010111632.
11. 尾野村治, 出水庸介, 岩崎史哲: グルコシドエステル誘導体およびその製造方法, 特許第 5328183 号. (2013 年 10 月 30 日)
12. 尾野村治, 出水庸介, 岩崎史哲: α -D-マンノピラノシド誘導体の製造方法, 特許第 5305697 号. (2013 年 10 月 2 日)
13. 尾野村治, 出水庸介, 岩崎史哲: キシロシドエステル誘導体およびその製造方法, 特許第 5334437 号. (2013 年 11 月 6 日)
14. 尾野村治, 出水庸介, 久保裕紀, 岩崎史哲: ラムノシドエステル誘導体およびその製造方法, 特許第 5334484 号. (2013 年 11 月 6 日)
15. 尾野村治, 出水庸介, 岩崎史哲: 脂肪族ジカルボン酸化合物の製造方法, 特許第 5052362 号. (2012 年 8 月 3 日)
16. 尾野村治, 出水庸介, 山本博将: 光学活性アミノ酸エステル誘導体, および光学活性アミノアセタール誘導体の製造方法, 特許第 5334435 号. (2013 年 11 月 6 日)
17. 松村功啓, 尾野村治, 出水庸介: 光学活性ビスオキサゾリン-銅錯体を不斉触媒とする N-保護アミノアルコール化合物の不斉エステル化反応, 特許第 5041219 号. (2012 年 10 月 3 日)

18. 尾野村治, 出水庸介, 岩崎史哲: 光学活性 α -スルホニルオキシカルボン酸アミド誘導体及びそれらの製造方法, 特許第 5100298 号. (2012 年 12 月 19 日)
19. 松村功啓, 尾野村治, 出水庸介: 光学活性モノスルホネート化合物の製造方法, 特許第 5108383 号. (2012 年 12 月 26 日)
20. 松村功啓, 尾野村治, 出水庸介: α , α -ジ置換環状含窒素化合物の製造方法, 特許第 5211318 号. (2013 年 6 月 12 日)
21. Matsumura, Y.; Demizu, Y.; Onomura, O.: Nitrogen-containing redox catalyst, PCT Int. Appl. WO 2008117871 (PCT/JP2008/056164) 特許第 5126856 号. (2013 年 1 月 23 日)

書籍・記事・解説

1. 小出達夫, 三澤隆史, 伊豆津健一, 加藤くみ子, 出水庸介, 齋藤嘉朗, 医薬品原薬および製剤の各条における米国薬局方および日本薬局方調和パイロットプロジェクトでの取組み, 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス Vol. XX, No. XX (2025 年 XX 月 XX 日発行), (一財) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団.
2. 出水庸介, 「中分子ペプチド医薬」, 日経バイオテク (2025 年 3 月 26 日).
3. 永沼美弥子, 出水庸介, 中分子化合物を活用した PROTAC 開発, 「タンパク質分解医薬の基礎と基盤技術開発」(株) シーエムシー・リサーチ.
4. 許涵喬, 黒原崇, 出水庸介, PROTAC 開発を加速する革新的合成戦略, 「タンパク質分解医薬の基礎と基盤技術開発」(株) シーエムシー・リサーチ.
5. 出水庸介, 1 章: 糖鎖関連 (バイオ) 医薬品 「LYTAC」 JCGG 編未来を創る グライコサイエンス (我が国のロードマップ) 日本糖鎖科学コンソーシアム (2025 年 2 月)
6. 出水庸介, 実験医学 2025 年 1 月号「中分子ペプチド医薬 新章」 「中分子ペプチド医薬品の規制ガイドラインの現状と課題・展望」(株) 羊土社.
7. 出水庸介, メニューからバイオケミストリーを選んで, 薬奨ニュース, 2024, No. 38, (公財) 薬学奨励財団 (2024 年 7 月).
8. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品開発, 「医薬品モダリティにおける創薬技術開発と展望」情報機構.
9. 出水庸介, 齋藤嘉朗, 日本薬学会第 144 年会シンポジウム「中分子ペプチド医薬品の未来を拓くイノベーションとレギュレーション」, 薬事日報, 2024 年 3 月 22 日 (2024).
10. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の開発研究の現状と品質・安全性等のレギュラトリーサイエンスについて, 医薬品医療機器レギュラトリーサイエン

ス Vol. 55 No. 1 (2024 年 2 月 10 日発行), (一財) 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団.

11. 出水庸介, サイエンス Report 「中分子薬」, 読売新聞 (2023 年 11 月 5 日).
12. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬の現状と展望, 「化学と工業」 11 月号・特集企画「次世代バイオ医薬」, 日本化学会.
13. 辻巖一郎, 出水庸介, 月刊「PHARMSTAGE」 2023 年 9 月号, 「In silico を活用した医薬品からの N-ニトロソアミン類の生成リスク評価法」, (株) 技術情報協会.
14. 高田浩行, 出水庸介, 月刊「細胞」 2023 年 8 月号特集「中分子ペプチドが拓く明日の創薬」, CPP フォルダマーの開発と応用, (株) ニューサイエンス社.
15. 永沼美弥子, 大岡伸通, 出水庸介, 標的リガンドにオリゴヌクレオチドを応用した PROTAC の創製, MEDCHEM NEWS, 33(2), 70-74 (2023).
16. M. Oba, Y. Demizu, Cell-Penetrating Peptides: Design, Development and Applications. ISBN: 978-3-527-35011-7, WILEY-VCH.
17. Y. Demizu, “Hydrophobic peptides”, Cell-Penetrating Peptides: Design, Development and Applications, 66-77, ISBN: 978-3-527-35011-7, WILEY-VCH.
18. 出水庸介, 実験医学 2023 年 1 月号「シン・中分子ペプチド創薬」「中分子ペプチド医薬品開発の現状と規制状の課題と取組」(株) 羊土社.
19. 横尾英知, 出水庸介, 「In silico デザインを活用した強力で選択的な H-PGDS 標的 PROTAC の創出」, ケモユビキチンニュースレター第 4 号.
20. 永沼美弥子, 出水庸介, 「エストロゲン受容体を標的としたデコイ核酸型 PROTAC の開発」, ケモユビキチンニュースレター第 4 号.
21. 長瀬博, 出水庸介, 「創薬科学・医薬化学」, 第 1 章「医薬品創製の歴史」, 第 2 章「低分子創薬の現状」, 第 3 章「低分子創薬研究の流れ」, (株) 化学同人.
22. 黒原崇, 三澤隆史, 出水庸介, 月刊 BIO INDUSTRY, 2022 年 5 月号, 「ペプチド医薬品の最新動向～広い観点からのペプチド創薬科学」「二次構造制御を基軸としたペプチド創薬研究」(株) シーエムシー出版.
23. 出水庸介, 「ペプチド医薬品の開発・事業化戦略および合成・分析・製造ノウハウ」, 第 1 章「ペプチド医薬品概要」, (株) シーエムシー出版.
24. 出水庸介, 大庭誠, 日本薬学会第 142 年会シンポジウム「中分子創薬研究のフロンティア -ニューモダリティへの戦略展開-」, **薬事日報**, 2022 年 3 月 18 日(2022).
25. 出水庸介, 月刊「PHARMSTAGE」 2021 年 11 月号, 「中分子ペプチド医薬品の構造解析」, (株) 技術情報協会.

26. 出水庸介, 大庭誠, 「次世代医薬と医療」, 第2章「ペプチド医薬およびペプチド様 (ペプトマー等) 医薬」, 東京化学同人.
27. 横尾英知, 出水庸介, 月刊「細胞」2021年3月号特集「Target Protein Degradation」, Targeted Protein Degradation 合成の戦略, (株) ニューサイエンス社.
28. 出水庸介, 第十八改正日本薬局方・解説書, 廣川書店.
29. 出水庸介, 第十七改正日本薬局方第二追補・解説書, 廣川書店.
30. 出水庸介, ペプチド創薬の最前線, 第5章「二次構造制御を基軸としたペプチド創薬研究」(株) シーエムシー出版, p. 38-47.
31. 出水庸介, 石井明子, 医薬品開発における中分子領域 (核酸医薬・ペプチド医薬品) における開発戦略, 「ペプチド医薬品の品質に関するガイドラインおよび規制の現状」情報機構, p. 164-171.
32. 横尾英知, 出水庸介, 「TPD 創薬への有機化学的アプローチ」, *ファルマシア*, 57(7), 615-619 (2021).
33. 大庭誠, 臼井一晃, 出水庸介, 日本薬学会第141年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -基礎から材料・創薬研究へ-」, *薬事日報*, 2021年3月19日 (2021).
34. 出水庸介, 月刊「PHARMSTAGE」2021年1月号, 「中分子ペプチド医薬品開発に向けた規制上の課題と取組」, (株) 技術情報協会.
35. 出水庸介, 尾谷優子, 大庭誠, 日本薬学会第140年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -ペプチド創薬のパラダイムシフト-」, *薬事日報*, 2020年3月18日 (2020).
36. 渡邊瑞貴, 大庭誠, 出水庸介, 日本薬学会第139回年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -新たな創薬への可能性-」, *薬事日報*, 2019年3月15日 (2019).
37. 大庭誠, 梅澤直樹, 出水庸介, 日本薬学会第138年会シンポジウム「フォルダマーの魅力 -設計・構造・機能-」, *薬事日報*, 2018年3月19日 (2018).
38. 出水庸介, 「ペプチド二次構造制御に基づく創薬研究」, *薬事日報*, 第11673号, 3 (2016).
39. 出水庸介, 栗原正明, 「ディスタンス・ジオメトリー法 (十字路)」, *有機合成化学協会誌*, 72, 1405 (2014).
40. 出水庸介, 「短鎖ペプチドのヘリカル構造制御と機能化」, *ペプチドニューズレター*, 94, 3-7 (2014).
41. 出水庸介, 「DNA を不斉触媒として利用した不斉 Diels-Alder 反応」, *ファルマシア*, 42(3), 262-263 (2006).

招待講演

1. 出水庸介, DDS キャリアペプチドの開発と応用研究, 第 41 回日本 DDS 学会 学術集会シンポジウム:ケミカルバイオロジーが拓く DDS のニューフロンティア, 第 41 回日本 DDS 学会学術集会, 千葉 (2025. 6/18) .
2. 出水庸介, ICH-M7 の日本薬局方への取り込み「第十九改正日本薬局方及び国際調和に向けて」, 局方 CMC 研修講演会, Web (2025. 3/21-28) .
3. 出水庸介, PROTAC の開発の現状と展望, 第 41 回メディシナルケミストリー シンポジウムランチョンセミナー, 京都 (2024. 11/21) .
4. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品開発に向けた規制上の課題と取組, 第 14 回レギュラトリーサイエンス学会学術大会, 東京 (2024. 9/14) .
5. 出水庸介, 有機化学の役割と共に描くレギュラトリーサイエンスの未来, 創立 150 周年記念特別衛研シンポジウム, 神奈川 (2024. 8/6) .
6. 出水庸介, ペプチド医薬品の開発動向と規制ガイドライン, 日本プロセス化学会 2024 サマーシンポジウム, 長崎 (2024. 7/4) .
7. 出水庸介, PROTAC の合理的デザイン, 21 世紀を明るく科学する会 2024, 静岡 (2024. 6/29) .
8. 出水庸介, ペプチド医薬品の開発動向と規制ガイドライン, 立命館大創剤・製剤技術研究コンソーシアム研究会, Web (2024. 6/28) .
9. 出水庸介, タンパク質分解医薬品の開発の現状と展望, 第 28 回日本がん分子標的治療学会学術集会シンポジウム「新世代医薬品の展望」, 東京 (2024. 6/21) .
10. 出水庸介, 創薬モダリティの進化と展望, 日本薬学会第 144 回年会シンポジウム: がんを闘うアカデミア創薬の新挑戦, 横浜 (2024. 3/29) .
11. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品のレギュレーション, 日本薬学会第 144 回年会シンポジウム: 中分子医薬および超分子 DDS の開発・評価とレギュレーションについて考える, 横浜 (2024. 3/29) .
12. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の開発の現状と将来展望, 日本薬学会第 144 回年会シンポジウム: 中分子ペプチド医薬品の未来を拓くイノベーションとレギュレーション, 横浜 (2024. 3/29) .
13. 出水庸介, タンパク質分解医薬 PROTAC の開発の現状と将来展望, R022 量子構造生物学委員会第 13 回研究会, 東京 (2024. 3/12) .
14. 出水庸介, PROTAC によるタンパク質寿命制御, 「集え、多分野研究者!」感染症キャンプ in 宮崎, 宮崎 (2024. 1/26-28) .
15. 出水庸介, PROTAC によるタンパク質寿命の制御, 第 96 回日本生化学会大会シンポジウム「タンパク質寿命学の創出」, 福岡 (2023. 11/2) .

16. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の開発と規制の動向, 山陽小野田市立山口東京理科大学創薬・育薬特別講演会, 山口 (2023. 9/5) .
17. 出水庸介, ケミカルデグレーダーによるタンパク質寿命制御, タンパク質寿命が制御するシン・バイオロジー「キックオフシンポジウム」, 東京 (2023. 8/7) .
18. 出水庸介, PROTAC 開発の現状と将来展望, 次世代モダリティ研究会, 大阪 (2023. 6/15) .
19. 出水庸介, 分子の匠: 分子設計の美学, 長崎大学薬学部薬化学講演会 2023, 長崎 (2023. 6/10) .
20. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の現状と展望, 日本化学会第 103 春季年会 2023 イノベーション共創プログラム (CIP) セッション「バイオ医薬品の最前線を支えるスマートケミストリー」, 千葉 (2023. 3/22) .
21. 出水庸介, 日本薬局方試験法における有害試薬排除の検討, 佐賀県製薬協会研修会, 佐賀 (2023. 2/3) .
22. Demizu, Y., Development of potent PROTACs targeting hematopoietic prostaglandin D synthase via in silico design, *The International Symposium in Tokyo, Ubiquitin New Frontier “from Neo-Biology to Targeted Protein Degradation”* Tokyo (2022.12/3).
23. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の現状と展望, 第 23 回製剤機械技術学会シンポジウム, 東京 (2022. 11/25) .
24. 出水庸介, 合理的設計による高活性 PROTAC の開発, 第 95 回日本生化学会大会シンポジウム「ユビキチン・プロテアソーム研究のニューフロンティア」, 名古屋 (2022. 11) .
25. 出水庸介, 医薬品中のニトロソアミン類の低減化手法, 令和 4 年度 M7 ワークショップ, 神奈川 (2022. 10) .
26. 出水庸介, MOE を活用した PROTAC の合理的設計, MOE フォーラム 2022, 東京 (2022. 10) .
27. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の現状と展望, 第 11 回 CSJ 化学フェスタ: バイオ・食品・健康医療, コロナに負けるな! ワクチン・薬分野からの挑戦, 東京 (2021. 10) .
28. 出水庸介, 低分子・中分子医薬品開発効率化に資するレギュラトリーサイエンス研究, 第 25 回日本がん分子標的治療学会学術集会: RS 教育講演, 東京 (2021. 5) .
29. 出水庸介, ヘリカル構造制御に基づく高機能生理活性ペプチドの創出, 日本薬学会第 141 回年会シンポジウム: 中分子創薬研究のフロンティア ~生体分子を標的とした機能性ペプチドの創製~, 広島 (2021. 3) .

30. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品開発に向けた規制上の課題と取組, 第 10 回レギュラトリーサイエンス学会学術大会, 東京 (2020.9) .
31. 出水庸介, ヘリカル構造制御に基づく抗菌ペプチドフォルダマーの開発, 第 58 回日本生物物理学会年会シンポジウム: 膜の海を旅するペプチド~脂質膜とペプチドの相互作用研究の新展開, Web (2020.9) .
32. 出水庸介, 非天然型アミノ酸の開発と含有ペプチドの二次構造制御, CMC+AndTech FORUM 特殊ペプチドの合成技術と創薬の最新動向, 東京 (2019.9) .
33. 出水庸介, 創薬研究および違法薬物の規制におけるインシリコ技術の活用, MOE フォーラム 2019, 東京 (2019.7) .
34. 出水庸介, M7(R2): 「潜在的発がんリスクを低減するための医薬品中 DNA 反応性(変異原性)不純物の評価及び管理」に対する補遺, 第 40 回 ICH 即時報告会, 東京 (2019.7) .
35. 出水庸介, 二次構造制御を基盤としたペプチド創薬研究, 有機合成化学協会九州山口支部講演会「合成有機化学のフロンティア」, 福岡 (2019.5) .
36. 出水庸介, ペプチドフォルダマー創薬研究, 日本薬学会第 139 回年会シンポジウム: フォルダマーの魅力-新たな創薬への可能性-, 千葉 (2019.3) .
37. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品開発に向けた規制上の課題と取組, 第 4 回レギュラトリーサイエンス公開シンポジウム, 東京 (2019.2) .
38. 出水庸介, タンパク質の寿命を制御できる分子の開発, 生体分子コバレント修飾の革新的解析拠点形成シンポジウム, 東京 (2018.2) .
39. 出水庸介, 核内受容体を標的とした転写活性化阻害および分解誘導ペプチドの開発, 第 48 回若手ペプチド夏の勉強会, 東京 (2016.8) .
40. 出水庸介, 短鎖ペプチドのヘリカル構造制御と機能化, 第 51 回ペプチド討論会, 徳島 (2014.10) .
41. 出水庸介, 分子認識に基づくキラル銅触媒を用いたアルコール類の不斉トシル化, 第 1 回若手交流合宿セミナー, 福岡 (2007.7) .

セミナー・特別講義

1. 出水庸介, 医薬品開発と違法薬物対策を支えるレギュラトリーサイエンス, 長崎国際大学薬学部特別講義, 長崎 (2025.6) .
2. 出水庸介, 有機化学を基盤とした創薬へのアプローチ, 横浜市立大学生命医科学特別講義, 横浜 (2025.5) .
3. 出水庸介, 有機化学が支えるレギュラトリーサイエンス: 医薬品開発と違法薬物対策, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬プロセス特論 II, 長崎 (2025.1) .

4. 出水庸介, 多様なモダリティを活用した創薬研究, 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科先端創薬化学講演会 2024, 岡山 (2024. 10) .
5. 出水庸介, タンパク質分解医薬 PROTAC の合理的デザイン, 愛媛大学 PROS セミナー&大学院特別講義, 愛媛 (2024. 10) .
6. 出水庸介, 多面的創薬アプローチ: モダリティの融合と革新, 大阪公立大学創薬科学特殊講義, 大阪 (2024. 9) .
7. 出水庸介, 多様なモダリティを活用した創薬研究, 慶應義塾大学理工学部特別講義, 神奈川 (2024. 7) .
8. 出水庸介, 化学が拓く未来: 医薬品開発と違法薬物対策, 慶應義塾大学理工学概論, 神奈川 (2024. 7) .
9. 出水庸介, 有機化学を基盤とした創薬へのアプローチ, 横浜市立大学生命医科学特別講義, 横浜 (2024. 6) .
10. 出水庸介, 医薬品開発と違法薬物対策を支えるレギュラトリーサイエンス, 長崎国際大学薬学部特別講義, 長崎 (2024. 6) .
11. 出水庸介, 多面的創薬アプローチ: モダリティの融合と革新, 名古屋市立大学大学院薬学研究科創薬生命科学特別講義 1, 名古屋 (2024. 5) .
12. 出水庸介, 次世代型中分子ペプチド医薬品の開発と規制の動向, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬プロセス特論 IV, 長崎 (2023. 12) .
13. 出水庸介, 多様なモダリティを活用した創薬研究, 東邦大学大学院薬学研究科特別講義, 千葉 (2023. 10) .
14. 出水庸介, 多様なモダリティを活用した創薬研究, 広島大学大学院医系科学研究科薬科学特論, 広島 (2023. 5) .
15. 出水庸介, 有機化学を基盤とした創薬へのアプローチ, 横浜市立大学生命医科学特別講義, 横浜 (2023. 4) .
16. 出水庸介, 次世代型中分子ペプチド医薬品の開発と規制の動向, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬プロセス特論 II, 長崎 (2022. 12) .
17. 出水庸介, 有機化学を基盤とした創薬へのアプローチ, 横浜市立大学生命医科学特別講義, 横浜 (2022. 4) .
18. 出水庸介, 次世代型中分子ペプチド医薬品の開発と規制の動向, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬プロセス特論 IV, 長崎 (2022. 1) .
19. 出水庸介, 規制科学の活性化と進歩に貢献できる有機化学研究, 京都府立医科大学大学院特別講義, 京都 (2021. 11) .
20. 出水庸介, 有機化学を基盤とした創薬へのアプローチ, 横浜市立大学生命医科学特別講義, 横浜 (2021. 4) .
21. 出水庸介, 次世代型中分子ペプチド医薬品の開発と規制の動向, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬プロセス特論 II, 長崎 (2021. 1) .

22. 出水庸介, 有機化学を基盤とした創薬へのアプローチ, 横浜市立大学生命医科学特別講義, 横浜 (2020. 7) .
23. 出水庸介, 次世代型中分子ペプチド医薬品の開発と規制の動向, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬プロセス特論 IV, 長崎 (2020. 1) .
24. 出水庸介, ペプチドで何ができるだろう? ~新たな道を拓く中分子医薬品~, 国立医薬品食品衛生研究所 2019 年一般公開, 神奈川 (2019. 8) .
25. 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の開発効率化に資するレギュラトリーサイエンス研究, 2019 年度衛研シンポジウム - 医薬品・医療機器分野における品質・安全性評価法の最前線 -, 神奈川 (2019. 7) .
26. 出水庸介, 有機化学を基盤とした創薬へのアプローチ, 横浜市立大学生命医科学特別講義, 横浜 (2019. 6) .
27. 出水庸介, 医薬品規制と違法薬物の規制に貢献できる有機化学研究, 東京大学先端科学技術研究センター, 東京 (2019. 1) .
28. 出水庸介, レギュラトリーサイエンスの活性化と進歩に貢献できる有機化学研究, 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科創薬プロセス特論 II, 長崎 (2018. 12) .
29. 出水庸介, ペプチド二次構造予測とタンパク質-リガンド相互作用解析, MacroModel 講習会, 東京 (2018. 9) .
30. 出水庸介, レギュラトリーサイエンスの活性化と進歩に貢献できる有機化学研究, 平成 30 年度九州大学薬友会関東支部総会, 東京 (2018. 5) .
31. 出水庸介, 二次構造制御を基盤としたペプチド創薬研究, 早稲田大学講演会, 東京 (2017. 12) .
32. 出水庸介, 二次構造制御を基盤としたペプチド創薬研究, 芝浦工業大学大学院生命創薬科学特論, 埼玉 (2017. 9) .
33. 出水庸介, 研究者の「仕事」って?, 日吉南小学校, 神奈川 (2017. 9) .
34. 出水庸介, 短鎖ペプチドのヘリカル構造制御と機能化, 東京医科歯科大学生体材料工学研究所, 東京 (2013. 10) .
35. 出水庸介, タンパク質の機能を模倣したペプチド -合成, 構造, 機能-, 横浜市立大学大学院生命医科学研究科, 神奈川 (2013. 9) .
36. 出水庸介, タンパク質の機能を模倣したペプチド -合成, 構造, 機能-, 東京工業大学生命工学特別講義, 神奈川 (2013. 6) .

国際学会

1. Murakami, Y., Ishida, S., Ohta, M., Honma, T., **Demizu, Y.**, Terayama, K., Machine learning-based PROTAC linker design method to enhance cell membrane permeability, *PACIFICHEM 2025*, Hawaii (2025.12/15-20).

2. Yokoo, H., Dongrui, Z., **Demizu, Y.**, Design of cell-Permeable peptide-based E3 ligase ligands for development of protein degrader, *PACIFICHEM 2025*, Hawaii (2025.12/15-20).
3. Shoda, T., Hashii, N., Harazono, A., Ishii-Watabe, A., **Demizu, Y.**, Development of a fluorescent glycan labeling reagent using excimer fluorescence, *PACIFICHEM 2025*, Hawaii (2025.12/15-20).
4. Tsuji, K., Huang, X., Miyamoto, M., Yokoo, H., Kobayakawa, T., **Demizu, Y.**, Tamamura, H., Utilization of HIV-1 Viral Protein R-derived Peptides as Novel E3 Ligase Ligands for Development of BRD4 Degraders, *Chemical Biology Symposium 2025*, India (2025.2/25).
5. Fujii, S., Mudiyansele, H.N.T.N., Misawa, T., **Demizu, Y.**, Hanazono, Y., Ito, N., Kagechika, H., Structural development and crystallographic analysis of diphenylcarborane-based novel vitamin D receptor ligands, *The 9th International Symposium on Biomedical Engineering (ISBE2024)*, Hamamatsu, Japan (2024.12/3-4).
6. Kikura-Hanajiri, R., Kawamura, M., Mizutani, S., Tanaka, R., Tsuji, G., Misawa, T., Yokoo, H., **Demizu, Y.**, Isomeric analysis of hexahydrocannabinol (HHC), hexahydrocannabihexol (HHCH), and hexahydrocannabiphorol (HHCP) in products using LC-MS and supercritical fluid chromatograph (SFC)-QTOF-MS, *The 61st Annual Meeting of TIAFT*, Switzerland (2024.9/2-6).
7. Takada, H., Tsuchiya, K., **Demizu, Y.**, Study on the role of helix-stabilized peptides in transporting antisense morpholino oligomers into cells: relationships among helicity, cellular uptake, and antisense activity, *37th European Peptide Symposium & 14th International Peptide Symposium*, Italy (2024.8/25-30).
8. Hirano, M., Yokoo, H., Oba, M., Misawa, T., **Demizu, Y.**, Development of novel amphipathic stapled peptides as DDS carriers for intracellular delivery of nucleic acids, *37th European Peptide Symposium & 14th International Peptide Symposium*, Italy (2024.8/25-30).
9. Yokoo, H., Dongrui, Z., **Demizu, Y.**, Development of nanoparticle-based protein degradation inducers based on nucleic acid delivery, *37th European Peptide Symposium & 14th International Peptide Symposium*, Italy (2024.8/25-30).
10. Fujita, M., Kikuchi, A., Arita, K., Misawa, T., **Demizu, Y.**, Development of peptide-based inhibitors against β -catenin using *in silico* approach, *37th European Peptide Symposium & 14th International Peptide Symposium*, Italy (2024.8/25-30).
11. Ito, T., Misawa T., Ohoka N., Aoyama M., Inoue T., Ishii A., **Demizu, Y.**, Strategies for designing hepatocyte-selective carriers using helical peptides as stable scaffolds,

37th European Peptide Symposium & 14th International Peptide Symposium, Italy (2024.8/25-30).

12. Thilakarathne, N. M. H. N., Misawa, T., **Demizu, Y.**, Hanazono, Y., Ito, N., Kagechika, H., Fujii, S., Structure-activity relationship (SAR) study of hydrophobic moiety of nonsecosteroidal VDR ligands using diphenylsilane scaffold, 21st IUPAB Congress 2024 & 62nd BSJ Joint Congress 2024, Kyoto (2024.6/24-28).
13. Moriya, S., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Kittaka, A., Sugiyama, T., Strand invasion by PNA containing preQ₁, *The 50th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry*, Miyazaki (2023.11).
14. Kikura-Hanajiri, R., Mizutani, S., Kawamura, M., Tanaka, R., Misawa, T., Tsuji, G., Kurohara, T., Ito, M., **Demizu, Y.**, Investigation on the semi-synthetic cannabinoids distributed on the internet in Japan: Reduced forms or acetyl derivatives of tetrahydrocannabinol (THC), *X International Conference on Novel Psychoactive Substances*, Abu Dhabi (2023.11.6-8).
15. Ito, T., Misawa, T., **Demizu, Y.**, Development of helical peptide foldamers for tissue-selective carriers, *Munich 2023 Symposium on Foldamers*, Germany (2023.9/4-6).
16. Ohoka, N., Suzuki, M., Uchida, T., Tsuji, G., Tsukumo, Y., Yoshida, M., Inoue, T., **Demizu, Y.**, Ohki, H., Naito, M., Development of Gilteritinib-based chimeric small molecules that potently induce degradation of FLT3-ITD protein, *Twelfth AACR-JCA Joint Conference on Breakthroughs in Cancer Research: Translating Knowledge into Practice*, Hawaii (2022.12).
17. Osawa, H., Kurohara, T., Murakami, Y., Shibata, N., Naito, M., **Demizu, Y.**, Structure-activity relationship study of PROTACs against hematopoietic prostaglandin D₂ synthase, *Ubiquitin New Frontier "from Neo-Biology to Targeted Protein Degradation"* Tokyo (2022.12).
18. Shih, Po-C., Naganuma, M., Tsuji, G., **Demizu, Y.**, Naito, M., Towards development of protein degraders for targeting signal transducer and activator of transcription 3 (STAT3), *Ubiquitin New Frontier "from Neo-Biology to Targeted Protein Degradation"* Tokyo (2022.12).
19. Naganuma, M., Ohoka, N., Tsuji, G., Matsuno, K., Naito, M., Inoue, T., **Demizu, Y.**, Development of chimeric molecules that degrade the estrogen receptor using decoy oligonucleotide ligands, *The 49th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry*, Tokyo (2022.11).
20. Kuriyama, M., Katagiri, K., Yamamoto, K., **Demizu, Y.**, Onomura, O., Metal-free synthesis of phenols from diaryliodonium salts with water catalyzed by *N*-benzylpyridin-2-one, *The 15th International Symposium on Organic Reactions*,

Taiwan (2022.11).

21. Moriya, S., Yonezu, M., Kondo, Y., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Kittaka, A., Sugiyama, T., Synthesis of peptide nucleic acid possessing dicationic cytosine derivative, *The 49th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry*, Tokyo (2022.11).
22. Kikura-Hanajiri, R., Mizutani, S., Kawamura, M., Tanaka, R., Shoda, T., **Demizu, Y.**, The differentiation of LSD and its 17 related compounds by GC-EI-MS and GC-CI-QTOF-MS, *The 30th Meetings of SFTA, the 59th Annual Meeting of TIAFT*, France (2022.9).
23. Fukuhara, K., Mori, K., Okiyama, Y., Misawa, T., Mizuno, M., **Demizu, Y.**, Shibanuma, M., Ohno, A., Rationally designed peptide modulators of amyloid- β toxicity in Alzheimer's disease, *AIMECS2021*, Tokyo (Web) (2021.11).
24. Tsuji, G., Yonemitsu, K., Ito, T., Uema, M., Asakura, H., **Demizu, Y.**, Development of ciclesonide analogues that block SARS-CoV-2 RNA replication, *AIMECS2021*, Tokyo (Web) (2021.11).
25. Misawa, T., Ohoka, N., Hirano, M., Oba, M., Inoue, T., **Demizu, Y.**, Development of helix-stabilized hydrophobic/cationic-block peptides for intracellular delivery of biomacromolecules, *AIMECS2021*, Tokyo (Web) (2021.11).
26. Yokoo, H., Shibata, N., Endo, A., Ito, T., Yanase, Y., Murakami, Y., Fujii, K., Saeki, Y., Naito, M., Aritake, K., **Demizu, Y.**, Discovery of a highly potent and selective PROTAC targeting hematopoietic prostaglandin D synthase via *in silico* design, *AIMECS2021*, Tokyo (Web) (2021.11).
27. Yamamoto, E., Yokoo, H., Kan-no, H., Tomita, N., Masada, S., Uchiyama, N., Tsuji, G., Hakamatsuka, T., **Demizu, Y.**, Izutsu, K., Goda, Y., Control of *N*-nitrosodimethylamine (NDMA) in drug substances, *The 31st International Symposium on Pharmaceutical and Biomedical Analysis (PBA2021)*, Kyoto (2021.8).
28. Abe, Y., Yamamoto, E., Yoshida, H., Masada, S., Yokoo, H., Tsuji, G., Uchiyama, N., Hakamatsuka, T., **Demizu, Y.**, Izutsu, K., Goda, Y., Okuda, H., Temperature-dependent formation of *N*-nitrosodimethylamine (NDMA) during the storage of ranitidine reagent powders and tablets, *AAPS 2020 PHARMSCI 360*, Web (2020.10).
29. Ohoka, N., Tsuji, G., Shoda, T., Fujisato, T., Kurihara, M., **Demizu, Y.**, Naito, M., Development of small molecule chimeras that recruit aryl-hydrocarbon receptor (AhR) E3 ligase to induce degradation of target proteins, *AACR-NCI-EORTC International Conference on Molecular Targets and Cancer Therapeutics*, Boston, USA (2019.10).

30. Tsuji, G., Naganuma, M., Yokoo, H., Misawa, T., Matsuno, K., **Demizu, Y.**, Design and synthesis of 4-(2-pyrrolyl)-4-phenylheptane derivatives as estrogen receptor ligands, *17th Annual Discovery on TARGET*, Boston, USA (2019.9).
31. Yamamoto, K., Kikuchi, N., Hamamizu, T., Yoshimatsu, H., Kuriyama, M., **Demizu, Y.**, Onomura, O. Synthesis of α -*exo*-methylene ketones from α,α -disubstituted allyl alcohols by electrochemical oxidative migration, *The 4th International Symposium on Process Chemistry*, Kyoto (2019.7).
32. Misawa, T., Ohoka, N., Goto, C., Oba, M., Tanaka, M., Naito, M., **Demizu, Y.**, Development of amphipathic cell-penetrating foldamers for delivery of biomacromolecules, *European Symposium on Organic Chemistry*, Austria (2019.7).
33. **Demizu, Y.**, Goto, C., Misawa, T., Tsuji, G., Peptide foldamers in drug discovery, *26th American Peptide Symposium*, Monterey, USA (2019.6).
34. Oba, M., Furukawa, K., Nonaka, H., **Demizu, Y.**, Tanaka, M., Development of peptide foldamers changing their secondary structures in response to the environmental milieu, *26th American Peptide Symposium*, Monterey, USA (2019.6).
35. Tsuji, G., Misawa, T., **Demizu, Y.**, Peptide foldamers in drug discovery, *27th French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry*, Fukuoka (2019.5).
36. Eto, R., Oba, M., Ueda, A., Doi, M., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Tanaka, M., Helical secondary structures of peptides composed of cyclic amino acids with a chiral acetal moiety, *10th International Peptide Symposium*, Kyoto (2018.12).
37. Misawa, T., Ohoka, N., Oba, M., Tanaka, M., Naito, M., **Demizu, Y.**, Development of cell-penetrating peptide foldamers for siRNA delivery, *10th International Peptide Symposium*, Kyoto (2018.12).
38. Sugiyama, T., Shibasaki, H., Moriya, S., Kuwata, K., Imamura, Y., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Kittaka, T., PNA oligomers possessing PreQ1 as a cationic analogue of guanine, *10th International Peptide Symposium*, Kyoto (2018.12).
39. **Demizu, Y.**, Misawa, T., Tsuji, G., Peptide foldamers in drug discovery, *Bordeaux 2018 Symposium on Foldamers*, France (2018.9).
40. Oba, M., Furukawa, K., Toyama, K., Opiyo, G. O., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Doi, M., Tanaka, M., Low pH-responsive cyclic α,α -disubstituted α -amino acids for controlling secondary structures of peptide foldamers, *Bordeaux 2018 Symposium on Foldamers*, France (2018.9).
41. Misawa, T., Ohoka, N., Oba, M., Tanaka, M., Naito, M., **Demizu, Y.**, Development of helix-stabilized amphipathic cell-penetrating peptides for siRNA delivery, *35th European Peptide Symposium*, Ireland (2018.9).

42. Yamashita, H., Misawa, M., Kurihara, M., **Demizu, Y.**, Development of helical cell penetrating peptides using non-proteinogenic amino acids, *Lindau Nobel Laureate Meetings 2017*, Germany (2017.6).
43. **Demizu, Y.**, Yamashita, H., Misawa, T., Oba, M., Tanaka, M., Kurihara, M., Development of helix-stabilized cell-penetrating peptides as an intracellular delivery tool, *34th European Peptide Symposium & 8th International Peptide Symposium*, Germany (2016.9).
44. Tanaka, M., Koba, Y., Ueda, A., Doi, M., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Oba, M., Helical secondary structures of peptides having chiral five-membered ring amino acids with an acetal moiety, *34th European Peptide Symposium & 8th International Peptide Symposium*, Germany (2016.9).
45. Naito, M., Hattori, T., Ohoka, N., Shibata, N., Shoda, T., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Protein knockdown by SNIPER compounds: Application for basic research and cancer therapy, *The 10th AACR-JCA Joint Conference*, Hawaii (2016.2).
46. Misawa, T., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Structural development of stapled short helical peptides as vitamin D receptor (VDR)-coactivator interaction inhibitors, *PACIFICHEM 2015*, Hawaii (2015.12).
47. Shoda, T., Kato, M., Okuhira, K., **Demizu, Y.**, Inoue, H., Naito, M., Kurihara, M., Design, synthesis and evaluation of tamoxifen derivatives as new selective estrogen receptor down-regulators, *PACIFICHEM 2015*, Hawaii (2015.12).
48. **Demizu, Y.**, Misawa, T., Kurihara, M., Development of stabilized helical peptides and their functionalization, *13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry*, Kyoto (2015.11).
49. **Demizu, Y.**, Misawa, T., Kanda, Y., Sekino, Y., Kurihara, M., Development of cell-penetrating fragment conjugated helical peptides as inhibitors of estrogen receptor-mediated transcription, *The 11th Australian Peptide Conference 2015*, Australia (2015.10).
50. Oba, M., Furukawa, K., Kato, T., **Demizu, Y.**, Yamashita, H., Kurihara, M., Tanaka, M., Cell-penetrating ability and plasmid DNA delivery using fluorescein-labeled arginine-rich peptides, *The 11th Australian Peptide Conference 2015*, Australia (2015.10).
51. Misawa, T., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Structure-activity relationship analysis of short helical peptides as VDR-coactivator interaction inhibitors, 第 43 回構造活性相関シンポジウム, 第 10 回薬物の分子設計と開発に関する日中シンポジウム (2015. 9) .

52. **Demizu, Y.**, Misawa, T., Yamashita, H., Doi, M., Sato, Y., Tanaka, M., Kurihara, M., Conformations of LD-peptides containing equal amounts of L-amino acids, D-amino acids, and achiral α,α -disubstituted amino acids, *33rd European Peptide Symposium*, Sophia (2014.9).
53. Kurihara, M., Kawamura, M., Misawa, T., Sato, Y., **Demizu, Y.**, Stapled short helical peptides for vitamin D receptor-coactivator interaction inhibitor, *33rd European Peptide Symposium*, Sophia (2014.9).
54. Tanaka, M., Takazaki, H., Kawabe, N., Doi, M., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Suemune, H., Oba, M., Helical secondary structures of peptides having chiral cyclic amino acid with two azido functional groups, *33rd European Peptide Symposium*, Sophia (2014.9).
55. Okuhira, K., **Demizu, Y.**, Ohoka, N., Shibata, N., Hattori, T., Nishimaki-Mogami, T., Kurihara, M., Okuda, H., Naito, M., Bestatin/tamoxifen hybrid molecule induces proteasomal degradation of estrogen receptor α and necrotic cell death in breast cancer cells, *Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, The Ubiquitin System: From Basic Science to Drug Discovery*, Big Sky (2014.1).
56. **Demizu, Y.**, Yamashita, H., Sato, Y., Doi, M., Oba, M., Tanaka, M., Kurihara, M., Helical screw-sense control of LD-peptides containing equal amounts of L- and D-amino acids, *4th Asia-Pacific International Peptide Symposium (APIPS2013)*, Osaka (2013.11).
57. Yamazaki, N., **Demizu, Y.**, Sato, Y., Doi, M., Kurihara, M., Development of helical foldamer containing a combination of cyclopentane-1,2-diamine and 2,2-dimethylmalonic acid, *4th Asia-Pacific International Peptide Symposium (APIPS2013)*, Osaka (2013.11).
58. Sugiyama, T., Kuwata, K., Imamura, Y., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Takano, M., Kittaka, A. Sequence-specific cleavage of DNA by β -peptide nucleic acid bearing a pendant metal complex, *4th Asia-Pacific International Peptide Symposium (APIPS2013)*, Osaka (2013.11).
59. **Demizu, Y.**, Kawamura, M., Sato, Y., Doi, M., Tanaka, M., Kurihara, M., Development of short helical peptides capable for inhibiting vitamin D receptor-coactivator interactions, *The 2nd Official Conference of the International Chemical Biology Society (ICBS2013)*, Kyoto (2013.10).
60. Yamada, S., Kotake, Y., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Sekino, Y., Kanda, Y., Mitochondrial isocitrate dehydrogenase is the target of tributyltin, *The 4th International Symposium on Dynamics of Mitochondria*, Okinawa (2013.10).

61. Oba, M., Kato, I., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Doi, M., Takano, Y., Suemune, H., Tanaka, M., Synthesis of cyclic α,α -disubstituted amino acids bearing a pendent chiral center and conformational analysis of heteropeptides containing their amino acids, *The 10th Australian Peptide Conference 2013*, Malaysia (2013.9).
62. **Demizu, Y.**, Kawamura, M., Sato, Y., Doi, M., Tanaka, M., Kurihara, M., Development of stabilized helical peptides for vitamin D receptor-coactivator interaction inhibitor, *The 10th Australian Peptide Conference 2013*, Malaysia (2013.9).
63. **Demizu, Y.**, Nagoya, S., Sato, Y., Doi, M., Tanaka, M., Kurihara, M., Development of stabilized helical peptides for VDR-coactivator interaction inhibitor, *The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry*, Nagasaki (2013.5).
64. Oba, M., Kato, I., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Doi, M., Takano, Y., Suemune, H., Tanaka, M., Synthesis of cyclic α -amino acids bearing a pendent chiral center and conformational studies on peptides containing their amino acids in Aib sequence, *The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry*, Nagasaki (2013.5).
65. Okuhira, K., **Demizu, Y.**, Ohoka, N., Shibata, N., Hattori, T., Nishimaki-Mogami, T., Kurihara, M., Okuda, H., Naito, M., Development of SNIPER(ER) that induces estrogen receptor degradation followed by rapid cell death in breast cancer cells, *The 9th AACR-JCA Joint Conference*, Hawaii (2013.2).
66. Nagoya, S., **Demizu, Y.**, Sato, Y., Nagumo, S., Doi, M., Tanaka, M., Kurihara, M., Design and synthesis of stabilized helical peptide for transcriptional inhibitor of vitamin D receptor, *The 11th International Symposium on Advanced Technology (ISAT-Special)*, Tokyo (2012.10).
67. Naito, M., Okuhira, K., **Demizu, Y.**, Itoh, Y., Ishikawa, M., Ohoka, N., Shibata, N., Hattori, T., Nishimaki-Mogami, T., Kurihara, M., Hashimoto, Y., Development of hybrid small molecules that induce IAP-mediated ubiquitylation and proteasomal degradation of target proteins in a specific manner, *Genetics and Chemistry Sharing a Language of Discovery*, Boston (2012.5).
68. Okuhira, K., **Demizu, Y.**, Ohoka, N., Shibata, N., Hattori, T., Nishimaki-Mogami, T., Kurihara, M., Okuda, H., Naito, M., Development of SNIPER(ER) that induces estrogen receptor degradation, *6th International Conference SUMO, Ubiquitin, UBL Protein: Implications for Human Diseases*, Houston (2012.2).
69. Okuhira, K., **Demizu, Y.**, Ohoka, N., Shibata, N., Hattori, T., Nishimaki-Mogami, T., Kurihara, M., Okuda, H., Naito, M., Degradation of estrogen receptor induced by

- a small hybrid molecule SNIPER(ER), *16th Japanese Foundation for Cancer Research-International Symposium on Cancer Chemotherapy*, Tokyo (2012.1).
70. **Demizu, Y.**, Motoi, H., Okuhira, K., Fukuhara, K., Okuda, H., Naito, M., Kurihara, M., Design and synthesis of ER degradation inducer for protein knockdown strategy, *8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium*, Tokyo (2011.12).
 71. Kurihara, M., **Demizu, Y.**, Kurashima, M., Sato, Y., Horie, K., Takagi, K., Kakuda, S., Takimoto-Kamimura, M., Okuda, H., Design of non-secosteroidal VDR ligands and hydrogen-bond network in VDR-LBD, *8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium*, Tokyo (2011.11).
 72. Nagoya, S., **Demizu, Y.**, Sato, Y., Doi, M., Tanaka, M., Okuda, H., Kurihara, M. Design of stabilized α -helical peptides for transcriptional inhibitor of nuclear receptor, *8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium*, Tokyo (2011.11).
 73. Sugiyama, T., Imamura, Y., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Takano, M., Kittaka, A. Synthesis and DNA binding properties of β -chiral peptide nucleic Acid, *8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium*, Tokyo (2011.11).
 74. Oba, M., Hirata, T., **Demizu, Y.**, Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., Tanaka, M. Synthesis of cyclic amino acids with two chiral centers and secondary structures of their peptides, *8th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium*, Tokyo (2011.11).
 75. **Demizu, Y.**, Sato, Y., Horie, K., Takagi, K., Kakuda, S., Takimoto-Kamimura, M., Okuda, H., Kurihara, M., Design of non-secosteroidal VDR ligands and binding mode to VDR-LBD, *4th European Conference on Chemistry for Life Sciences*, Budapest (2011.8).
 76. **Demizu, Y.**, Doi, M., Sato, Y., Tanaka, M., Okuda, H., Kurihara, M., Controlling helical peptides containing equal numbers of L- and D-amino acids, *22nd American Peptide Symposium*, SanDiego (2011.6).
 77. Kurihara, M., **Demizu, Y.**, Yamagata, N., Sato, Y., Takeuchi, Y., Doi, M., Tanaka, M., Okuda, H., Design of a stabilized short helical peptide and its application, *22nd American Peptide Symposium*, SanDiego (2011.6).
 78. Tanaka, M., Nagano, M., **Demizu, Y.**, Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., Helical secondary structures of oligopeptides composed of chiral five-membered ring amino acids, *22nd American Peptide Symposium*, SanDiego (2011.6).
 79. **Demizu, Y.**, Doi, M., Sato, Y., Tanaka, M., Okuda, H., Kurihara, M., Conformational studies of diastereomeric -Leu-Aib- peptides, *5th International Peptide Symposium*, Kyoto (2010.12).

80. Yamagata, N., **Demizu, Y.**, Doi, M., Sato, Y., Nagasawa, K., Tanaka, M., Okuda, H., Kurihara, M., Design of short α -helical peptides for transcriptional inhibitor of nuclear receptor, *5th International Peptide Symposium*, Kyoto (2010.12).
81. Kurihara, M., **Demizu, Y.**, Sato, Y., Yamagata, N., Okuda, H., Nagano, M., Doi, M., Tanaka, M., Suemune, H., Computational study on conformation of oligopeptides containing α,α -disubstituted Amino acids, *5th International Peptide Symposium*, Kyoto (2010.12).
82. Sugiyama, T., Imamura, Y., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Takano, M., Kittaka, A., Synthesis of 4-substituted chiral PNA monomers, *5th International Peptide Symposium*, Kyoto (2010.12).
83. **Demizu, Y.**, Sato, Y., Tanaka, M., Doi, M., Suemune, H., Okuda, H., Kurihara, M., Controlling the helical screw sense of Aib-based peptides with chiral α -amino acids, *PACIFICHEM 2010*, Hawaii (2010.12).
84. Kurihara, M., **Demizu, Y.**, Sato, Y., Yamagata, N., Okuda, H., Nagano, M., Doi, M., Tanaka, M., Suemune, H., Computational study on helical structure of alpha,alpha-disubstituted oligopeptides containing chiral alpha-amino acids, *31st European Peptide Symposium*, Copenhagen (2010.9).
85. **Demizu, Y.**, Doi, M., Sato, Y., Tanaka, M., Okuda, H., Kurihara, M., Structural control of diastereomeric Leu-Leu-Aib-Leu-Leu-Aib sequences, *31st European Peptide Symposium*, Copenhagen (2010.9).
86. **Demizu, Y.**, Sato, Y., Ochiai, E., Horie, K., Kakua, S., Takimoto-Kamimura, M., Okuda, H., Kurihara, M., Development of non-secosteroidal VDR ligands, *The 21st French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry*, Kyoto (2010.5).
87. Libendi, S. S., **Demizu, Y.**, Kuriyama, M., Onomura, O., Selective anodic cyanation of protected amines at α -position, *2nd Asian Symposium on Pharmaceutical Sciences*, Nagasaki (2009).
88. Tanaka, M., Nagano, M., **Demizu, Y.**, Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., Controlling α -helical secondary structure of oligopeptides and its use as a chiral catalyst, *30th European Peptide Symposium*, Helsinki (2008).
89. Kurihara, M., Sato, Y., Yamagata, N., Sano, K., Okuda, H., Nagano, M., **Demizu, Y.**, Doi, M., Tanaka, M., Suemune, H., Computational study on secondary structure of oligopeptides containing chiral α,α -disubstituted α -amino acids, *30th European Peptide Symposium*, Helsinki (2008).
90. Kubo, Y., **Demizu, Y.**, Onomura, O. Regioselective protection of sugars catalyzed by organotin, *The 1st International Symposium on Process Chemistry*, Kyoto (2008).

91. **Demizu, Y.**, Shiigi, H., Mori, H., Matsumoto, K., Matsumura, Y., Onomura, O., Chiral azabicyclo-*N*-oxyls and asymmetric oxidation of *secondary* alcohols mediated by them, *213th ECS Meeting*, Phoenix (2008).
92. Minato, D., Arimoto, H., Nagasue, Y., **Demizu, Y.**, Matsumura, Y., Onomura, O., Asymmetric electrochemical oxidation of 1,2-diols and 1,2-amino aldehydes catalyzed by chiral copper catalyst, *213th ECS Meeting*, Phoenix (2008).
93. **Demizu, Y.**, Oda, T., Onomura, O., Matsumura, Y., Electrochemical oxidation of alcohols catalyzed by new organic mediators, *211th ECS Meeting*, Chicago (2007).
94. Matsumura, Y., **Demizu, Y.**, Libendi, S.S., Onomura, O., Chemical and electrochemical devices for high regioselectivity in electrochemical α -methoxylation of *N*-protected cyclic amines, *211th ECS Meeting*, Chicago (2007).
95. Matsumura, Y., Arimoto, H., Nagasue, Y., **Demizu, Y.**, Onomura, O., Asymmetric electrochemical oxidation of 1,2-diols and the related compounds, *The 2nd International Symposium on Organic Electron Transfer Chemistry*, Yokohama (2007).
96. Matsumoto, K., **Demizu, Y.**, Onomura, O., Matsumura, Y., Chiral copper(II) catalyzed asymmetric mono-tosylation of *meso*-diols, *Second International Conference on Advanced Organic Synthesis Directed toward the Ultimate Efficiency and Practicability (International Conference on Asymmetric Organocatalysis)*, Shiga (2007).
97. Arimoto, H., **Demizu, Y.**, Onomura, O., Matsumura, Y., Chiral copper(II) catalyzed enantioselective oxidation of 1,2-diols, *14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis*, Nara (2007).
98. Nagano, M., Tanaka, M., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Doi, M., Suemune, H., Controlling 3_{10} -helix and α -helix of short L-leucine-peptides by α,α -disubstituted amino acid, *4th International Peptide Symposium*, Australia (2007).
99. Tanaka, M., Nagano, M., Tanda, K., Takazaki, H., **Demizu, Y.**, Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., Molecular design for chiral α,α -disubstituted amino acids and conformational study of their peptides, *4th International Peptide Symposium*, Australia (2007).
100. Nagano, M., **Demizu, Y.**, Tanaka, M., Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., Conformational analysis of oligopeptides composed of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids bearing two chiral centers, *The Post Symposium for ICOB-5 & ISCNP-25 International Conference*, Fukuoka (2006).

101. Matsumoto, K., Onomura, O., **Demizu, Y.**, Matsumura, Y., Asymmetric desymmetrization of *meso*-1,2-diols, *The Post Symposium for ICOB-5 & ISCNP-25 International Conference*, Fukuoka (2006).
102. Mitsuda, M., Tanaka, T., **Demizu, Y.**, Onomura, O., Matsumura, Y., Asymmetric benzylation of 1,2-amino alcohols, *10th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry*, Kyoto (2006).
103. Tanaka, M., Nagano, M., **Demizu, Y.**, Anan, K., Kurihara, M., Doi, M., Suemune, H., Side-chain chiral centers of amino acids and helical-screw handedness of their peptides, *29th European Peptide Symposium*, Gdansk (2006).
104. Nagano, M., Tanaka, M., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Doi, M., Suemune, H., Controlling the helical secondary structure of heteropeptides using chiral cyclic α,α -disubstituted amino acids, *29th European Peptide Symposium*, Gdansk (2006).
105. Kurihara, M., Hakamata, W., Sato, Y., Okuda, H., **Demizu, Y.**, Nagano, M., Anan, K., Doi, M., Tanaka, M., Suemune, H., Computational study on helical structures of oligopeptides containing chiral cyclic α -amino acids, *29th European Peptide Symposium*, Gdansk (2006).
106. Kurihara, M., Sato, Y., Hakamata, W., Okuda, H., Nagano, M., Hama, M., **Demizu, Y.**, Doi, M., Tanaka, M., Suemune, H., Computational study on helical structures of oligopeptides containing chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids, *The International Conference of 43rd Japanese Peptide Symposium and 4th Peptide Engineering Meeting (43JPS/PEM4)*, Yokohama (2006).
107. Tanaka, M., Nagano, M., Hama, M., Kawabe, N., Anan, K., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Doi, M., Suemune, H., Controlling helical secondary structures by cyclic α,α -disubstituted amino acids having side-chain chiral centers, *The International Conference of 43rd Japanese Peptide Symposium and 4th Peptide Engineering Meeting (43JPS/PEM4)*, Yokohama (2006).
108. Hama, M., Tanaka, M., Yoshida, Y., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Suemune, H., Synthesis of optically active cyclic α,α -disubstituted amino acids by enzymatic kinetic resolution and conformational analysis of their peptides, *The International Conference of 43rd Japanese Peptide Symposium and 4th Peptide Engineering Meeting (43JPS/PEM4)*, Yokohama (2006).
109. Maruyama, T., Moriwaka, N., **Demizu, Y.**, Ohtsuka, M., Synthesis of purin-2-yl carboxylate from O6-methylguanosine, *4th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry*, Fukuoka (2005).
110. Nagano, M., **Demizu, Y.**, Tanaka, M., Kurihara, M., Doi, M., Suemune, H., Helical secondary structure of oligopeptides composed of cyclic α,α -disubstituted α -amino

- acid having two chiral centers at the α - and γ -positions, *The 17th Japan-Korea Joint Seminar for Young Organic Chemists*, Nagasaki (2005).
111. Kawabe, N., **Demizu, Y.**, Tanaka, M., Suemune, H., Design and synthesis of peptides containing various chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids, *The 17th Japan-Korea Joint Seminar for Young Organic Chemists*, Nagasaki (2005).
112. Kurihara, M., Okuda, H., Oba, M., **Demizu, Y.**, Tanaka, M., Suemune, H., Prediction of helical screw sense of oligopeptides containing chiral α,α -disubstituted α -amino acids, *Computational study, 4th International and 28th European Peptide Symposium*, Prague (2004).
113. **Demizu, Y.**, Tanaka, M., Anan, K., Yoshida, Y., Doi, M., Kurihara, M., Maruyama, T., Suemune, H., Design and synthesis of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acids and its peptides, *4th International and 28th European Peptide Symposium*, Prague (2004).
114. Tanaka, M., **Demizu, Y.**, Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., Controlling the helical screw sense of oligopeptides by α -amino acid side-chain chirality, *4th International and 28th European Peptide Symposium*, Prague (2004).
115. Kurihara, M., Sato, Y., Hakamata, W., Okuda, H., **Demizu, Y.**, Anan, K., Takano, Y., Oba, M., Doi, M., Tanaka, M., Suemune, H., Computational study on conformation of oligopeptides controlled by side chain chiralities of alpha-amino acids, *1st Asian-Pacific International Peptide Symposium-41st Japanese Peptide Symposium*, Fukuoka (2004).
116. Tanaka, M., **Demizu, Y.**, Anan, K., Kawabe, N., Takano, Y., Oba, M., Maruyama, T., Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., Relationship between alpha-amino acid chiral center and helical secondary structure of its oligopeptides, *1st Asian-Pacific International Peptide Symposium-41st Japanese Peptide Symposium*, Fukuoka (2004).
117. Tanaka, M., **Demizu, Y.**, Doi, M., Kurihara, M., Suemune, H., 3_{10} -Helical structure of peptides composed of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acid, *9th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry*, Kyoto (2003).
118. Tanaka, M., Nishimura, S., Oba, M., **Demizu, Y.**, Kurihara, M., Suemune, H., Conformational study of heteropeptide prepared from chiral α -ethylated α,α -disubstituted α -amino acids, *27th European Peptide Symposium*, Italy (2002).
119. **Demizu, Y.**, Tanaka, M., Kurihara, M., Suemune, H., Synthesis of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino Acid and its peptides, *The 13th Japan-Korea Joint Seminar for Young Organic Chemists*, Yamaguchi (2001).

国内学会

令和7年

1. 松下幸平, 辻巖一郎, 赤根弘敏, 石井雄二, 高須伸二, 小川久美子, 伊藤貴仁, 横尾英知, 出水庸介, 平林容子, 齋藤嘉朗, 本間正充, 豊田武士, プベルル酸のラットを用いた 28 日間反復経口投与毒性試験, 第 52 回日本毒性学会学術年会, 沖縄 (2025. 7/2-4).
2. 橋本創太, 築茂由則, 大岡伸通, 遠藤彬則, 大澤陽, 出水庸介, 大竹史明, 佐伯泰, 村田茂穂, 内藤幹彦, IAP-based PROTAC によりリソソーム分解誘導される基質の同定と分解誘導機構の解明, 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 北海道 (2025. 7/2-4).
3. 佐藤和佳, 古内志拓, 王佑香梨, 横尾英知, 出水庸介, 村田茂穂, 内藤幹彦, IAP アンタゴニスト-IAP ペアの Bump & Hole 改変による新しいタンパク質分解系, 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 北海道 (2025. 7/2-4).
4. 藤田陽, 出水庸介, β -catenin を標的とした PPI 阻害ペプチドの *in silico* デザイン, 第 29 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 北海道 (2025. 7/2-4).
5. Hidetomo Yokoo, Maho Miyamoto, Kosuke Saito, Yosuke Demizu, Efficient intracellular delivery and enhanced degradation activity of PROTAC-cell penetrating peptide (CPP) conjugates through nanoparticle formation, 第 41 回日本 DDS 学会学術集会, 千葉 (2025. 6/17-18) .
6. 伊藤貴仁, 大岡伸通, 青山道彦, 三澤隆史, 井上貴雄, 石井明子, 出水庸介, ヘリカルペプチドを用いた GalNAc の配向性制御戦略による肝細胞選択的キャリアの開発, 第 41 回日本 DDS 学会学術集会, 千葉 (2025. 6/17-18) .
7. 横尾英知, 大澤陽, 齊藤公亮, 出水庸介, PROTAC の膜透過性や細胞内分解活性の相関および特有の濃度依存性の解析, ケミカルバイオロジー第 19 回年会, 京都 (2025. 6/4-6).
8. 谷長優里, 織本雅久, 宮本真歩, 山田佳鳳, 横尾英知, 出水庸介, 吉田優, 逐次クリック反応を用いたキメラ化合物の簡便合成法の開発, ケミカルバイオロジー第 19 回年会, 京都 (2025. 6/4-6).
9. 永沼美弥子, 辻巖一郎, 出水庸介, CPP/HDO 複合体によるデコイ核酸型 PROTAC の細胞内送達法の開発, ケミカルバイオロジー第 19 回年会, 京都 (2025. 6/4-6).
10. 宮本真歩, 横尾英知, 齊藤公亮, 出水庸介, CPP 導入とナノ粒子形成による PROTAC の効率的細胞内導入, ケミカルバイオロジー第 19 回年会, 京都 (2025. 6/4-6).

11. 伊藤貴仁, 大岡伸通, 青山道彦, 三澤隆史, 井上貴雄, 石井明子, 出水庸介, ヘリカルペプチドの側鎖配向性を利用した肝臓選択的キャリアの開発, 第23回次世代を担う有機化学シンポジウム, 京都 (2025. 5/30-31).
12. 横尾英知, 小出達夫, 宮崎玉樹, 山本栄一, 出水庸介, 内山奈穂子, 高度分析技術を用いた共結晶製剤の特性評価法の開発, 日本薬剤学会第40年会, 東京 (2025. 5/22-24).
13. 佐藤渉, 関根優莉奈, 三澤隆史, 伊藤貴仁, 出水庸介, 非天然アミノ酸修飾を活用した細胞膜透過ペプチドの応用, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
14. 猪熊明日子, 横尾英知, 出水庸介, 両親媒性CPPフォルダマーの設計と合成, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
15. 寺内瞳, 戸板太陽, 辻巖一郎, 石田祥一, 浴本亨, 池口満徳, 寺山慧, 出水庸介, 新規 STING アンタゴニストの創出, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
16. 大澤陽, 柴田識人, 有竹浩介, 出水庸介, リポカリン型プロスタグランジン D₂ 合成酵素を標的とした PROTAC の開発, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
17. 藤田陽, 出水庸介, 細胞内を標的とした PPI 阻害ペプチドの *in silico* デザイン, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
18. 青山道彦, 多田稔, 横尾英知, 伊藤貴仁, 三澤隆史, 出水庸介, 石井明子, 部位特異的抗体薬物複合体の生物活性に対するリンカー構造と修飾部位の影響, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
19. 齋藤司, 齊藤広樹, 宮島友, 三澤隆史, 出水庸介, 影近弘之, 藤井晋也, ホスフィンハロボランの疎水性構造としての性質と新規 VDR リガンドへの展開, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
20. 村上優貴, 石田祥一, 出水庸介, 寺山慧, 細胞膜透過性を加味した PROTAC リンカー生成 AI の開発, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
21. 正田卓司, 坂本勝正, 大垣内誠, 藤川健, 出水庸介, 坂本知昭, 気液反応における HPLC 用フローバイアルの評価, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
22. 山内荘摩, 鶴留優也, 熊野那奈, 伊藤貴仁, 出水庸介, 堀口道子, 牛島健太郎, スタチン系薬のアルブミン結合性における動物種差, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
23. 岩本媛美, 藤森功, 濱村賢吾, 小西純, 出水庸介, 有竹浩介, 造血器型プロスタグランジン D 合成酵素を標的とした PROTAC の迅速評価系構築, 日本薬学会第145年会, 福岡 (2025. 3/27-29).

24. 辻耕平, 黄学元, 宮本真歩, 横尾英知, 小早川拓也, 出水庸介, 玉村啓和, HIV 由来ペプチドを E3 リガンドとした新規 BRD4 分解誘導剤の創製研究, 日本薬学会第 145 年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
25. 伊藤貴仁, 大岡伸通, 青山道彦, 三澤隆史, 井上貴雄, 石井明子, 出水庸介, ヘリカルペプチドを足場として利用した肝細胞選択的 DDS キャリアの開発, 日本薬学会第 145 年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
26. 横尾英知, 伊東祐美, 菱沼知美, 岡本徹, 出水庸介, 選択的 SPP 阻害剤の開発, 日本薬学会第 145 年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
27. 臼井一晃, 松本祥汰, 出水庸介, 唐澤悟, 量子化学計算と機械学習を融合したニトロソアミン類の発がん性予測手法の開発, 日本薬学会第 145 年会, 福岡 (2025. 3/27-29).
28. 横尾英知, 武田紗和, 出水庸介, ペプトイドを主鎖とした新規人工核酸の開発とその応用研究, 日本化学会第 105 春季年会, 大阪 (2025. 3/26-29).
29. 石川リカ, 齊藤公亮, 白崎幹雄, 志賀功一, 嵐田直子, 山元一輝, 水落正慶, 小山亜紀, 岩崎佳代, 福田卓, 岸野有紀, 下田瞳, 内山仁, 宇根理香子, 大和遼, 合田竜弥, 三澤隆史, 出水庸介, 斎藤嘉朗, 花尻(木倉) 瑠理, 環状ペプチド 3003pep の血漿中濃度測定法の構築: 多施設における比較検討, 第 16 回 JBF シンポジウム, 姫路 (2025. 3/3-5).

令和 6 年

30. 寺内瞳, 戸板太陽, 辻巖一郎, 石田祥一, 浴本亨, 池口満徳, 寺山慧, 出水庸介, *In silico* スクリーニングを活用した STING アンタゴニストの創製, 第 52 回構造活性相関シンポジウム, 川崎 (2024. 12/12-13).
31. 藤田陽, 出水庸介, *In silico* 技術を活用した PPI 阻害ペプチドの合理的デザイン, 第 52 回構造活性相関シンポジウム, 川崎 (2024. 12/12-13).
32. 村上優貴, 石田祥一, 出水庸介, 寺山慧, 細胞膜透過性を考慮した PROTAC リンカー生成 AI の開発, 第 52 回構造活性相関シンポジウム, 川崎 (2024. 12/12-13).
33. 青山道彦, 伊藤貴仁, 三澤隆史, 多田稔, 出水庸介, 石井明子, GalNAc 型 LYTAC の生物活性における修飾部位の影響評価, 第 3 回日本抗体学会学術大会, 仙台 (2024. 12/9-10) .
34. 井上薫, 川島明, 広瀬明彦, 杉山圭一, 出水庸介, 橋本清弘, 三島雅之, ニトロソアミン類の発がん性試験結果に基づく発がん性指標の導出と CPCA による推定許容摂取量との比較, 日本環境変異原ゲノム学会第 53 回大会, 岡山 (2024. 12/7-8) .

35. 出水庸介, 橋井則貴, 大岡伸通, 齊藤公亮, 石井明子, 伊豆津健一, 杉山圭一, 齋藤嘉朗, 中分子ペプチド医薬品の品質及び安全性評価に関する研究, 第10回レギュラトリーサイエンス公開シンポジウム, 東京 (2024. 12/3) .
36. 宮本真歩, 横尾英知, 出水庸介, 細胞膜透過性ペプチドを利用した PROTAC の効率的細胞内導入, 第47回日本分子生物学会年会, 福岡 (2024. 11/27-29) .
37. 森谷俊介, 米田有希, 出水庸介, 栗原正明, 杉山亨, カチオン性グアニン誘導体ペプチド核酸の DNA 結合特性の評価, 第41回メディシナルケミストリーシンポジウム, 京都 (2024. 11/20-22) .
38. 古内志拓, 横尾英知, 内藤幹彦, 井上貴雄, 大岡伸通, 出水庸介, PROTAC の開発に利用する新規 E3 リガーゼリガンドの構造活性相関研究, 第41回メディシナルケミストリーシンポジウム, 京都 (2024. 11/20-22) .
39. 出水庸介, 横尾英知, 黒原崇, 中島謙治, 鈴木哲朗, GLS4 耐性 HBV 株に有効性を示すキメラ化合物の創製, 第41回メディシナルケミストリーシンポジウム, 京都 (2024. 11/20-22) .
40. 横尾英知, 伊東祐美, 菱沼知美, 岡本徹, 出水庸介, SPP 阻害活性及び選択性向上を目指した Y0-01027 の構造活性相関の検討, 第41回メディシナルケミストリーシンポジウム, 京都 (2024. 11/20-22) .
41. 寺内瞳, 戸板太陽, 辻巖一郎, 石田祥一, 浴本亨, 池口満徳, 寺山慧, 出水庸介, 新規 STING アンタゴニストの創製, 第63回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会, 岡山 (2024. 11/16-17) .
42. 鈴木茉菜芽, 藤田陽, 西山敦哉, 出水庸介, 中西真, UHRF1 を標的とした PROTAC の開発, 第97回日本生化学会大会, 横浜 (2024. 11/6-8) .
43. 齋藤嘉朗, 三澤隆史, 出水庸介, 蜂須賀暁子, 医薬品等規制調和・評価研究事業: セラノスティクス対応放射性医薬品の試験要件についての評価研究: 安定供給と使用促進へ, 第34回日本医療薬学会年会シンポジウム 37, 千葉 (2024. 11/3) .
44. 村上優貴, 石田祥一, 出水庸介, 寺山慧, *De novo* PROTAC linker design to enhance cell membrane permeability based on a data-driven method, CBI 学会 2024 年大会, 東京 (2024. 10/28-31) .
45. Shun-suke Moriya, Saki Matsumoto, Yosuke Demizu, Masaaki Kurihara, Atsushi Kurihara, Toru Sugiyama, Design and synthesis of a new cytosine derivative for PNA monomer with improved stability and affinity, 第61回ペプチド討論会, 名古屋 (2024. 10/29-31) .
46. 足達晴香, 上田篤志, 井吉彬太, 出水庸介, 田中正一, Development of α -helical peptides using five-membered α -carbocyclic α , α -disubstituted α -amino acids for side chain cross-linking, 第61回ペ

プチド討論会, 名古屋 (2024. 10/29-31).

47. 宮本真歩, 横尾英知, 出水庸介, Efficient intracellular delivery of PROTAC using cell-penetrating peptides, 第 61 回ペプチド討論会, 名古屋 (2024. 10/29-31). (**ポスター賞**)
48. 武田紗和, 横尾英知, 出水庸介, Development of peptoid nucleic acids and their structural properties, 第 61 回ペプチド討論会, 名古屋 (2024. 10/29-31).
49. 横尾英知, 周東睿, 出水庸介, Development of peptide-based ubiquitin ligase ligands with cell permeability, 第 61 回ペプチド討論会, 名古屋 (2024. 10/29-31).
50. 許涵喬, 横尾英知, 大岡伸通, 井上貴雄, 出水庸介, 光制御型 PROTAC の開発, 第 50 回反応と合成の進歩シンポジウム, 神戸 (2024. 10/27-28) .
51. 辻巖一郎, 三澤隆史, 出水庸介, 中分子医薬品の品質評価法における試薬および溶媒量の低減のための検討, 第 10 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 滋賀 (2024. 9/21).
52. 谷長優里, 織本雅久, 宮本真歩, 山田佳鳳, 横尾英知, 出水庸介, 吉田優, 3 分岐プラットフォーム分子を利用したキメラ化合物合成法の開発, 第 40 回有機合成化学セミナー, 新潟 (2024. 9/18-20) .
53. 横尾英知, 辻巖一郎, 大岡伸通, 井上貴雄, 内藤幹彦, 出水庸介, ALK 融合タンパク質を標的とする PROTAC の開発研究, 第 68 回日本薬学会関東支部大会, 新潟 (2024. 9/14-15).
54. 渡邊大嗣, 大岡伸通, 永沼美弥子, 辻巖一郎, 井上貴雄, 出水庸介, ヌクレアーゼ耐性向上に着目したアプタマー-PROTAC の開発, 第 68 回日本薬学会関東支部大会, 新潟 (2024. 9/14-15).
55. 石川リカ, 齊藤公亮, 三澤隆史, 出水庸介, 斎藤嘉朗, 花尻(木倉)瑠理, 血漿中の Peptide-drug conjugate BT1718 の LC-MS/MS による定量分析法の構築とバリデーション, 第 36 回バイオメディカル分析科学シンポジウム, 静岡 (2024. 8/28-29) .
56. 三澤隆史, 伊藤貴仁, 倉島恵愛, 山崎聖司, 西野邦彦, 出水庸介, 多剤耐性菌を標的とした新規抗菌ペプチドフォルダマーの開発, 第 97 回日本細菌学会総会, 札幌 (2024. 8/7-9) .
57. 平野元春, 原矢佑樹, 阿部康弘, 三澤隆史, 柴田識人, 佐藤陽治, 出水庸介, 両親媒性ステーブルペプチドを用いた核酸の細胞内輸送とメカニズム解明, 日本核酸医薬学会第 9 回年会, 仙台 (2024. 7/15-18).
58. 網谷美里, 平井伶衣良, 樋口裕城, 畑直子, 野澤さおり, 永沼美弥子, 辻巖一郎, 出水庸介, 中島多恵子, イオンペア逆相 HPLC を用いたペプチド-オリ

- ゴ核酸コンジュゲート体の分離最適化：適切なイオンペア試薬を用いた高感度不純物分析，日本核酸医薬学会第9回年会，仙台（2024. 7/15-18）.
59. 横尾英知，堀越奏子，土屋圭輔，出水庸介，膜透過ペプチドの末端修飾による pDNA デリバリーキャリアの効率化，第40年会日本 DDS 学会学術大会，筑波（2024. 7/9-11）.
 60. 横尾英知，小出達夫，青山佳敬，魚返祐太朗，山本栄一，出水庸介，内山奈穂子，インドメタシン・ニコチンアミドの共結晶原薬を用いた高度構造解析法の開発，日本プロセス化学会 2024 サマーシンポジウム，長崎（2024. 7/4-5）.
 61. 山本耕介，鳥越康平，栗山正巳，出水庸介，尾野村治，芳香族アゾメチンイリドとスルフェンの (3+2) 付加環化反応，日本プロセス化学会 2024 サマーシンポジウム，長崎（2024. 7/4-5）.
 62. 斎藤嘉朗，杉山圭一，齊藤公亮，石井明子，出水庸介，直田みさき，真木一茂，非天然型構造を有する化学合成ペプチド医薬品の非臨床安全性評価に関するガイドライン案，第51回日本毒性学会学術年会，福岡（2024. 7/3-5）.
 63. 藤田陽，出水庸介，*In silico* 手法を利用した PPI 阻害ペプチドの開発，第28回日本がん分子標的治療学会学術集会，東京（2024. 6/19-21）.
 64. 大岡伸通，内藤幹彦，出水庸介，ギルテリチニブをリガンドに利用した PROTAC による ALK 融合タンパク質の分解，第28回日本がん分子標的治療学会学術集会，東京（2024. 6/19-21）.
 65. 村上優貴，石田祥一，出水庸介，寺山慧，ラボラトリーオートメーションの実現に向けた抗菌ペプチド設計におけるワークフロー開発，第24回日本蛋白質科学会年会，北海道（2024. 6/11-13）.
 66. 正田卓司，橋井則貴，原園景，石井明子，出水庸介，エキシマー蛍光を利用した蛍光性糖鎖標識試薬の開発，ケミカルバイオロジー第18回年会，東京（2024. 5/27-29）.
 67. 横尾英知，辻巖一郎，井上貴雄，内藤幹彦，大岡伸通，出水庸介，ALK 融合タンパク質を標的とする PROTAC の構造活性相関研究，ケミカルバイオロジー第18回年会，東京（2024. 5/27-29）.
 68. 高野玲奈，横尾英知，大岡伸通，大金賢司，井上貴雄，出水庸介，UBR タンパク質を E3 リガーゼとして利用した PROTAC の開発，ケミカルバイオロジー第18回年会，東京（2024. 5/27-29）.
 69. 小出達夫，横尾英知，青山佳敬，魚返祐太朗，山本栄一，出水庸介，内山奈穂子，高度分析技術を用いた医薬品共結晶原薬の構造解析手法に関する研究，日本薬剤学会第39年会，神戸（2024. 5/23-25）.
 70. N. M. H. N. Thilakarathne, Takashi Misawa, Yosuke Demizu, Nobutoshi

Ito, Hiroyuki Kagechika, Shinya Fujii, Structure-activity relationship (SAR) study of hydrophobic moiety of nonsecosteroidal VDR ligands using diphenylsilane scaffold, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).

71. 三澤隆史, 伊藤貴仁, 加藤巧馬, 大岡伸通, 井上貴雄, 土井光暢, 出水庸介, ヘリカルテンプレートペプチドの開発と DDS キャリアへの応用, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
72. 許涵喬, 横尾英知, 大岡伸通, 井上貴雄, 出水庸介, 光分解リンカーを有する PROTAC の開発, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31). (**優秀発表賞**)
73. 古内志拓, 横尾英知, 内藤幹彦, 井上貴雄, 大岡伸通, 出水庸介, PROTAC の開発に利用する新規 E3 リガーゼリガンドの構造活性相関研究, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
74. 高野玲奈, 横尾英知, 大岡伸通, 大金賢司, 井上貴雄, 出水庸介, UBR タンパク質リガンドを活用した新規 PROTAC の開発, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
75. 武田紗和, 横尾英知, 出水庸介, ペプトイド核酸の構造特性に関する研究, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
76. 堀越奏子, 横尾英知, 土屋圭輔, 出水庸介, 核酸医薬品の効率的細胞内輸送を目指した両親媒性ステーブルペプチドの開発, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
77. 宮本真歩, 横尾英知, 出水庸介, 膜透過性ペプチドを利用した PROTAC の効率的細胞内導入, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
78. 横尾英知, 土屋圭輔, 堀越奏子, 藤田陽, 平野元春, 宮本真歩, 周東睿, 出水庸介, 疎水性ステーブルペプチドを活用したデリバリーキャリアの開発, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
79. 三澤隆史, 伊藤貴仁, 倉島恵愛, 出水庸介, カチオン性ジ置換アミノ酸を導入した抗菌ペプチドフォルダマーの開発, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
80. 藤田陽, 菊地杏美香, 有田恭平, 三澤隆史, 出水庸介, *In silico* 手法を利用した Wnt/ β -catenin シグナル経路阻害ペプチドの開発, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31). (**優秀発表賞**)
81. 辻巖一郎, 黒原崇, 横尾英知, 政田さやか, 内山奈穂子, 山本栄一, 出水庸介, *In silico* を活用した *N*-ニトロソアミン類の生成リスク評価, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
82. 正田卓司, 深町教昭, 出水庸介, 坂本知昭, フロー合成における近赤外スペ

- クトルカメラの PAT への利用可能性, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
83. 橋井則貴, 蛭田葉子, 三澤隆史, 大岡伸通, 鈴木琢雄, 出水庸介, 石井明子, 逆相クロマトグラフィーを用いた特殊環状ペプチドのペプチド関連不純物評価, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
84. 河村麻衣子, 水谷佐久美, 田中理恵, 辻巖一郎, 三澤隆史, 横尾英知, 出水庸介, 伊藤美千穂, 花尻(木倉)瑠理, ヘキサヒドロキシカンナビノール(HHC)及び構造類似化合物の異性体分析について, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
85. 森谷俊介, 大石真菜, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, DNA への結合を強めるカチオン性シトシン誘導体のペプチド核酸, 日本薬学会第 144 年会, 横浜 (2024. 3/29-31).
86. 出水庸介, ケミカルデグレーダーによるタンパク質寿命制御, タンパク質寿命が制御するシン・バイオロジー第 1 回班会議 (若手の会・ユビキチン研究会共催), 静岡 (2024. 2/11) .
87. 横尾英知, 伊東祐美, 菱沼知美, 岡本徹, 出水庸介, SPP 阻害活性及び選択性向上を目指した Y001027 誘導体開発, 「集え、多分野研究者！」感染症キャンプ in 宮崎, 宮崎 (2024. 1/26-28) .

令和 5 年

88. 斎藤嘉朗, 出水庸介, 非天然型構造を有するペプチド医薬品の安全性評価, 第 6 回医薬品毒性機序研究会シンポジウム「非天然型化学合成ペプチド医薬品の非臨床安全性評価に関するガイドライン案について」, 筑波 (2023. 12/5-6).
89. 戸板太陽, 石田祥一, 浴本亨, 池口満徳, 出水庸介, 辻巖一郎, 寺山慧, Multiple ligands docking を用いた STING を標的とした新規ヒット化合物の探索, 第 51 回構造活性相関シンポジウム, 東京 (2023. 11/20-21).
90. 田村奈月美, 小西純, 藤井清永, 濱村賢吾, 横尾英知, 柴田識人, 内藤幹彦, 出水庸介, 有竹浩介, 造血器型プロスタグランジン D 合成酵素分解誘導薬の創出-酵素阻害薬に対する優位性について-, 第 40 回日本薬学会九州山口支部大会, 福岡 (2023. 11/18-19).
91. 永沼美弥子, 大岡伸通, 辻巖一郎, 内藤幹彦, 井上貴雄, 出水庸介, 標的タンパク質拡大を志向したオリゴ核酸型 PROTAC の創製, 第 96 回日本生化学会大会, 福岡 (2023. 10/31-11/2) . (若手優秀賞)
92. 高野玲奈, 横尾英知, 大岡伸通, 大金賢司, 井上貴雄, 出水庸介, PROTAC に利用可能な新規 E3 リガンドの探索, 第 96 回日本生化学会大会, 福岡 (2023. 10/31-11/2) .

93. 中臺航太, 遠藤彬則, 富田拓哉, 柴田識人, 有竹浩介, 出水庸介, 佐伯泰, PROTAC が誘導するユビキチン化ゾーンと補助因子の解析, 第 96 回日本生化学会大会, 福岡 (2023. 10/31-11/2) .
94. 横尾英知, 土屋圭輔, 堀越奏子, 藤田陽, 平野元春, 宮本真歩, 出水庸介, Design of hydrophobic cell-penetrating stapled peptides as drug carriers, 第 60 回ペプチド討論会, 滋賀 (2023. 11/8-10).
95. 伊藤貴仁, 三澤隆史, 出水庸介, GalNAc-conjugated helical peptides as tissue-selective carrier, 第 60 回ペプチド討論会, 滋賀 (2023. 11/8-10).
96. 平野元春, 横尾英知, 大庭誠, 三澤隆史, 出水庸介, Development of stapled peptides as DDS carriers for intracellular delivery of nucleic acids, 第 60 回ペプチド討論会, 滋賀 (2023. 11/8-10).
97. 三澤隆史, 伊藤貴仁, 加藤巧馬, 大岡伸通, 井上貴雄, 土井光暢, 出水庸介, Development of helical template peptides for efficient DDS carrier, 第 60 回ペプチド討論会, 滋賀 (2023. 11/8-10).
98. 森谷俊介, Mai Kiyosue, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, Properties of peptide nucleic acid containing *N*⁶-bis(aminomethyl)benzoylated cytosine for enhanced DNA binding, 第 60 回ペプチド討論会, 滋賀 (2023. 11/8-10).
99. 藤田陽, 橋井則貴, 石井明子, 三澤隆史, 出水庸介, β -catenin を標的とした PPI 阻害ペプチドの *in silico* デザイン, 第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2023. 11/13-15) .
100. 三澤隆史, 伊藤貴仁, 倉島恵愛, 出水庸介, カチオン性アミノ酸に着目した抗菌ヘリカルペプチドの構造活性相関研究, 第 40 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2023. 11/13-15) .
101. 大澤陽, 横尾英知, 齊藤公亮, 有竹浩介, 伊中浩治, 齋藤嘉朗, 出水庸介, H-PGDS を標的としたタンパク質分解誘導剤の構造活性相関研究, 第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム, 岐阜 (2023. 11/6-7) .
102. 渡邊大嗣, 永沼美弥子, 辻巖一郎, 大岡伸通, 井上貴雄, 内藤幹彦, 出水庸介, エストロゲン受容体を標的とした核酸アプタマー型 PROTAC の創製, 第 49 回反応と合成の進歩シンポジウム, 岐阜 (2023. 11/6-7) .
103. 小林唯, 宮崎悠介, 大森啓介, 小林幸司, 永田奈々恵, 藤井渉, 出水庸介, 村田幸久, 癌血管内皮の L-PGDS 阻害は抗がん剤感受性を上昇させる, 第 82 回日本癌学会学術総会, 横浜 (2023. 9/21-23).
104. 横尾英知, 田中誠司, 山本栄一, 辻巖一郎, 青山佳敬, 魚返祐太郎, 松本崇, 内山奈穂子, 出水庸介, 粉末状ラニチジン塩酸塩の結晶形の構造解析, 第 9 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 東京

(2023. 9/16).

- 105.高野玲奈, 横尾英知, 大岡伸通, 大金賢司, 井上貴雄, 出水庸介, PROTAC への応用を志向した新規 E3 リガンドの探索, 第 67 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2023. 9/16).
- 106.藤田陽, 三澤隆史, 出水庸介, Wnt/ β -catenin シグナル経路阻害ペプチドの *in silico* 設計, 第 67 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2023. 9/16).
- 107.坂本知昭, 青木尚代, 正田卓司, 出水庸介, 藤巻康人, 佐藤陽治, 分光センシング技術を用いた医薬品原薬フロー合成工程のリアルタイム解析手法の開発, 日本分析化学会第 72 回年会, 熊本 (2023. 9/13-15).
- 108.正田卓司, 青木尚代, 出水庸介, 坂本知昭, 連結フロー反応による医薬品原薬の連続生産に関する技術要件の抽出, 日本分析化学会第 72 回年会, 熊本 (2023. 9/13-15).
- 109.正田卓司, 橋井則貴, 原園景, 石井明子, 出水庸介, エキシマー蛍光を利用した蛍光性糖鎖標識試薬の開発, 第 42 回日本糖質学会年会, 鳥取 (2023. 9/7-9).
- 110.横尾英知, 内田智士, 大庭誠, 出水庸介, 核酸デリバリー機能を有するナノ粒子型タンパク質分解誘導剤の開発研究, 遺伝子・デリバリー研究会第 21 回夏期セミナー, 長崎 (2023. 8/27).
- 111.横尾英知, 田中誠司, 山本栄一, 辻巖一郎, 内山奈穂子, 出水庸介, 固体 NMR および MicroED を用いたラニチジン塩酸塩の結晶形の解析, 日本プロセス化学会 2023 サマーシンポジウム, 東京 (2023. 8/3-4).
- 112.中森洋紀, 布目真梨, 辻巖一郎, 出水庸介, 増本直子, 永津明人, 杉本直樹, 井之上浩一, デザイン Single reference-HPLC 法によるアナトー色素のビキシシン及びノルビキシシンの分析, 2023 AOAC Japan Section Meeting, 東京 (2023. 7/14).
- 113.平野元春, 横尾英知, 大庭誠, 三澤隆史, 出水庸介, 両親媒ヘリカルペプチドを利用した核酸の細胞内デリバリー, 日本核酸医薬学会第 8 回年会, 名古屋 (2023. 7/11-14).
- 114.永沼美弥子, 大岡伸通, 内藤幹彦, 出水庸介, 化学的安定性の向上を志向したデコイ核酸型 PROTAC の開発, 第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 佐賀 (2023. 6/21-23).
- 115.佐藤和佳, 出水庸介, 内藤幹彦, キナーゼ阻害剤耐性を克服する新規 BCR-ABL 分解誘導剤の開発, 第 27 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 佐賀 (2023. 6).
- 116.小林唯, 宮崎悠介, 大森啓介, 小林幸司, 永田奈々恵, 藤井渉, 出水庸介, 村田幸久, L-PGDS が癌血管内皮の抗がん剤感受性に果たす役割の解明, 第

- 65 回日本脂質生化学会, 熊本 (2023. 6/21-23).
- 117.横尾英知, 内田智士, 出水庸介, 大庭誠, オリゴサルコシン修飾によるキャリアペプチドのプラスミド DNA デリバリー効率の向上, ケミカルバイオロジー第 17 回年会, 大阪 (2023. 5/29-31).
- 118.三澤隆史, 加藤巧馬, 伊藤貴仁, 大岡伸通, 井上貴雄, 土井光暢, 出水庸介, 生理活性ペプチドの効率的導出に向けたヘリカルテンプレートの開発, ケミカルバイオロジー第 17 回年会, 大阪 (2023. 5/29-31).
- 119.大澤陽, 黒原崇, 横尾英知, 柴田識人, 有竹浩介, 内藤幹彦, 出水庸介, H-PGDS を標的とした PROTAC の構造活性相関研究, ケミカルバイオロジー第 17 回年会, 大阪 (2023. 5/29-31).
- 120.藤田陽, 土屋圭輔, 黒原崇, 福原潔, 三澤隆史, 出水庸介, Wnt/ β -catenin シグナル経路阻害ペプチドの *in silico* 設計, ケミカルバイオロジー第 17 回年会, 大阪 (2023. 5/29-31).
- 121.辻巖一郎, 辻村はるな, 永沼美弥子, 大岡伸通, 井上貴雄, 内藤幹彦, 出水庸介, 標的タンパク質の範囲拡大を目的とした核酸アプタマー型分解誘導剤の開発, 第 21 回次世代を担う有機化学シンポジウム, 名古屋 (2023. 5/26-27).
- 122.辻巖一郎, 政田さやか, 黒原崇, 内山奈穂子, 出水庸介, 山本栄一, *In silico* を活用した医薬品からの *N*-ニトロソアミン類の生成リスク評価法の構築, 日本薬剤学会第 38 年会, 名古屋 (2023. 5/16-18).
- 123.水谷佐久美, 河村麻衣子, 田中理恵, 三澤隆史, 辻巖一郎, 黒原崇, 伊藤美千穂, 出水庸介, 花尻 (木倉) 瑠理, 大麻成分由来 23 化合物の一斉分析法の検討, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
- 124.河村麻衣子, 三澤隆史, 辻巖一郎, 黒原崇, 伊藤美千穂, 出水庸介, 花尻 (木倉) 瑠理, 大麻草由来成分の構造類似体の分析法に関する検討, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
- 125.森谷俊介, 米津実咲, 近藤有寿, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, ペプチド核酸の invasion を目指したジカチオンを持つシトシン誘導体の合成, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
- 126.横尾英知, 田中誠司, 山本栄一, 辻巖一郎, 出水庸介, 内山奈穂子, 高分解能固体 NMR を用いたラニチジン塩酸塩の結晶形の解析, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
- 127.永沼美弥子, 大岡伸通, 辻巖一郎, 内藤幹彦, 井上貴雄, 出水庸介, 生体内安定性の向上を志向したデコイ核酸型 PROTAC の創製, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
- 128.許涵喬, 黒原崇, 辻巖一郎, 大岡伸通, 柴田識人, 井上貴雄, 出水庸介, 汎

- 用的な PROTAC 固相合成法の開発, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
129. 田村早季, 辻巖一郎, 出水庸介, アンチセンス核酸の効率的細胞内移行を志向した疎水性膜透過性ペプチドの探索, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
130. 伊藤貴仁, 三澤隆史, 出水庸介, 組織選択的キャリア開発を目的としたヘリカルペプチドのデザイン, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3). (**優秀発表賞**)
131. 三澤隆史, 辻巖一郎, 出水庸介, JP 各条品の試験法に用いる試薬・溶媒量の低減に向けた検討, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
132. 黒原崇, 大澤陽, 柴田識人, 有竹浩介, 内藤幹彦, 出水庸介, H-PGDS を標的とする PROTAC の構造活性相関研究, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
133. 土屋圭輔, 堀越奏子, 三澤隆史, 福原潔, 出水庸介, 疎水性ステーブルペプチドによる DDS キャリアの開発, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
134. 平野元春, 横尾英知, 大庭誠, 三澤隆史, 出水庸介, 両親媒性ステーブルペプチドを利用した核酸の細胞内輸送, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
135. 平野元春, 横尾英知, 大庭誠, 三澤隆史, 出水庸介, 両親媒性ステーブルペプチドによる pDNA, mRNA, 及び siRNA の効率的な細胞内輸送, 日本薬学会第 143 回年会シンポジウム, 若手研究者が拓くニューモダリティ創薬研究～革新的医薬品の創出に向けて～, 北海道 (2023. 3).
136. 大澤陽, 黒原崇, 柴田識人, 有竹浩介, 内藤幹彦, 出水庸介, CRBN リガンドに着目した H-PGDS 分解誘導剤の構造活性相関研究, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
137. 藤田陽, 土屋圭輔, 木吉真人, 石井明子, 三澤隆史, 出水庸介, Wnt/ β -catenin 経路阻害ペプチドの *in silico* 設計, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
138. 高野玲奈, 黒原崇, 大岡伸通, 大金賢司, 井上貴雄, 出水庸介, PROTAC に利用できる新規デグロン配列の探索, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
139. 古内志拓, 人見悠毅, 佐々木智未, 岡本岳大, 辻巖一郎, 黒原崇, 出水庸介, 大野修, 松野研司, キヌレニン産生を抑制する環状デブシペプチド KNP-1 の構造決定および全合成研究, 日本薬学会第 143 回年会, 北海道 (2023. 3).
140. 伊藤海結, 関根優莉奈, 正田卓司, 橋井則貴, 原園景, 石井明子, 井上英史, 出水庸介, エキシマー蛍光を利用した蛍光性糖鎖標識試薬の開発, 日本薬学

会第 143 回年会，北海道（2023. 3）.

141. 正田卓司，青木尚代，出水庸介，坂本知昭，連結フロー反応による医薬品原薬の連続生産に関する技術要件の抽出，日本薬学会第 143 回年会，北海道（2023. 3）.
142. 石田健太，千賀陽子，仁田峠海斗，岡正啓，大岡伸通，星野秀和，出水庸介，井上貴雄，小比賀聡，笠原勇矢，糖・塩基部デュアル修飾型人工核酸を用いた抗CHIP/STUB1 アプタマーの創出，日本薬学会第 143 回年会，北海道（2023. 3）.
143. Jorge Carlos Pineda Garcia，趙爽利，李任時，花尻瑠理，出水庸介，田中嘉孝，石井祐次， Δ^9 -THC-*O*-acetate および Δ^8 -THC-*O*-acetate のヒト肝臓ミクロゾームによる酵素化学的加水分解と Δ^9 -THC および Δ^8 -THC 生成，日本薬学会第 143 回年会，北海道（2023. 3）.
144. 村上優貴，石田祥一，出水庸介，寺山慧，多目的ベイズ最適化を用いた非天然アミノ酸を考慮した抗菌ペプチド設計手法の検討，日本薬学会第 143 回年会，北海道（2023. 3）.
145. 加藤巧馬，出水庸介，田中正一，浅野晶子，土井光暢，ロイシンとジ置換アミノ酸のヘテロペプチドにおけるジ置換アミノ酸の種類によるペプチド二次構造への影響評価，日本薬学会第 143 回年会，北海道（2023. 3）.
146. 三澤隆史，平野元春，倉島恵愛，山崎聖司，西野邦彦，出水庸介，多剤耐性菌感染症の治療を志向した新規抗菌性ヘリカルペプチドの開発，第 96 回日本細菌学会総会，姫路（2023. 3）.

令和 4 年

147. 青山道彦，多田稔，三澤隆史，出水庸介，石井明子，薬物修飾部位の異なる抗体薬物複合体の特性解析，第 1 回日本抗体学会学術大会，鹿児島（2022. 11）.
148. 中森洋紀，布目真梨，辻巖一郎，出水庸介，増本直子，杉本直樹，井之上浩一，デザイン SR-HPLC 法によるアナトー色素の定量評価の構築，日本食品衛生学会第 118 回学術講演会，長崎（2022. 11）.
149. 辻巖一郎，伊藤貴仁，内山奈穂子，細江潤子，出水庸介，日本薬局方の試験法改正に関する研究～HPLC での定量試験法設定に向けた検討～，第 59 回全国衛生化学技術協議会年会，神奈川（2022. 11）.
150. 土屋圭輔，木吉真人，藤田陽，三澤隆史，石井明子，福原潔，出水庸介，中分子ペプチドによる β -catenin 関連シグナル経路阻害剤の開発，第 95 回日本生化学会大会，名古屋（2022. 11）.
151. 石川リカ，齊藤公亮，三澤隆史，出水庸介，斎藤嘉朗，ステーブル型 α ヘリックスペプチド開発品 ATSP-7041 の *in vitro* における薬物相互作用の評価，日本薬物動体学会第 37 回年会，横浜（2022. 11）.

- 152.土屋圭輔, 木吉真人, 橋井則貴, 藤田陽, 石井明子, 福原潔, 三澤隆史, 出水庸介, 二次構造制御型ペプチドによる Wnt/ β -カテニン経路阻害剤の創製, 第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム, Web (2022. 11) .
- 153.三澤隆史, 平野元春, 倉島恵愛, 山崎聖司, 西野邦彦, 出水庸介, 多剤耐性菌感染症治療を目的とした両親媒性ヘリカルペプチドの開発, 第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム, Web (2022. 11) .
- 154.高田浩行, 土屋圭輔, 出水庸介, ヘリックス型膜透過生ペプチドを用いたアンチセンス核酸の細胞内送達, 第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム, Web (2022. 11) .
- 155.古内志拓, 人見悠毅, 佐々木智未, 岡本岳大, 辻巖一郎, 黒原崇, 出水庸介, 大野修, 松野研司, Kynurenine 産生を抑制する環状デプシペプチド KNP-1 の構造決定および全合成研究, 第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム, Web (2022. 11) .
- 156.永沼美弥子, 大岡伸通, 辻巖一郎, 松野研司, 内藤幹彦, 井上貴雄, 出水庸介, 標的リガンドにオリゴヌクレオチドを応用した PROTAC の創製, 第 39 回メディシナルケミストリーシンポジウム, Web (2022. 11) . (MCS 優秀賞)
- 157.許涵喬, 黒原崇, 柴田識人, 大岡伸通, 井上貴雄, 内藤幹彦, 出水庸介, 固相法による PROTAC の迅速合成, 第 48 回反応と合成の進歩シンポジウム, 千葉 (2022. 11) .
- 158.森谷俊介, 米津実咲, 近藤有寿, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, Synthesis of dicationic cytosine derivative for peptide nucleic acid, 第 59 回ペプチド討論会, 仙台 (2022. 10).
- 159.横尾英知, 内田智士, 出水庸介, 大庭誠, Development of nanoparticle-based protein degradation inducers based on nucleic acid delivery, 第 59 回ペプチド討論会, 仙台 (2022. 10).
- 160.三澤隆史, 大岡伸通, 平野元春, 大庭誠, 井上貴雄, 出水庸介, Structural development of helix-stabilized block peptides for intracellular delivery of siRNA, 第 59 回ペプチド討論会, 仙台 (2022. 10).
- 161.土屋圭輔, 木吉真人, 橋井則貴, 藤田陽, 石井明子, 福原潔, 三澤隆史, 出水庸介, Development of CPP-conjugated LRH-1-derived peptides inhibiting Wnt/ β -catenin signaling pathway, 第 59 回ペプチド討論会, 仙台 (2022. 10).
- 162.横尾英知, 三澤隆史, 加藤巧馬, 田中正一, 出水庸介, 大庭誠, Intracellular plasmid DNA delivery using helical template conjugated oligoarginine, 第 59 回ペプチド討論会, 仙台 (2022. 10).
- 163.大澤陽, 黒原崇, 村上優貴, 柴田識人, 内藤幹彦, 出水庸介, Structure-

activity relationship study of PROTACs against hematopoietic prostaglandin D₂ synthase, CBI 学会 2022 年大会, 東京 (2022. 10).

- 164.村上優貴, 石田祥一, 出水庸介, 寺山慧, Multi-objective Bayesian optimization of antimicrobial peptides design using non-natural amino acids, CBI 学会 2022 年大会, 東京 (2022. 10).
- 165.横尾英知, 三澤隆史, 加藤巧馬, 田中正一, 出水庸介, 大庭誠, ヘリカルテンプレートを連結したオリゴアルギニンを用いたプラスミド DNA の細胞内デリバリー, 第 72 回日本薬学会関西支部総会・大会, 京都 (2022. 10).
- 166.村上優貴, 石田祥一, 出水庸介, 寺山慧, 非天然アミノ酸を加味した低毒性抗菌ペプチド設計に向けた多目的ベイズ最適化の検討, 2022 年日本バイオインフォマティクス学会年会, 大阪 (2022. 9).
- 167.辻村はるな, 辻巖一郎, 大岡伸通, 井上貴雄, 内藤幹彦, 出水庸介, DNA アプタマーを用いたエストロゲン受容体分解誘導剤の開発, 第 66 回日本薬学会関東支部大会, 横浜 (2022. 9).
- 168.大澤陽, 黒原崇, 柴田識人, 有竹浩介, 内藤幹彦, 出水庸介, E3 リガンドに着目した H-PGDS 分解誘導剤の構造活性相関研究, 第 66 回日本薬学会関東支部大会, 横浜 (2022. 9). (優秀発表賞)
- 169.湯山円晴, 三澤隆史, 出水庸介, 金谷貴行, 佐藤忠章, 栗原正明, アセタール構造を有する新規 ER α アンタゴニストの創製, 第 66 回日本薬学会関東支部大会, 横浜 (2022. 9).
- 170.黒原崇, 伊藤貴仁, 辻巖一郎, 三澤隆史, 横尾英知, 柳瀬雄太, 正田卓司, 坂井隆敏, 細江潤子, 内山奈穂子, 穂山浩, 出水庸介, ノルジェストメットおよび 17 β -異性体の合成とプロゲステロン活性の評価, 第 8 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 東京 (2022. 8).
- 171.三澤隆史, 出水庸介, ペプチドの構造変性検出を目指した NMR フィンガープリント法の検討, 第 8 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 東京 (2022. 8).
- 172.中尾瑞佳, 原矢佑樹, 扇田隆司, 斎藤博幸, 出水庸介, 伊豆津健一, 加藤くみ子, シクロスポリン類縁体と細胞膜モデルとの相互作用に関する研究, 第 29 回クロマトグラフィーシンポジウム, 沖縄 (2022. 6).
- 173.河村麻衣子, 田中理恵, 正田卓司, 出水庸介, 花尻 (木倉) 瑠理, LSD 及び LSD 構造類似化合物の分析法に関する検討, 日本法中毒学会第 41 年会, 香川 (2022. 6).
- 174.水谷佐久美, 河村麻衣子, 正田卓司, 出水庸介, 花尻 (木倉) 瑠理, GC-QTOF-MS による LSD と異性体の識別法の検討, 日本法中毒学会第 41 年会, 香川 (2022. 6).

- 175.黒原崇, 大澤陽, 伊藤貴仁, 柴田識人, 有竹浩介, 内藤幹彦, 出水庸介, H-PGDS 分解誘導剤のリンカー構造に着目した構造活性相関研究, ケミカルバイオロジー第 16 回年会, 富山 (2022. 6).
- 176.永沼美弥子, 大岡伸通, 松野研司, 内藤幹彦, 井上貴雄, 辻巖一郎, 出水庸介, デコイ核酸をリガンドとしたエストロゲン受容体分解誘導分子の創製, ケミカルバイオロジー第 16 回年会, 富山 (2022. 6).
- 177.三澤隆史, 平野元春, 倉島恵愛, 山崎聖司, 西野邦彦, 出水庸介, 多剤耐性菌感染症治療を目的とした新規抗菌ペプチドフォルダマーの開発, ケミカルバイオロジー第 16 回年会, 富山 (2022. 6).
- 178.早川英佑, 山下博子, 佐藤伸一, 橋本祐一, 出水庸介, 石川稔, 友重秀介, シャペロン介在型オートファジー誘導手法の開発, ケミカルバイオロジー第 16 回年会, 富山 (2022. 6).
- 179.正田卓司, 出水庸介, 長鎖アルキル基を有するエストロゲン受容体 β 選択的アンタゴニストの開発, 第 26 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 石川 (2022. 6).
- 180.大岡伸通, 内藤幹彦, 出水庸介, デコイ核酸を利用したキメラ分子による標的タンパク質分解, 第 26 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 石川 (2022. 6).
- 181.福原潔, 森一憲, 沖山佳生, 三澤隆史, 水野美麗, 出水庸介, 柴沼質子, 大野彰子, アミロイド β の神経毒性を抑制する新規ペプチドの開発, 日本農芸化学会 2022 年度大会, Web (2022. 3).
- 182.藤沼舞, 石綱遥, 三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, 満屋裕明, 鋏田伸好, 服部真一朗, 紺野奇重, 抗 SARS-CoV-2 剤創製へ向けた炭素環ヌクレオシドの核酸塩基部構造活性相関研究, 日本薬学会第 142 回年会, 名古屋 Web (2022. 3).
- 183.森谷俊介, 米田有希, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橋高敦史, 杉山亨, PreQ₁ 塩基を持つペプチド核酸の合成とその性質, 日本薬学会第 142 回年会, 名古屋 Web (2022. 3).
- 184.湯山円晴, 三澤隆史, 出水庸介, 金谷貴行, 佐藤忠章, 栗原正明, ジフェニルメタン骨格を持つ新規 ER α アンタゴニストの創製, 日本薬学会第 142 回年会, 名古屋 Web (2022. 3).
- 185.辻巖一郎, 柳瀬雄太, 柴田識人, 出水庸介, In silico スクリーニングによる STING リガンドの効率的探索と機能評価, 日本薬学会第 142 回年会, 名古屋 Web (2022. 3).
- 186.柴田識人, 横尾英知, 遠藤彬則, 伊藤貴仁, 柳瀬雄太, 村上優貴, 藤井清永, 佐伯泰, 内藤幹彦, 有竹浩介, 出水庸介, 造血器型プロスタグランジン D 合

- 成酵素選択的タンパク質分解誘導剤の開発，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 187.水谷佐久美，河村麻衣子，黒原崇，三澤隆史，出水庸介，袴塚高志，花尻（木倉）瑠理，合成オピオイド nitazene 類 14 化合物の識別法に関する検討，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 188.三澤隆史，出水庸介，NMR フィンガープリント法を用いたペプチドの構造変性検出に関する検討，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 189.津田萌菜，正田卓司，平田尚也，諫田泰成，井上英史，出水庸介，長鎖アルキル基を有するエストロゲン受容体 β 選択的分解誘導剤の開発，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 190.平野元春，横尾英知，大庭誠，三澤隆史，出水庸介，核酸分子の効率的な細胞内送達を可能とする両親媒性ペプチドフォルダマーの開発，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 191.土屋圭輔，木吉真人，三澤隆史，石井明子，福原潔，出水庸介， β -カテニンの機能を制御する新規ヘリカルペプチドの開発，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 192.田京茉実，三澤隆史，平田尚也，諫田泰成，石田寛明，山本恵子，出水庸介，非天然型アミノ酸含有ヘリカルペプチドによる VDR 転写阻害剤の創製，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 193.村上優貴，黒原崇，横尾英知，伊藤貴仁，柳瀬雄太，柴田識人，有竹浩介，内藤幹彦，出水庸介，H-PGDS 分解誘導剤の構造活性相関研究，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3). (**優秀発表賞**)
- 194.大澤陽，黒原崇，横尾英知，伊藤貴仁，柳瀬雄太，柴田識人，大槻崇，松藤寛，有竹浩介，内藤幹彦，出水庸介，リンカー構造に着目した H-PGDS 分解誘導剤の構造活性相関研究，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 195.高田真有，伊藤貴仁，平野元春，土屋圭輔，三澤隆史，出水庸介，多様なカチオン性アミノ酸を導入した抗菌ペプチドフォルダマーの開発，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 196.許涵喬，黒原崇，横尾英知，辻巖一郎，柴田識人，大岡伸通，井上貴雄，出水庸介，固相法によるタンパク質分解誘導剤の迅速・効率的合成，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 197.伊藤貴仁，三澤隆史，出水庸介，高い抗菌活性を有するステーブルペプチドの創製，日本薬学会第 142 回年会，名古屋 Web (2022. 3).
- 198.黒原崇，伊藤貴仁，辻巖一郎，三澤隆史，横尾英知，柳瀬雄太，正田卓司，坂井隆敏，細江潤子，内山奈穂子，穂山浩，出水庸介，動物用ホルモン剤の

高純度標品合成と評価に関する研究, 日本薬学会第 142 回年会, 名古屋 Web (2022. 3).

199.永沼美弥子, 大岡伸通, 辻村はるな, 松野研司, 内藤幹彦, 井上貴雄, 辻巖一郎, 出水庸介, デコイ核酸をリガンドとしたエストロゲン受容体分解誘導分子の開発, 日本薬学会第 142 回年会, 名古屋 Web (2022. 3).

200.Maeyama, Y., Hosokawa, Y., Hamamura, K., Yokoo, H., Shibata, N., Naito, M., Demizu, Y., Aritake, K., Specific degrader of hematopoietic prostaglandin D synthase prevented the progression of dilated cardiomyopathy in Duchenne muscular dystrophy, 第 95 回日本薬理学会年会, 福岡 (2022. 3) .

令和 3 年

201.辻巖一郎, 伊藤貴仁, 内山奈穂子, 細江潤子, 合田幸広, 出水庸介, 国際調和に向けた日本薬局方の医薬品各条における試験法の改定に関する検討: qNMR を利用した類縁物質の純度決定, 第 3 回日本定量NMR研究会年会, Web (2021. 12).

202.斎藤嘉朗, 出水庸介, 非天然型構造を有するペプチド医薬品の安全性評価, 第 4 回医薬品毒性機序研究会, Web (2021. 12).

203.大岡伸通, 永沼美弥子, 辻巖一郎, 井上貴雄, 出水庸介, デコイ核酸を利用したタンパク質分解誘導キメラ分子の開発, 第 44 回日本分子生物学会年会, 横浜 (2021. 12).

204.山本栄一, 横尾英知, 政田さやか, 内山奈穂子, 辻巖一郎, 袴塚高志, 出水庸介, 伊豆津健一, 合田幸広, ラニチジン不純物からの N-ニトロソジメチルアミン (NDMA) の生成: ラニチジン塩酸塩中に NDMA が存在する潜在的な原因, 第 58 回全国衛生化学技術協議会年会, 名古屋 (Web) (2021. 12).

205.柴田識人, 横尾英知, 遠藤彬則, 伊藤貴仁, 柳瀬雄太, 村上優貴, 藤井清永, 佐伯泰, 内藤幹彦, 有竹浩介, 出水庸介, 造血器型プロスタグランジン D 合成酵素を標的とした選択的タンパク質分解誘導剤の開発, 第 94 回日本生化学大会, 横浜 (2021. 11).

206.森谷俊介, 桑田啓子, 米田有希, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, PreQ₁ facilitates DNA strand invasion by PNA, 第 58 回ペプチド討論会, Web (2021. 10).

207.横尾英知, 大岡伸通, 大庭誠, 伊藤貴仁, 井上貴雄, 内藤幹彦, 出水庸介, Peptide stapling improves the sustainability of peptide-based degraders against estrogen receptors, 第 58 回ペプチド討論会, Web (2021. 10).

208.田京茉実, 三澤隆史, 黒原崇, 石田寛明, 山本恵子, 出水庸介, Development

- of helical peptides containing non-proteinogenic amino acids inhibiting VDR transcription, 第 58 回ペプチド討論会, Web (2021. 10).
- 209.平野元春, 齋藤千尋, 川野竜司, 三澤隆史, 出水庸介, Development of helical antimicrobial peptides containing non-proteinogenic amino acids, 第 58 回ペプチド討論会, Web (2021. 10).
- 210.柳瀬雄太, 辻巖一郎, 柴田識人, 出水庸介, バーチャルスクリーニングを利用した新規 STING リガンドの効率的探索, 第 47 回反応と合成の進歩シンポジウム, Web (2021. 10).
- 211.平野元春, 齋藤千尋, 川野竜司, 三澤隆史, 出水庸介, 非天然アミノ酸を導入した抗菌ペプチドフォルダマーの開発, 第 15 回バイオ関連化学シンポジウム, Web (2021. 9).
- 212.許涵喬, 辻巖一郎, 大岡伸通, 内藤幹彦, 出水庸介, アゴニストリガンドを利用した LXR 分解誘導剤の開発, 第 65 回日本薬学会関東支部大会, Web (2021. 9).
- 213.村上優貴, 大澤陽, 柴田識人, 横尾英知, 伊藤貴仁, 柳瀬雄太, 黒原崇, 出水庸介, 造血器型プロスタグランジン D 合成酵素分解誘導剤の創製, 第 65 回日本薬学会関東支部大会, Web (2021. 9).
- 214.田京茉実, 三澤隆史, 黒原崇, 石田寛明, 山本恵子, 出水庸介, ビタミン D 受容体転写阻害ペプチドの創製, 第 65 回日本薬学会関東支部大会, Web (2021. 9).
- 215.津田萌菜, 正田卓司, 平田尚也, 諫田泰成, 井上英史, 出水庸介, 長鎖アルキル基を有する選択的エストロゲン受容体分解誘導剤の開発, 第 65 回日本薬学会関東支部大会, Web (2021. 9).
- 216.湯山円晴, 三澤隆史, 出水庸介, 金谷貴行, 佐藤忠章, 栗原正明, アセタール構造を有する新規 ER α アンタゴニストの創製, 第 65 回日本薬学会関東支部大会, Web (2021. 9).
- 217.平野元春, 齋藤千尋, 後藤千尋, 川野竜司, 三澤隆史, 出水庸介, 非天然アミノ酸の導入による両親媒性抗菌ペプチドフォルダマーの創製, 第 52 回若手ペプチド夏の勉強会, Web (2021. 8) . (ポスター発表優秀賞)
- 218.三澤隆史, 照井龍晟, 槇島誠, 須原義智, 出水庸介, 胆汁酸受容体 TGR5 を標的とした新規レチノイド誘導体の創製, ケミカルバイオロジー第 15 回年会, 福岡 (Web) (2021. 6).
- 219.横尾英知, 柴田識人, 遠藤彬則, 伊藤貴仁, 柳瀬雄太, 村上優貴, 藤井清永, 大庭誠, 佐伯泰, 内藤幹彦, 有竹浩介, 出水庸介, 高活性・高選択的な造血器型プロスタグランジン D 合成酵素分解誘導剤の開発, ケミカルバイオロジー第 15 回年会, 福岡 (Web) (2021. 6).

- 220.水野美麗, 森一憲, 土屋圭輔, 高木孝士, 三澤隆史, 出水庸介, 柴沼質子, 福原潔, シリビニンの高機能化を目指した創薬研究, 日本農芸化学会 2021 年度大会, 仙台 (Web) (2021. 3).
- 221.森谷俊介, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, カチオン性グアニンアナログを導入したペプチド核酸オリゴマーによるストランドインベーションの検討, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 222.荒井慎之介, 斎藤智亜季, 水石彩菜, 三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, 紺野奇重, 抗アデノウイルス活性を期待した 2'-デオキシ炭素環ヌクレオシドの合成, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 223.大岡伸通, 横尾英知, 井上貴雄, 出水庸介, ペプチドリガンドを利用したタンパク質分解誘導キメラ分子の開発, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 224.辻巖一郎, 池田健太郎, 柳瀬雄太, 林克彦, 工藤由起子, 出水庸介, アミン骨格を有する c-di-GMP 誘導体の合成とバイオフィルム形成阻害評価, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 225.横尾英知, 柴田識人, 永沼美弥子, 村上優希, 藤井清永, 伊藤貴仁, 有竹浩介, 内藤幹彦, 出水庸介, 造血管型プロスタグランジン合成酵素を標的とした分解誘導剤の開発, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 226.三澤隆史, 照井龍晟, 柳瀬雄太, 横尾英知, 榎島誠, 須原義智, 出水庸介, 5, 6, 7, 8-Tetrahydronaphthalene 骨格を用いた選択的 TGR5 アゴニストの開発, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 227.正田卓司, 河村麻衣子, 花尻瑠璃, 出水庸介, LSD 類縁体 MiPLA の合成とその性状解析, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (2021. 3).
- 228.伊藤貴仁, 横尾英知, 大岡伸通, 内藤幹彦, 井上貴雄, 出水庸介, 核内受容体を標的とするペプチド型分解誘導剤の開発, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 229.土屋圭輔, 梅野智大, 辻巖一郎, 横尾英知, 福原潔, 三澤隆史, 出水庸介, 光異性化に基づくエストロゲン受容体の活性制御, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 230.永沼美弥子, 辻村はるな, 大岡伸通, 松野研司, 須原義智, 内藤幹彦, 井上貴雄, 辻巖一郎, 出水庸介, デコイ核酸をリガンドとしたエストロゲン受容体分解誘導剤の創製, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 231.平野元春, 齋藤千尋, 後藤千尋, 川野竜司, 三澤隆史, 出水庸介, 両親媒性抗菌ペプチドフォルダマーの合理的設計, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
- 232.田京茉実, 佐藤友海, 石田寛明, 山本恵子, 三澤隆史, 出水庸介, 非天然型

- アミノ酸含有ヘリカルペプチドによる VDR-コアクチベータ相互作用阻害剤の創製, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3). (**優秀発表賞**)
233. 柳瀬雄太, 池田健太郎, 辻巖一郎, 柴田識人, 内藤幹彦, 出水庸介, 免疫系制御を指向した新規 STING リガンドの効率的探索, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).
234. 辻村はるな, 永沼美弥子, 大岡伸通, 須原義智, 松野研司, 内藤幹彦, 井上貴雄, 辻巖一郎, 出水庸介, アプタマーをリガンドとしたエストロゲン受容体分解誘導剤の創製, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3). (**優秀発表賞**)
235. 許涵喬, 辻巖一郎, 大岡伸通, 内藤幹彦, 出水庸介, LXR を標的とした分解誘導剤の開発, 日本薬学会第 141 回年会, 広島 (Web) (2021. 3).

令和 2 年

236. 辻巖一郎, 伊藤貴仁, 内山奈穂子, 細江潤子, 合田幸広, 出水庸介, 国際調和に向けた日本薬局方の医薬品各条における試験法の改定に関する検討: qNMR を利用した類縁物質の純度決定, 第 2 回日本定量 NMR 研究会年会, 神奈川 (2020. 12).
237. 大岡伸通, 横尾英知, 内藤幹彦, 井上貴雄, 出水庸介, 非天然型アミノ酸を有するヘリカルペプチドを利用したタンパク質分解誘導キメラ分子の開発, 第 43 回日本分子生物学会年会, Web (2020. 12).
238. 佐藤友海, 田京茉実, 三澤隆史, 石田寛明, 山本恵子, 出水庸介, Development of stapled peptides against inhibiting VDR-coactivator interaction, 第 57 回ペプチド討論会, Web (2020. 11).
239. 平野元春, 後藤千尋, 三澤隆史, 出水庸介, Development of antimicrobial peptide foldamers based on Magainin 2 sequence, 第 57 回ペプチド討論会, Web (2020. 11).
240. 三澤隆史, 平野元春, 横尾英知, 出水庸介, Development of post-functionalizable antimicrobial peptide foldamers, 第 57 回ペプチド討論会, Web (2020. 11).
241. 横尾英知, 大岡伸通, 内藤幹彦, 井上貴雄, 出水庸介, Development of peptide-based degraders against estrogen and androgen receptor, 第 57 回ペプチド討論会, Web (2020. 11).
242. 斎藤嘉朗, 出水庸介, 中分子ペプチド医薬品の非臨床安全性評価における留意点, 第 10 回レギュラトリーサイエンス学会学術大会, 東京 (2020. 9).
243. 横尾英知, 柴田識人, 永沼美弥子, 伊藤貴仁, 内藤幹彦, 有竹浩介, 出水庸介, 造血器型プロスタグランジン合成酵素を標的とした分解誘導剤の開発, 第 64 回日本薬学会関東支部大会, Web (2020. 9).

- 244.今田敦之, 水石彩菜, 紺野奇重, 三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, 藤井幹雄, 抗アデノウイルス活性を期待した炭素環 2'-デオキシ炭素環 7-デアザアデノシンの合成, 第 64 回日本薬学会関東支部大会, Web (2020. 9).
- 245.石綱遥, 斎藤智亜季, 紺野奇重, 三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, 藤井幹雄, 抗アデノウイルス活性を期待した炭素環 2'-デオキシ炭素環ピリミジンヌクレオシドの合成, 第 64 回日本薬学会関東支部大会, Web (2020. 9).
- 246.政田さやか, 遊佐仁暁, 辻巖一郎, 横尾英知, 細江潤子, 新井玲子, 田中誠司, 出水庸介, 袴塚高志, 合田幸広, 内山奈穂子, プエラリア・ミリフィカ由来 kwakhurin の形式全合成と相対モル感度係数を利用したプエラリア・ミリフィカ含有食品中の miroestrol の定量, 第 62 回天然有機化合物討論会, Web (2020. 9).
- 247.池田健太郎, 柳瀬雄太, 辻巖一郎, 林克彦, 工藤(原)由起子, 出水庸介, c-di-GMP 誘導体の合成とバイオフィーム形成阻害評価, 第 34 回日本バイオフィーム学会学術集会, Web (2020. 8).
- 248.三澤隆史, 照井龍晟, 槇島眞, 須原義智, 出水庸介, 新規 TGR5 リガンドの開発, 日本ビタミン学会第 72 回大会, 愛知 (2020. 6).
- 249.斎藤嘉朗, 出水庸介, 非天然型構造を有するペプチド医薬品の非臨床評価の方向性, 第 47 回日本毒性学会学術年会, 仙台 (2020. 6).
- 250.辻巖一郎, 三澤隆史, 正田卓司, 河村麻衣子, 花尻(木倉)瑠璃, 袴塚高志, 出水庸介, 国内標品確保のためのフェンタニル構造類似化合物の合成研究, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
- 251.三澤隆史, 出水庸介, NMR フィンガープリント法を用いたペプチド医薬品の立体構造解析, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
- 252.斎藤智亜季, 水石彩菜, 目黒公太郎, 植松明星, 原島利彰, 林宏典, 児玉栄一, 三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, 紺野奇重, Carbocyclic-2'-deoxynucleoside の合成研究 - carbocyclic-2'-deoxyuridine の合成 -, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
- 253.水石彩菜, 斎藤智亜季, 目黒公太郎, 植松明星, 原島利彰, 林宏典, 児玉栄一, 三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, 紺野奇重, Carbocyclic-2'-deoxynucleoside の合成研究 - carbocyclic-2'-deoxy-7-deazaadenosine の合成 -, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
- 254.森谷俊介, 笹祐子, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, ペプチド核酸による double duplex invasion を応用した目視可能判定可能な一塩基多型検出系の検討, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
- 255.正田卓司, 大岡伸通, 辻巖一郎, 井上英史, 内藤幹彦, 出水庸介, 疎水性タ

- グを利用した CRABP 分解誘導剤の開発, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
256. 柴田識人, 大岡伸通, 辻巖一郎, 出水庸介, 内藤幹彦, 発がん因子 BCR-ABL の脱ユビキチン化は慢性骨髄性白血病細胞の増殖に必要である, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
257. 津田萌菜, 正田卓司, 井上英史, 出水庸介, 長鎖アルキル基を有するエストロゲン受容体分解誘導剤の ER サブタイプ選択性に関する検討, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
258. 大岡伸通, 三澤隆史, 内藤幹彦, 出水庸介, 新しい細胞膜透過性ペプチドフォルダマーの開発と細胞特異的な siRNA の導入, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
259. 池田健太郎, 柳瀬雄太, 辻巖一郎, 林克彦, 菊池裕, 工藤 (原) 由起子, 出水庸介, アミン骨格を利用した環状ジヌクレオチド誘導体の合成とバイオフィルム形成阻害評価, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
260. 柳瀬雄太, 池田健太郎, 辻巖一郎, 柴田識人, 内藤幹彦, 出水庸介, STING を標的とした CDN 誘導体の設計と合成, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
261. 横尾英知, 大岡伸通, 内藤幹彦, 出水庸介, 核内受容体分解誘導ペプチドの創製, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
262. 平野元春, 後藤千尋, 林克彦, 菊池裕, 三澤隆史, 工藤由起子, 出水庸介, ステープル構造を持つ抗菌ペプチドフォルダマーの開発, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
263. 照井龍晟, 三澤隆史, 須原義智, 出水庸介, 新規 TGR5 リガンドの開発, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
264. 根本可南子, 辻巖一郎, 大岡伸通, 内藤幹彦, 出水庸介, LXR を標的とした分解誘導剤の開発, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).
265. 馬庭愛加, 辻巖一郎, 内山奈穂子, 細江潤子, 大槻崇, 松藤寛, 合田幸広, 出水庸介, 国際調和に向けた日本薬局方の医薬品各条における試験法の改定に関する研究, 日本薬学会第 140 回年会, 京都 (2020. 3).

平成 31 年, 令和元年

266. 辻巖一郎, 三澤隆史, 河村麻衣子, 花尻瑠理, 袴塚高志, 出水庸介, フェンタニル類似化合物の化学合成に関する研究, 第 56 回全国衛生化学技術協議会年会, 広島 (2019. 12).
267. 政田さやか, 辻巖一郎, 新井玲子, 内山奈穂子, 出水庸介, 袴塚高志, 堤智明, 穂山浩, 阿部康弘, 原矢佑樹, 伊豆津健一, 合田幸広, 奥田晴宏, 医薬品に混入する懸念のある N-nitrosodimethylamine (NDMA) の迅速分析法

- の開発, 第 56 回全国衛生化学技術協議会年会, 広島 (2019. 12).
- 268.大岡伸通, 三澤隆史, 内藤幹彦, 出水庸介, siRNA を高効率で細胞内に導入する細胞膜透過性ペプチドフォルダマーの開発, 第 42 回日本分子生物学会年会, 福岡 (2019. 12).
- 269.池田健太郎, 柳瀬雄太, 辻巖一郎, 林克彦, 菊池裕, 工藤由起子, 出水庸介, 新規環状ジヌクレオチド誘導体の合成とバイオフィルム形成阻害能の評価, 第 37 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 東京 (2019. 11).
- 270.三澤隆史, 大岡伸通, 後藤千尋, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 生体分子を細胞内に輸送する細胞膜透過性ペプチドフォルダマーの開発, 第 37 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 東京 (2019. 11).
- 271.後藤千尋, 平野元春, 林克彦, 菊池裕, 工藤由起子, 三澤隆史, 出水庸介, マガイニン 2 配列を基にした安定化ヘリカルペプチドの開発, 第 37 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 東京 (2019. 11).
- 272.永沼美弥子, 三澤隆史, 辻巖一郎, 横尾英知, 松野研司, 出水庸介, 芳香族/複素環骨格を有するエストロゲン受容体調整薬の創製, 第 37 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 東京 (2019. 11).
- 273.水野美麗, 森一憲, 三澤隆史, 高木孝士, 出水庸介, 柴沼質子, 福原潔, アミロイド β を創薬標的としたシリビニン誘導体の開発, 第 37 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 東京 (2019. 11).
- 274.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, Development of cell-penetrating foldamers for delivery of biomacromolecules, 第 56 回ペプチド討論会, 東京 (2019. 10).
- 275.後藤千尋, 平野元春, 林克彦, 三澤隆史, 菊池裕, 出水庸介, Development of antimicrobial peptide foldamers based on Magainin 2 sequence, 第 56 回ペプチド討論会, 東京 (2019. 10).
- 276.森谷俊介, 笹祐子, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, An approach toward visual detection of single nucleotide polymorphism using pseudocomplementary peptide nucleic acid, 第 56 回ペプチド討論会, 東京 (2019. 10).
- 277.柳瀬雄太, 池田健太郎, 辻巖一郎, 林克彦, 菊池裕, 工藤由起子, 出水庸介, アミン構造を基盤とした環状ジヌクレオチド等価体の創製, 第 45 回反応と合成の進歩シンポジウム, 岡山 (2019. 10).
- 278.森谷俊介, 柴崎初音, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, 7-Aminomethyl-7-deazaguanine をもつ PNA オリゴマー, 第 45 回反応と合成の進歩シンポジウム, 岡山 (2019. 10).
- 279.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 細胞膜高透

- 過性ペプチドフォルダマーの開発と DDS キャリアへの応用, 第 13 回バイオ関連化学シンポジウム, 宮城 (2019. 9).
- 280.後藤千尋, 平野元春, 林克彦, 三澤隆史, 菊池裕, 出水庸介, 強い抗菌活性を示す両親媒性ペプチドフォルダマーの開発, 第 13 回バイオ関連化学シンポジウム, 宮城 (2019. 9).
- 281.三澤隆史, 大岡伸通, 後藤千尋, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 生体高分子を細胞内に導入するキャリアペプチドの開発, 第 63 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2019. 9).
- 282.池田健太郎, 柳瀬雄太, 辻巖一郎, 林克彦, 菊池裕, 出水庸介, アミン骨格を基盤とした環状ジヌクレオチド等価体の合成とバイオフィルム形成阻害能の評価, 第 63 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2019. 9).
- 283.平野元春, 後藤千尋, 林克彦, 三澤隆史, 菊池裕, 工藤由起子, 出水庸介, ヘリカル構造制御に基づく抗菌ペプチドフォルダマーの開発, 第 63 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2019. 9).
- 284.永沼美弥子, 横尾英知, 三澤隆史, 松野研司, 辻巖一郎, 出水庸介, 芳香族複素環を有するエストロゲン受容体アンタゴニストの構造活性相関研究, 第 63 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2019. 9).
- 285.辻巖一郎, 三澤隆史, 河村麻衣子, 花尻瑠理, 袴塚高志, 出水庸介, 分析用標品確保のためのフェンタニル構造類似化合物の合成に関する研究, 日本法中毒学会第 38 年会, 福岡 (2019. 7).
- 286.河村麻衣子, 辻巖一郎, 三澤隆史, 出水庸介, 袴塚高志, 花尻瑠理, イオンモビリティ質量分析計を用いた生体試料中フェンタニル類スクリーニング分析法の検討, 日本法中毒学会第 38 年会, 福岡 (2019. 7).
- 287.三澤隆史, 大岡伸通, 後藤千尋, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 生体高分子を細胞内に効率的に輸送するキャリアペプチドの開発, 第 35 回日本 DDS 学会学術集会, 横浜 (2019. 7).
- 288.三澤隆史, 大岡伸通, 後藤千尋, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 生体高分子を効率的に細胞内へ輸送する細胞膜高透過性フォルダマーの開発, ケミカルバイオロジー第 14 回年会, 名古屋 (2019. 6).
- 289.大岡伸通, 辻巖一郎, 正田卓司, 藤里卓磨, 出水庸介, 内藤幹彦, 新しいユビキチンリガーゼをリクルートして標的蛋白質を分解するキメラ化合物の開発と抗がん剤としての可能性, 第 23 回日本がん分子標的治療学会学術集会, 大阪 (2019. 6).
- 290.内山奈穂子, 政田さやか, 辻巖一郎, 新井玲子, 出水庸介, 袴塚高志, 堤智昭, 穠山浩, 阿部康弘, 伊豆津健一, 合田幸広, 奥田晴宏, HPLC による高血圧治療薬バルサルタン中 *N*-nitrosodimethylamine (NDMA) の迅速定量法, 第

- 86 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会, 京都 (2019. 6).
291. 林克彦, 三澤隆史, 後藤千尋, 出水庸介, 工藤由起子, 菊池裕, バイオフィルム測定による *Mycoplasma pneumoniae* に対する抗菌成分のスクリーニング系の構築, 第 46 回日本マイコプラズマ学会学術集会, 北海道 (2019. 5).
292. 三澤隆史, 出水庸介, ヘリカルテンプレートペプチドの合成と post-modification による機能化, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
293. 後藤千尋, 三澤隆史, 菊池裕, 出水庸介, ヘリカル構造に着目した抗菌ペプチドの開発とその毒性評価に関する研究, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
294. 池田健太郎, 柳瀬雄太, 辻巖一郎, 出水庸介, 環状アミン構造を基盤とした新規環状ジヌクレオチド誘導体の創製, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
295. 辻巖一郎, 合田幸広, 出水庸介, 日本薬局方試験法における有害試薬排除の検討, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
296. 森谷俊介, 柴崎初音, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 杉山亨, 新規カチオン性グアニンアナログをもつ PNA オリゴマー, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
297. 堤智昭, 穂山浩, 笛木周平, 伊佐川聡, 出水庸介, 内山奈穂子, 政田さやか, 新井玲子, 阿部康弘, 原矢佑樹, 袴塚高志, 辻巖一郎, 伊豆津健一, 合田幸広, 奥田晴宏, GC-MS を用いたバルサルタン中の不純物である *N*-nitrosodimethylamine の分析, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
298. 政田さやか, 辻巖一郎, 新井玲子, 内山奈穂子, 出水庸介, 袴塚高志, 堤智明, 穂山浩, 阿部康弘, 原矢佑樹, 伊豆津健一, 合田幸広, 奥田晴宏, HPLC によるバルサルタン中 NDMA の迅速定量法, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
299. 大岡伸通, 辻巖一郎, 正田卓司, 出水庸介, 内藤幹彦, 新たなユビキチンリガーゼを標的蛋白質にリクルートして分解するキメラ化合物の開発, 日本薬学会第 139 回年会, 千葉 (2019. 3).
300. 大岡伸通, 辻巖一郎, 正田卓司, 出水庸介, 内藤幹彦, 新しいユビキチンリガーゼを利用して標的タンパク質を分解するキメラ化合物の開発, 第 1 回新学術「ケモユビキチン」班会議・第 2 回ユビキチン研究会合同会議, 東京 (2019. 1).
301. 出水庸介, 二次構造制御を基盤としたペプチド創薬研究, 第 1 回新学術「ケモユビキチン」班会議・第 2 回ユビキチン研究会合同会議, 東京 (2019. 1).

平成 30 年

- 302.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 細胞膜高透過性ペプチドフォルダマーの開発と核酸デリバリーへの応用, 第 36 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 京都 (2018. 11) .
- 303.杉山亨, 柴崎初音, 森谷俊介, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 正電荷を帯びたグアニン誘導体を持つ PNA オリゴマーの合成, 第 36 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 京都 (2018. 11) .
- 304.辻巖一郎, 杉本直樹, 出水庸介, 化学合成による既存添加物の定量用標品の供給に関する研究, 日本食品衛生学会第 114 回学術講演会, 広島 (2018. 11) .
- 305.出水庸介, 三澤隆史, 大岡伸通, 服部隆行, 内藤幹彦, ペプチドリガンドを利用した標的タンパク質分解誘導剤の開発, 第 44 回反応と合成の進歩シンポジウム, 熊本 (2018. 11) .
- 306.大岡伸通, 辻巖一郎, 正田卓司, 藤里卓磨, 出水庸介, 内藤幹彦, 芳香族炭化水素受容体ユビキチンリガーゼを利用する新しいプロテインノックダウン技術の開発, 第 41 回日本分子生物学会年会, 横浜 (2018. 11) .
- 307.橋井則貴, 三澤隆史, 鈴木琢雄, 出水庸介, 石井明子, 液体クロマトグラフィー/多段階質量分析を利用した特殊環状ペプチドの構造解析, 第 91 回日本生化学会大会, 京都 (2018. 9) .
- 308.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 核酸デリバリーを指向した細胞膜高透過性ペプチドフォルダマーの開発, 第 12 回バイオ関連化学シンポジウム, 大阪 (2018. 9) .
- 309.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 細胞膜高透過性ペプチドフォルダマーの開発と核酸デリバリーへの応用, 第 62 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2018. 9) .
- 310.辻巖一郎, 三澤隆史, 出水庸介, ジフェニルヘプタン骨格を有するエストロゲン受容体アンタゴニストの構造活性相関研究, 第 62 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2018. 9) .
- 311.出水庸介, 三澤隆史, 辻巖一郎, Post-modification による官能基修飾可能な α, α -ジ置換アミノ酸の設計と合成, 第 48 回複素環化学討論会, 長崎 (2018. 9) .
- 312.江藤諒, 大庭誠, 上田篤志, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 側鎖上にキラルなアセタールを有する環状ジ置換アミノ酸よりなるペプチドの二次構造解析, 第 48 回複素環化学討論会, 長崎 (2018. 9) .
- 313.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 二次構造制御を基軸とした細胞膜高透過性ペプチドの開発, 第 50 回若手ペプチド夏の勉強会, 静岡 (2018. 8) .

- 314.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 二次構造制御を基盤とした膜透過性ペプチドの開発と核酸デリバリーへの応用, 第 34 回日本 DDS 学会学術集会, 長崎 (2018. 6) . **ポスター賞**
- 315.辻巖一郎, 三澤隆史, 出水庸介, Post-modification による官能基修飾可能な α, α -ジ置換アミノ酸の設計と合成, ケミカルバイオロジー第 13 回年会, 東京 (2018. 6) .
- 316.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 核酸医薬を細胞内に導入するオリゴペプチドの開発, ケミカルバイオロジー第 13 回年会, 東京 (2018. 6) .
- 317.江藤諒, 大庭誠, 上田篤志, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 側鎖上にのみ不斉中心を持つ環状ジ置換アミノ酸よりなるヘリカルペプチドの巻き方制御, 第 16 回次世代を担う有機化学シンポジウム, 大阪 (2018. 5) .
- 318.江藤諒, 大庭誠, 上田篤志, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 側鎖にキラルなアセタールを有する 4 員環状ジ置換アミノ酸よりなるペプチドのヘリックス二次構造, 第 28 回福岡万有シンポジウム, 福岡 (2018. 5) .
- 319.大庭誠, 梅澤直樹, 出水庸介, フォルダマーの魅力-設計・構造・機能-, 日本薬学会第 138 回年会, 金沢 (2018. 3) .
- 320.辻巖一郎, 小林寛幸, 三澤隆史, 木下恵愛, 松野研司, 出水庸介, 種々の側鎖官能基を有する環状 α, α -ジ置換アミノ酸の合成と含有ペプチドの機能評価, 日本薬学会第 138 回年会, 金沢 (2018. 3) .
- 321.三澤隆史, 諫田泰成, 出水庸介, 多様な官能基修飾を志向したヘリカルテンプレートペプチドの開発, 日本薬学会第 138 回年会, 金沢 (2018. 3) .
- 322.杉山亨, 小原美咲, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, グアニン PNA モノマーの新規カチオン性アナログ, 日本薬学会第 138 回年会, 金沢 (2018. 3) .
- 323.河村麻衣子, 三澤隆史, 出水庸介, 花尻瑠理, 袴塚高志, LC-CD を用いた危険ドラッグ Methylphenidate 類似体のキラル分析, 日本薬学会第 138 回年会, 金沢 (2018. 3) .
- 324.江藤諒, 大庭誠, 上田篤志, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 宇久翼, 田中正一, 側鎖上にキラルなアセタールを有する 4 員環状ジ置換アミノ酸よりなるペプチドの二次構造解析, 日本薬学会第 138 回年会, 金沢 (2018. 3) .
- 325.古場百合恵, 池田光生, 上田篤志, 大庭誠, 出水庸介, 土井光暢, 田中正一, キラルな 3 員環状アミノ酸の合成と含有ペプチドのコンフォメーション解析, 日本薬学会第 138 回年会, 金沢 (2018. 3) .

平成 29 年

- 326.大岡伸通, 正田卓司, 藤里卓磨, 柴田識人, 服部隆行, 栗原正明, 出水庸介, 内藤幹彦, 芳香族炭化水素受容体ユビキチンリガーゼをリクルートする新しいプロテインノックダウン化合物の開発, 2017 年度生命科学系学会合同年次大会 (ConBio2017), 神戸 (2017. 12) .
- 327.池田光生, 古場百合恵, 上田篤志, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 側鎖に不斉中心を有する三員環状ジ置換アミノ酸とそのペプチドの合成, 第 34 回日本薬学会九州支部大会, 熊本 (2017. 11) .
- 328.小林寛幸, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 松野研司, 出水庸介, Development of cationic cell-penetrating peptides focused on their secondary structures, 第 54 回ペプチド討論会, 大阪 (2017. 11) .
- 329.三澤隆史, 出水庸介, Development of post functionalizable oligopeptides as helical templates, 第 54 回ペプチド討論会, 大阪 (2017. 11) .
- 330.古川かほり, 大庭誠, 遠山琴美, George Ouma Opiyo, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, Peptide foldamers changing their conformations in response to low pH trigger, 第 54 回ペプチド討論会, 大阪 (2017. 11) .
- 331.古場百合恵, 池田光生, 上田篤志, 大庭誠, 出水庸介, 土井光暢, 田中正一, Synthesis of chiral three-membered ring α, α -disubstituted α -amino acid and conformational analysis of its peptides, 第 54 回ペプチド討論会, 大阪 (2017. 11) .
- 332.杉山亨, 小原美咲, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, Peptide nucleic acid possessing PreQ₁ as a cationic analogue of guanine, 第 54 回ペプチド討論会, 大阪 (2017. 11) .
- 333.出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 二次構造制御に基づくペプチド創薬研究, 第 43 回反応と合成の進歩シンポジウム, 富山 (2017. 11) .
- 334.小林寛幸, 三澤隆史, 松野研司, 出水庸介, Post-modification 可能な α, α -ジ置換アミノ酸の合成と含有ペプチドの二次構造解析, 第 43 回反応と合成の進歩シンポジウム, 富山 (2017. 11) .
- 335.江藤諒, 大庭誠, 上田篤志, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 宇久翼, 田中正一, 側鎖上にのみ不斉中心を持つ 4 員環状アミノ酸よりなるペプチドのヘリックス二次構造, 第 43 回反応と合成の進歩シンポジウム, 富山 (2017. 11) .
- 336.小林寛幸, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 松野研司, 出水庸介, 二次構造に着目したカチオン性膜透過ペプチドの創製研究, 第 34 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2017. 10) .
- 337.大庭誠, 古川かほり, 遠山琴美, George Ouma Opiyo, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, 低 pH に応答して二次構造を変化させるペプチドフォ

- ルダマーの開発, 第 34 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2017. 10) .
- 338.古場百合恵, 上田篤志, 大庭誠, 出水庸介, 土井光暢, 田中正一, 小員環状ジ置換アミノ酸を用いたヘリカル二次構造の制御に関する研究, 第34回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2017. 10).
- 339.杉山亨, 小原美咲, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 正電荷を帯びたグアニン誘導体をもつPNAの合成, 第34回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2017. 10).
- 340.小林寛幸, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 松野研司, 出水庸介, カチオン性プロリン誘導体を含む細胞膜高透過性ペプチドの開発, 第 47 回複素環化学討論会, 高知 (2017. 10) .
- 341.大岡伸通, 正田卓司, 藤里卓磨, 柴田識人, 服部隆行, 栗原正明, 出水庸介, 内藤幹彦, 芳香族炭化水素受容体ユビキチンリガーゼをリクルートする新しいプロテインノックダウン化合物の開発, 第 76 回日本癌学会学術総会, 横浜 (2017. 9) .
- 342.小林寛幸, 三澤隆史, 内藤幹彦, 出水庸介, カチオン性プロリン誘導体を導入した細胞膜透過性ペプチドの開発, 第 61 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2017. 9) .
- 343.三澤隆史, 出水庸介, 多様な生理活性付与を志向した安定化ヘリカルテンプレートペプチドの開発, 第 61 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2017. 9) .
- 344.小林寛幸, 三澤隆史, 松野研司, 出水庸介, カチオン性プロリン誘導体を含む細胞膜透過性ペプチドの開発, 第 49 回若手ペプチド夏の勉強会, 長崎 (2017. 8) .
- 345.栗原正明, 三澤隆史, 出水庸介, ジフェニルメタンを基本骨格とするリガンドの創製, 東京, 第 3 回 Neo Vitamin D Workshop (2017. 8) .
- 346.出水庸介, 田中理恵, 袴塚高志, 栗原正明, 花尻瑠理, コンピュータシミュレーションによる違法薬物の活性予測に関する研究, 日本法中毒学会第 36 回年会, 東京 (2017. 7) .
- 347.三澤隆史, 小林寛幸, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, 出水庸介, 二次構造制御を基盤とした膜透過性ペプチドの開発, 第 33 回日本 DDS 学会学術集会, 京都 (2017. 7) .
- 348.古場百合恵, 池田光生, 上田篤志, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, キラルな三員環状ジ置換アミノ酸とそのペプチドの合成, 第 54 回化学関連支部合同九州大会, 北九州 (2017. 7) .

- 349.三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, ヘリカルペプチドを用いたビタミンD受容体(VDR)-コアクチベータ相互作用阻害剤の創製, 日本ビタミン学会第69回大会, 横浜(2017. 6) .
- 350.沖津航陽, 服部隆行, 三澤隆史, 栗原正明, 内藤幹彦, 出水庸介, His タグ融合タンパク質分解誘導分子の設計と合成, ケミカルバイオロジー第12回年会, 札幌(2017. 6) .
- 351.三澤隆史, 大岡伸通, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 栗原正明, 出水庸介, 親水性分子の細胞内導入を志向した細胞膜高透過性ペプチドの開発, 第15回次世代を担う有機化学シンポジウム, 東京(2017. 5) .
- 352.齋島一史, 出水庸介, 三澤隆史, 菊池裕, 栗原正明, 抗菌活性を有するヘリカルペプチドの設計と合成, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .
- 353.三澤隆史, 大岡伸通, 山下博子, 加藤巧馬, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 栗原正明, 親水性分子の細胞内導入を志向した膜透過性ペプチドの開発, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .
- 354.沖津航陽, 服部隆行, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 内藤幹彦, 栗原正明, ユビキチン-プロテアソーム系を介した His タグタンパク質分解誘導分子の開発, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .
- 355.小林寛幸, 出水庸介, 三澤隆史, 山下博子, 大庭誠, 田中正一, 松野研司, 栗原正明, プロリンの二次構造特異性を生かした細胞膜透過性ペプチドの開発, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .
- 356.正田卓司, 藤里卓磨, 三澤隆史, 出水庸介, 井上英史, 内藤幹彦, 栗原正明, 選択的エストロゲン受容体分解薬(SERD)の分子設計, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .
- 357.大岡伸通, 鈴木孝昌, 橋井則貴, 出水庸介, 栗原正明, 石川明子, 内藤幹彦, 分子標的薬オフターゲット効果の新しい評価法開発, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .
- 358.古場百合恵, 池田光生, 上田篤志, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 3員環状ジ置換アミノ酸とその含有ペプチドの合成, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .
- 359.杉山亨, 長谷川元気, 新倉千絵, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 橘高敦史, 標準的 Fmoc 法固相合成のための 2-チオウラシル PNA モノマー, 日本薬学会第137回年会, 仙台(2017. 3) .

平成 28 年

- 360.出水庸介, 三澤隆史, 山下博子, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 栗原正明, 二次構造制御を基軸とした膜透過ペプチドの創製研究, 第33回メディシナルケミストリーシンポジウム, つくば(2016. 11) .

- 361.杉山亨, 長谷川元気, 新倉千絵, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, Fmoc 法による擬似相補的 PNA の合成, 第 33 回メディスナルケミストリーシンポジウム, つくば (2016. 11) .
- 362.三澤隆史, 大岡伸通, 山下博子, 服部隆行, 加藤巧馬, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 栗原正明, 核酸医薬を志向した高膜透過性ペプチドの開発, 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡 (2016. 11) .
- 363.出水庸介, 沖津航陽, 服部隆行, 三澤隆史, 内藤幹彦, 栗原正明, His タグ融合タンパク質分解誘導分子の開発, 第 42 回反応と合成の進歩シンポジウム, 静岡 (2016. 11) .
- 364.正田卓司, 藤里卓磨, 三澤隆史, 出水庸介, 井上英史, 内藤幹彦, 栗原正明, 長鎖アルキル基を有する新規エストロゲン受容体分解誘導剤の合成と評価, 第 42 回反応と合成の進歩シンポジウム, 静岡 (2016. 11) .
- 365.三澤隆史, 出水庸介, 山下博子, 加藤巧馬, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, Development of helix-stabilized amphipathic cell-penetrating peptide using helical promoter, 第 53 回ペプチド討論会, 京都 (2016. 10) .
- 366.沖津航陽, 服部隆行, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 内藤幹彦, 栗原正明, Design and synthesis of degradation of inducers targeted on His-tag fused proteins, 第 53 回ペプチド討論会, 京都 (2016. 10) .
- 367.杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, New Fmoc 2-thiouracil monomer for the synthesis of pseudo-complementary PNA, 第 53 回ペプチド討論会, 京都 (2016. 10) .
- 368.上田篤志, 大庭誠, 和泉有紀, 末吉康人, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, Enantioselective synthesis of isotope-labeled α -aminoisobutyric acids and the secondary structures of their homochiral homopeptides, 第 53 回ペプチド討論会, 京都 (2016. 10) .
- 369.出水庸介, 小林寛幸, 山下博子, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 松野研司, 栗原正明, 側鎖にグアニジノ基を有するプロリン誘導体の合成と細胞膜透過性ペプチドへの応用, 第 46 回複素環化学討論会, 金沢 (2016. 9) .
- 370.杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, 機能性分子を目指した修飾デアザグアニンのペプチド核酸への導入, 第 46 回複素環化学討論会, 金沢 (2016. 9) .
- 371.三澤隆史, 山下博子, 加藤巧馬, 大岡伸通, 服部隆行, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 栗原正明, ヘリカルテンプレート導入によるオリゴアルギニンの二次構造制御と膜透過能への効果, 第 60 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2016. 9) .

372. 沖津航陽, 服部隆行, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 内藤幹彦, 栗原正明, His タグ融合タンパク質分解誘導分子の開発, 第 60 回日本薬学会関東支部大会, 東京 (2016. 9) .
373. 正田卓司, 藤里卓磨, 三澤隆史, 出水庸介, 井上英史, 内藤幹彦, 栗原正明, 長鎖アルキル基を利用した新規エストロゲン受容体分解誘導剤の創製, 第 10 回バイオ関連化学シンポジウム, 金沢 (2016. 9) .
374. 三澤隆史, 山下博子, 出水庸介, 服部隆行, 加藤巧馬, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 栗原正明, 二次構造に着目した高膜透過性ペプチドの開発, 第 10 回バイオ関連化学シンポジウム, 金沢 (2016. 9) .
375. 沖津航陽, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, His タグ融合タンパク質分解誘導分子の開発, 第 48 回若手ペプチド夏の勉強会, 東京 (2016. 8) .
376. 小林寛幸, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 二次構造制御を基軸とした膜透過ペプチドの開発, 第 48 回若手ペプチド夏の勉強会, 東京 (2016. 8) .
377. 三澤隆史, 山下博子, 出水庸介, 服部隆行, 原屋佑樹, 加藤巧馬, 大庭誠, 加藤くみ子, 田中正一, 合田幸広, 内藤幹彦, 栗原正明, 二次構造制御に基づく高膜透過性ペプチドの開発, 第 32 回日本 DDS 学会学術集会 (2016. 6) .
378. 三澤隆史, 出水庸介, 谷内出友美, 大岡伸通, 野尻久雄, 橘高敦史, 槇島誠, 内藤幹彦, 栗原正明, ビタミン D 受容体 (VDR) の活性を制御するノンセロイド型 VDR リガンドの創製, 日本ビタミン学会第 68 回大会 (2016. 6) .
379. 出水庸介, 山下博子, 加藤巧馬, 大岡伸通, 三澤隆史, 服部隆行, 田中正一, 内藤幹彦, 大庭誠, 栗原正明, ペプチド二次構造制御に基づく細胞膜高透過性ペプチドの創製, ケミカルバイオロジー第 11 回年会 (2016. 6) .
380. 出水庸介, 山下博子, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, ペプチド二次構造制御に基づく細胞膜高透過性ペプチドの開発, 第 14 回次世代を担う有機化学シンポジウム (2016. 5) .
381. 出水庸介, 大岡伸通, 三澤隆史, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体分解誘導ペプチドの創製, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .
382. 三澤隆史, 山下博子, 加藤巧馬, 服部隆行, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 出水庸介, 栗原正明, ヘリカルプロモーター導入によるオリゴアルギニンの構造制御と膜透過能への効果, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .
383. 山下博子, 出水庸介, 加藤巧馬, 大岡伸通, 三澤隆史, 服部隆行, 田中正一, 内藤幹彦, 大庭誠, 栗原正明, 環境応答型二次構造変化を利用した細胞膜高透過性ペプチドの開発, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .

384. 沖津航陽, 服部隆行, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 内藤幹彦, 栗原正明, His タグタンパク質分解誘導分子の開発, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .
385. 小澤佑斗, 出水庸介, 三澤隆史, 菊池裕, 栗原正明, 二次構造制御に基づく抗菌ペプチドフォルダマーの開発, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .
386. 正田卓司, 加藤雅士, 藤里卓磨, 三澤隆史, 出水庸介, 井上英史, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体分解活性を有するラロキシフェン誘導体の開発, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .
387. 古場百合恵, 上田篤志, 大庭誠, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, エチレンアセタールを有するキラル 5 員環アミノ酸を含有するペプチドのヘリカル二次構造, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .
388. 杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, デアザグアニン誘導体を持つ PNA の合成, 日本薬学会第 136 回年会 (2016. 3) .

平成 27 年

389. 野尻久雄, 村田拓哉, 橘高敦史, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, ノンセコステロイド型 VDR リガンドによる ATRA 耐性急性前骨髄球性白血病細胞の分化誘導, 第 36 回日本臨床薬理学会学術総会 (2015. 12) .
390. 出水庸介, 山下博子, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, グアニジノ基を有する環状アミノ酸の合成と細胞膜透過性ペプチドへの応用, 第 45 回複素環化学討論会 (2015. 11) .
391. 榊原紀和, 五十嵐淳介, 高田麻紀, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 小西良士, 加藤善久, 丸山徳見, 塚本郁子, 2-クロル炭素環オキセタノシン A (COA-C1) の新規誘導体の合成とその血管新生促進作用, 第 45 回複素環化学討論会 (2015. 11) .
392. 出水庸介, 三澤隆史, 諫田泰成, 大岡伸通, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体を標的とした転写活性化阻害および分解誘導ペプチドの創製, 第 33 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2015. 11) .
393. 三澤隆史, 依岡桃子, 出水庸介, 谷内出友美, 大岡伸通, 木下恵愛, 野尻久雄, 橘高敦史, 榎島誠, 内藤幹彦, 栗原正明, ノンセコステロイド型ビタミン D 受容体リガンドの創製—官能基変換による活性制御—, 第 33 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2015. 11) .
394. 依岡桃子, 三澤隆史, 出水庸介, 大岡伸通, 諫田泰成, 榎島誠, 南雲紳史, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体転写阻害剤および分解誘導剤の創製, 第 33 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2015. 11) .

- 395.正田卓司, 加藤雅士, 藤里卓磨, 三澤隆史, 出水庸介, 井上英史, 内藤幹彦, 栗原正明, ラロキシフェン骨格を有する新規エストロゲン受容体分解誘導剤の開発, 第33回メディシナルケミストリーシンポジウム (2015. 11) .
- 396.杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, 修飾デアザグアニン含有 PNA オリゴマーの合成, 第33回メディシナルケミストリーシンポジウム (2015. 11) .
- 397.榊原紀和, 五十嵐淳介, 高田麻紀, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 小西良士, 加藤善久, 丸山徳見, 塚本郁子, 血管新生促進作用を有する新規2-クロル炭素環オキセタノシン A (COA-C1) 誘導体の創製, 第33回メディシナルケミストリーシンポジウム (2015. 11) .
- 398.出水庸介, 三澤隆史, 諫田泰成, 大岡伸通, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, Development of helical peptide as inhibitors of estrogen receptor-mediated transcription, 第52回ペプチド討論会 (2015. 11) .
- 399.三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, Design and synthesis of short helical peptides as vitamin D receptor (VDR)-coactivator interaction inhibitors, 第52回ペプチド討論会 (2015. 11) .
- 400.山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 服部隆行, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 栗原正明, Development of helix-stabilized cationic peptides with cell-membrane penetrating ability, 第52回ペプチド討論会 (2015. 11) .
(優秀発表賞)
- 401.沖津航陽, 服部隆行, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 内藤幹彦, 栗原正明, Development of His-tag fused protein degradation inducer based on protein knockdown strategy, 第52回ペプチド討論会 (2015. 11) .
- 402.古場百合恵, 上田篤志, 大庭誠, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, Conformational analysis of peptides composed of chiral cyclic amino acids, 第52回ペプチド討論会 (2015. 11) .
- 403.杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, Synthesis of PNA oligomers containing modified deazaguanines for the development of functional PNA, 第52回ペプチド討論会 (2015. 11) .
- 404.榊原紀和, 五十嵐淳介, 高田麻紀, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 小西良士, 加藤善久, 丸山徳見, 塚本郁子, 血管新生促進剤を指向した2-クロル炭素環オキセタノシン A (COA-C1) の新規誘導体の創製研究, 第54回薬学会中国四国支部学術大会 (2015. 10) .
- 405.三澤隆史, 依岡桃子, 出水庸介, 大岡伸通, 木下恵愛, 榎島誠, 内藤幹彦, 栗原正明, 長鎖アルキルを有するノンセコステロイド型 VDR リガンドの創製, 第41回反応と合成の進歩シンポジウム (2015. 10) .

- 406.山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 服部隆行, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 栗原正明, 細胞膜透過性の向上を指向したカチオン性アミノ酸の合成およびその応用, 第 41 回反応と合成の進歩シンポジウム (2015. 10) . (優秀発表賞)
- 407.出水庸介, 三澤隆史, 内山奈穂子, 花尻瑠理, 袴塚高志, 栗原正明, コンピュータシミュレーションによる合成カンナビノイドの CB1 受容体への結合様式解析, 第 59 回日本薬学会関東支部大会 (2015. 9) .
- 408.田中克哉, 三澤隆史, 出水庸介, 諫田泰成, 槇島誠, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, ジフェニルメタンを基本骨格とするエストロゲン受容体アンタゴニストの創製, 第 59 回日本薬学会関東支部大会 (2015. 9) .
- 409.依岡桃子, 三澤隆史, 出水庸介, 大岡伸通, 槇島誠, 南雲紳史, 内藤幹彦, 栗原正明, ジフェニルメタンを基本骨格としたエストロゲン受容体転写阻害剤および分解誘導剤の開発, 第 59 回日本薬学会関東支部大会 (2015. 9) .
- 410.三澤隆史, 依岡桃子, 出水庸介, 大岡伸通, 木下恵愛, 槇島誠, 内藤幹彦, 栗原正明, 長鎖アルキル基を有するビタミン D 受容体リガンドの創製, 第 59 回日本薬学会関東支部大会 (2015. 9) .
- 411.三澤隆史, 出水庸介, 槇島誠, 栗原正明, ノンセコステロイド型 VDR リガンドの創製, 第 1 回 Neo Vitamin D Workshop (2015. 8) .
- 412.平田尚也, 山田茂, 出水庸介, 栗原正明, 関野祐子, 諫田泰成, エストロゲンによる NO を介した乳癌幹細胞の増殖, 第 132 回日本薬理学会関東部会 (2015. 7) .
- 413.山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 服部隆行, 内藤幹彦, 栗原正明, DDS キャリアを指向したカチオン性非天然アミノ酸導入ペプチドの開発, 第 31 回日本 DDS 学会学術集会 (2015. 7) .
- 414.大庭誠, 古川かほり, 加藤巧馬, 山下博子, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, アルギニン含有ペプチドの細胞膜透過性と pDNA デリバリーに関する研究, 第 31 回日本 DDS 学会学術集会 (2015. 7) .
- 415.出水庸介, 三澤隆史, 長久保貴哉, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体転写活性化阻害能を有するヘリカルペプチドの開発, ケミカルバイオロジー第 10 回年会 (2015. 6) .
- 416.三澤隆史, 出水庸介, 栗原正明, ヘリカルペプチドを用いたビタミン D 受容体 (VDR) -コアクチベータ相互作用阻害剤の創製, ケミカルバイオロジー第 10 回年会 (2015. 6) .
- 417.沖津航陽, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 服部隆行, 内藤幹彦, 栗原正明, His タグタンパク質応答性蛍光プローブの開発, ケミカルバイオロジー第 10 回年会 (2015. 6) .

418. 榊原紀和, Gianfranco Balboni, Cenzo Congiu, Valentina Onnis, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 加藤善久, 丸山徳見, 外山政明, 岡本実佳, 馬場昌範, 新規トリアジン誘導体の合成とそれらの抗 HIV-1 活性評価, ケミカルバイオロジー第 10 回年会 (2015. 6) .
419. Hirata, N.; Demizu, Y.; Kurihara, M.; Sekino, Y.; Kanda, Y., Estrogen induces proliferation of breast cancer stem cells via NO/sGC/cGMP signaling pathway, 第 13 回幹細胞シンポジウム (2015.5) .
420. 出水庸介, 長久保貴哉, 三澤隆史, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体転写活性化阻害ペプチドの創製, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
421. 三澤隆史, 出水庸介, 船田正彦, 栗原正明, カンナビノイド受容体調整薬の設計と合成, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
422. 山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 服部隆行, 大庭誠, 田中正一, 内藤幹彦, 栗原正明, 二次構造制御に基づくカチオン性膜透過ペプチドの開発, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
423. 沖津航陽, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 服部隆行, 内藤幹彦, 栗原正明, 細胞内タンパク質に対する蛍光スイッチング機能を持つ小分子プローブの開発, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
424. 田中克哉, 依岡桃子, 三澤隆史, 諫田泰成, 関野祐子, 出水庸介, 栗原正明, 非対称ジフェニルメタンを基本骨格とするエストロゲン受容体アンタゴニストの設計と合成, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
425. 岡崎優祐, 出水庸介, 細谷翼, 栗原正明, 須原義智, 糖アミノ酸を用いた新規糖質類縁体の合成と抗ウィルス薬への応用, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
426. 杖本望, 出水庸介, 百合野翔太郎, 中村陽菜, 土井麻緒, 栗原正明, 須原義智, 三重螺旋構造の安定化を指向した β -ペプチド導入型コラーゲン模倣物の創製, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
427. 古場百合恵, 上田篤志, 大庭誠, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, アセタールを有するキラル環状ジ置換アミノ酸によるヘリカル二次構造の制御, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
428. 江藤諒, 大庭誠, 上田篤志, 栗原正明, 出水庸介, 末宗洋, 田中正一, D-トレイトール由来のアセタールを有する六員環状ジ置換アミノ酸よりなるペプチドのコンフォメーション解析, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
429. 清水貴士, 山本耕介, メイビョウ, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋, 臼井一晃, リパーゼ触媒を用いた [5]ヘリセン類の速度論的光学分割, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .

430. 榊原紀和, 馬場昌範, 岡本実佳, 外山政明, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 入江晃司, 加藤善久, 丸山徳見, 3, 5-ジメチルベンジル基を有するウラシル誘導体および尿素誘導体の合成とそれらの抗 HIV-1 活性評価, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .
431. 杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, デアザグアニン誘導体を持つ PNA モノマーの合成, 日本薬学会第 135 回年会 (2015. 3) .

平成 26 年

432. 三澤隆史, 長久保貴哉, 出水庸介, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, ヘリカルペプチドを用いたエストロゲン受容体転写阻害剤の創製, 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2014. 11) .
433. 杖本望, 出水庸介, 百合野翔太郎, 小川舞, 土井麻緒, 中村陽菜, 栗原正明, 須原義智, 生体材料への応用を指向した新規コラーゲン様ペプチドの創製, 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2014. 11) .
434. 岡崎優祐, 出水庸介, 細谷翼, 川口潤一郎, 栗原正明, 須原義智, 抗ウィルス薬を目指した新規 O-硫酸化多糖類の合成, 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2014. 11) .
435. 出水庸介, 長久保貴哉, 三澤隆史, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体転写阻害ペプチドの開発, 第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム (2014. 11) .
436. 山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, 二次構造制御に基づく膜透過性ヘリカルペプチドの創製, 第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム (2014. 11) .
437. 小野京, 島袋充史, 上田篤志, 大庭誠, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 環状メチオニンの合成とそのペプチドの二次構造解析, 第 40 回反応と合成の進歩シンポジウム (2014. 11) .
438. 榊原紀和, 馬場昌範, 岡本実佳, 外山政明, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, 入江晃司, 加藤善久, 丸山徳見, 抗 HIV-1 剤を指向した 1-置換型ウラシル誘導体および尿素誘導体の創製研究, 第 53 回薬学会中国四国支部学術大会 (2014. 11) .
439. 山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, Development of stabilized short helical peptides with cell-membrane penetrating ability, 第 51 回ペプチド討論会 (2014. 10) .
440. 長久保貴哉, 出水庸介, 三澤隆史, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, Development of cell-permeable peptide for

- transcriptional inhibitor of estrogen receptor, 第 51 回ペプチド討論会 (2014. 10) .
- 441.江藤諒, 大庭誠, 上田篤志, 石川奈保子, 栗原正明, 出水庸介, 末宗洋, 土井光暢, 田中正一, Synthesis and conformational analysis of helical oligomers with a changeable chiral acetal moiety, 第 51 回ペプチド討論会 (2014. 10) .
- 442.杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, Modified Deazaguanines for the synthesis of PNA, 第 51 回ペプチド討論会 (2014. 10) .
- 443.出水庸介, 三澤隆史, 内山奈穂子, 花尻瑠理, 袴塚高志, 栗原正明, 合成カンナビノイドの CB1 受容体に対する結合様式解析に関する研究, 第 58 回日本薬学会関東支部大会 (2014. 10) .
- 444.長久保貴哉, 出水庸介, 三澤隆史, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体転写阻害能を有するペプチドの創製, 第 58 回日本薬学会関東支部大会 (2014. 10) . (優秀発表賞)
- 445.沖津航陽, 出水庸介, 三澤隆史, 正田卓司, 服部隆行, 内藤幹彦, 栗原正明, 細胞内 His タグタンパク質応答性蛍光プローブの開発, 第 58 回日本薬学会関東支部大会 (2014. 10) . (優秀発表賞)
- 446.出水庸介, 三澤隆史, 山崎徳和, 佐藤由紀子, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, 細胞膜高透過性 Tat ペプチドミミックの開発, 第 30 回日本 DDS 学会学術集会 (2014. 7) .
- 447.山下博子, 出水庸介, 三澤隆史, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, オリゴアルギニンをベースとした細胞膜透過性ヘリカルペプチドの開発, 第 30 回日本 DDS 学会学術集会 (2014. 7) .
- 448.出水庸介, 三澤隆史, 山崎徳和, 山下博子, 佐藤由紀子, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, ヘリカル構造制御に基づく細胞膜高透過性ペプチドの創製, ケミカルバイオロジー第 9 回年会 (2014. 6) .
- 449.川村愛, 出水庸介, 三澤隆史, 栗原正明, VDR-コアクチベータ結語阻害作用を有するステープルペプチドの創製, ケミカルバイオロジー第 9 回年会 (2014. 6) .
- 450.榊原紀和, 馬場昌範, 岡本実佳, 外山政明, 出水庸介, 栗原正明, 入江晃司, 加藤善久, 丸山徳見, 抗 HIV-1 剤を指向した 1-置換型 3-(3, 5-ジメチルベンジル)ウラシルの創製研究, ケミカルバイオロジー第 9 回年会 (2014. 6) .
- 451.出水庸介, 土井光暢, 佐藤由紀子, 田中正一, 栗原正明, LD-ペプチドのヘリカル構造制御, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .

- 452.山崎徳和, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢, 栗原正明, (1*S*,2*S*)-シクロペンタンジアミンと 2,2-ジメチルマロン酸から構成されるオリゴマーの構造解析, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 453.長久保貴哉, 出水庸介, 佐藤由紀子, 諫田泰成, 奥平桂一郎, 関野祐子, 内藤幹彦, 栗原正明, エストロゲン受容体転写阻害ペプチドの創製, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 454.川村愛, 出水庸介, 佐藤由紀子, 栗原正明, VDR-コアクチベータ結語阻害ペプチドの設計とマイクロ波を用いた迅速合成, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 455.山下博子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, 細胞膜透過性ヘリカルペプチドの創製, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 456.依岡桃子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 栗原正明, ノンセコ型ビタミン D 受容体アンタゴニストの創製, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 457.宇都宮亮, 依岡桃子, 野島萌子, 佐藤由紀子, 出水庸介, 栗原正明, 非対称ビスフェノールの効率的合成, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 458.原田麟太郎, 正田卓司, 加藤雅士, 出水庸介, 栗原正明, N 修飾型タモキシフェン誘導体の合成, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 459.正田卓司, 中野達也, 瀧明子, 長谷川式子, 出水庸介, 大野彰子, 宮田直樹, 奥田晴宏, 栗原正明, 日本薬局方名称データベースおよび日本医薬品一般名称データベースについて, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 460.奥平桂一郎, 出水庸介, 服部隆行, 大岡伸通, 柴田識人, 最上 (西巻) 知子, 栗原正明, 奥田晴宏, 内藤幹彦, エストロゲン受容体分解誘導剤による乳癌の細胞死誘導分子機構, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 461.古場百合恵, 平田陽子, 出水庸介, 土井光暢, 栗原正明, 大庭誠, 田中正一, 側鎖にアセタールを持つ 5 員環アミノ酸を含有するペプチドの二次構造解析, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 462.小野京, 島袋充史, 大庭誠, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 5 員環状メチオニンよりなるペプチドの二次構造解析, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .
- 463.杉山亨, 桑田啓子, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, 側鎖に金属錯体を持った β -PNA による配列特異的 DNA 切断, 日本薬学会第 134 回年会 (2014. 3) .

平成 25 年

- 464.古場百合恵, 平田陽子, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 大庭誠, 田中正一, アセタールを有するキラルな 5 員環アミノ酸よりなるペプチドの二次構造解析, 第 30 回日本薬学会九州支部大会 (2013. 12) .

- 465.小野京, 島袋充史, 大庭誠, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 田中正一, 光学活性 5 員環メチオニンよりなるペプチドの二次構造解析, 第 30 回日本薬学会九州支部大会 (2013. 12) .
- 466.梅森, 山本耕介, 岡住三枝子, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋, 白井一晃, 生体触媒を利用したアセトキシ [5] ヘリセン類の速度論的光学分割, 第 30 回薬学会九州支部大会 (2013. 12) .
- 467.出水庸介, 山崎徳和, 山下博子, 佐藤由紀子, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, 細胞膜高透過性ヘリカルペプチドの開発を目的としたアルギニン誘導体の合成, 第 31 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2013. 11) .
- 468.出水庸介, 山崎徳和, 山下博子, 佐藤由紀子, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, 細胞膜高透過性ペプチドの開発を目的としたヘリカル構造固定化アミノ酸の創製, 第 39 回反応と合成の進歩シンポジウム (2013. 11) .
- 469.榊原紀和, 濱崎隆之, 馬場昌範, 出水庸介, 栗原正明, 入江晃司, 岩井雅俊, 加藤善久, 丸山徳見, 簡便な 3-(3, 5-ジメチルベンジル) ウラシルの新規誘導体の合成とその抗 HIV-1 活性評価, 第 43 回複素環化学討論会 (2013. 10) .
- 470.榊原紀和, 濱崎隆之, 馬場昌範, 出水庸介, 栗原正明, 入江晃司, 岩井雅俊, 加藤善久, 丸山徳見, 非核酸系逆転写酵素阻害剤としての新規ウラシル誘導体合成とその抗 HIV-1 活性評価, 第 52 回薬学会中国四国支部学術大会 (2013. 10) .
- 471.出水庸介, 山下博子, 佐藤由紀子, 土井光暢, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, α , α -ジ置換アミノ酸による LD-ペプチドのヘリカル構造制御, 第 57 回日本薬学会関東支部大会 (2013. 10) .
- 472.山下博子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 大庭誠, 田中正一, 栗原正明, 二次構造制御に基づく細胞膜透過性ペプチドの創製, 第 57 回日本薬学会関東支部大会 (2013. 10) .
- 473.山崎徳和, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢, 栗原正明, ジアミンとジカルボン酸から構成されるヘリカルフォルダマーの創製, 第 57 回日本薬学会関東支部大会 (2013. 10) .
- 474.川村愛, 出水庸介, 佐藤由紀子, 栗原正明, マイクロ波の利用による VDR-コアクチベータ結合阻害ペプチドの迅速合成, 第 57 回日本薬学会関東支部大会 (2013. 10) . (優秀発表賞)
- 475.小野京, 島袋充史, 大庭誠, 土井光暢, 栗原正明, 出水庸介, 田中正一, 光学活性環状メチオニンよりなるペプチドの合成とその二次構造解析, 第 50 回化学関連支部合同九州大会 (2013. 7) .

- 476.古場百合恵, 平田陽子, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, アセタールを有する光学活性 5 員環アミノ酸の合成とそのペプチドの二次構造解析, 第 50 回化学関連支部合同九州大会 (2013. 7) .
- 477.出水庸介, 長久保貴哉, 川村愛, 名見耶早織, 白川真奈美, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 栗原正明, 核内受容体-コアクチベータ結合阻害ペプチドの開発, ケミカルバイオロジー第 8 回年会 (2013. 6) .
- 478.出水庸介, 土井光暢, 佐藤由紀子, 田中正一, 栗原正明, ジ置換アミノ酸による LD-ペプチドの二次構造制御, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 479.末吉康人, 和泉有紀, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 大庭誠, 田中正一, ペプチドコンフォメーションへの重水素同位体効果に関する研究, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 480.名見耶早織, 出水庸介, 佐藤由紀子, 正田卓司, 土井光暢, 田中正一, 栗原正明, 安定化ヘリカルペプチドを用いた VDR-コアクチベータ結合阻害剤の創製, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) . (優秀発表賞)
- 481.加藤雅士, 正田卓司, 出水庸介, 井上英史, 服部隆行, 内藤幹彦, 栗原正明, 細胞膜透過性蛍光 NTA の設計・合成, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 482.杉山亨, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, β -リジン PNA の合成, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 483.小野京, 島袋充史, 大庭誠, 土井光暢, 栗原正明, 出水庸介, 田中正一, 光学活性 5 員環メチオニンアナログの設計とそのペプチドの二次構造解析, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 484.今西愛, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 高崎紘臣, 末宗洋, 田中正一, アジド基を持つ光学活性五員環アミノ酸の合成とそのペプチドの二次構造解析, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 485.山崎徳和, 出水庸介, 正田卓司, 佐藤由紀子, 栗原正明, らせん構造を有する新規フォルダマーの創製, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) . (優秀発表賞)
- 486.白川真奈美, 名見耶早織, 出水庸介, 正田卓司, 佐藤由紀子, 栗原正明, LXXLLモチーフを有する安定化ヘリカルペプチド, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 487.本吉仁美, 出水庸介, 倉島恵愛, 正田卓司, 佐藤由紀子, 栗原正明, 長鎖アルキル基を持つノンセコステロイド型 VDR リガンドの創製, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .
- 488.栗原正明, 佐藤由紀子, 出水庸介, コンピュータシミュレーションによる違法ドラッグの活性予測, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .

489.栗原正明, 佐藤由紀子, 出水庸介, QSAR による化学物質の有害性予測法の開発, 日本薬学会第 133 回年会 (2013. 3) .

平成 24 年

490.宇久翼, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, キラルアセタールを有する 4 員環状アミノ酸よりなるペプチドの合成と二次構造解析, 第 29 回薬学会九州支部大会 (2012. 12) .

491.出水庸介, 倉島恵愛, 本吉仁美, 佐藤由紀子, 正田卓司, 野尻久雄, 橘高敦史, 栗原正明, 長鎖アルキル基を有するノンセコステロイド型 VDR リガンドの創製, 第 30 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2012. 11) .

492.杉山亨, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, リジン側鎖を持った β キラルペプチド核酸の合成, 第 49 回ペプチド討論会 (2012. 11) .

493.今西愛, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 高崎紘臣, 末宗洋, 田中正一, アジド基を有するキラル五員環アミノ酸とそのペプチドの合成, 第 49 回ペプチド討論会 (2012. 11) .

494.石川奈保子, 大庭誠, 栗原正明, 出水庸介, 末宗洋, 田中正一, キラルアセタールを有する 6 員環アミノ酸の合成とそのオリゴマーの配座解析, 第 38 回反応と合成の進歩シンポジウム (2012. 11) .

495.池田絵美, 加藤巧馬, 花田知美, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 津田裕子, 大庭誠, 田中正一, 非天然型アミノ酸を含有するエンドモルフィン-2 類縁体の合成, 第 49 回化学関連支部合同九州大会 (2012. 6) .

496.若菜大悟, 出水庸介, 鎌倉浩之, 栗原正明, 奥田晴宏, 合田幸広, 強壯を標榜する健康食品から単離されたプロドラッグタイプの ED 治療薬類似物質 mutaprodenafil の構造, 日本食品化学学会第 18 回総会・学術大会 (2012. 6) .

497.奥平桂一郎, 出水庸介, 大岡伸通, 柴田識人, 服部隆行, 最上 (西巻) 知子, 栗原正明, 奥田晴宏, 内藤幹彦, 乳癌におけるエストロゲンレセプターの分解を誘導する分子 SNIPER(ER)の開発, 第 16 会日本がん分子標的治療学会 (2012. 6) .

498.名児耶早織, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 栗原正明, 安定化ヘリカルペプチドを用いた VDR 転写阻害剤の設計と合成, ケミカルバイオロジー第 7 回年会 (2012. 6) .

499.奥平桂一郎, 出水庸介, 大岡伸通, 柴田識人, 服部隆行, 最上 (西巻) 知子, 栗原正明, 奥田晴宏, 内藤幹彦, プロテインノックダウン法によるエストロゲンレセプターの分解, 日本薬学会第 132 回年会 (2012. 3) .

- 500.名見耶早織, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 栗原正明, 安定化ヘリカルペプチドを用いたビタミンD受容体転写阻害剤の創製, 日本薬学会第132回年会(2012. 3). (**優秀発表賞**)
- 501.元井宏美, 出水庸介, 佐藤由紀子, 奥平桂一郎, 内藤幹彦, 栗原正明, プロテインノックダウン法を利用したエストロゲン受容体分解誘導剤の開発, 日本薬学会第132回年会(2012. 3).
- 502.倉島恵愛, 出水庸介, 佐藤由紀子, 野尻久雄, 橘高敦史, 栗原正明, 長鎖アルキル基を持つノンセコステロイド型VDRリガンドの創製, 日本薬学会第132回年会(2012. 3).
- 503.栗原正明, 出水庸介, 佐藤由紀子, コンピュータシミュレーションによる違法ドラッグの活性予測, 日本薬学会第132回年会(2012. 3).
- 504.宇久翼, 大庭誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, キラルアセタールを有する4員環状アミノ酸とそのペプチドの合成, 日本薬学会第132回年会(2012. 3).
- 505.平田陽子, 大庭誠, 栗原正明, 出水庸介, 土井光暢, 田中正一, アセタールを有する光学活性5員環状アミノ酸よりなるペプチドの二次構造解析, 日本薬学会第132回年会(2012. 3).
- 506.加藤巧馬, 池田絵美, 花田智美, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 津田裕子, 大庭誠, 田中正一, 非タンパク質構成アミノ酸を導入したエンドモルフィン-2類縁体の合成, 日本薬学会第132回年会(2012. 3).
- 507.山本耕介, 岡住三枝子, 臼井一晃, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋, 光学活性[5]ヘリセン誘導体の合成及びその応用研究, 日本薬学会第132回年会(2012. 3).

平成23年

- 508.宇久翼, 大庭誠, 福留誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, キラルな4員環状アミノ酸とそのペプチドの合成, 第28回薬学会九州支部大会(2011. 12).
- 509.平田陽子, 大庭誠, 福留誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, 光学活性な5員環状アミノ酸よりなるペプチドの合成とその二次構造解析, 第28回薬学会九州支部大会(2011. 12).
- 510.出水庸介, 名見耶早織, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 奥田晴宏, 栗原正明, 安定化ヘリカルペプチドを用いた α , β -不飽和ケトンの不斉エポキシ化, 第37回反応と合成の進歩シンポジウム(2011. 11).
- 511.田中正一, 平田貴之, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋, ジアステレオメリックな6員環状アミノ酸からなるペプチドのヘリカル二次構造, 第37回反応と合成の進歩シンポジウム(2011. 11).

512. 出水庸介, 名見耶早織, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 奥田晴宏, 栗原正明, ステープルペプチドを用いた α , β -不飽和ケトンの不斉エポキシ化, 第 55 回日本薬学会関東支部大会 (2011. 10).
513. 栗原正明, 出水庸介, 佐藤由紀子, 花尻瑠理, 合田幸広, 奥田晴宏, コンピュータシミュレーションによる違法薬物のレギュレーション, 第 55 回日本薬学会関東支部大会 (2011. 10) .
514. 奥平桂一郎, 出水庸介, 大岡伸道, 柴田識人, 服部隆行, 最上知子, 栗原正明, 奥田晴宏, 内藤幹彦, プロテインノックダウン法によるエストロゲン受容体の分解, 第 70 回日本癌学会学術総会 (2011. 9).
515. 出水庸介, 名見耶早織, 佐藤由紀子, 田中正一, 土井光暢, 奥田晴宏, 栗原正明, ステープルヘリカルペプチドを用いた α , β -不飽和ケトンの不斉エポキシ化, 第 48 回ペプチド討論会 (2011. 9).
516. 平田陽子, 大庭誠, 福留誠, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, キラルな 5 員環状アミノ酸からなるペプチドの合成とコンフォメーション解析, 第 48 回ペプチド討論会 (2011. 9).
517. 花田智美, 加藤巧馬, 池田絵美, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 津田裕子, 福留誠, 大庭誠, 田中正一, 配座自由度を制限したエンドモルフィン-2 誘導体の設計・合成, 第 48 回ペプチド討論会 (2011. 9).
518. 栗原正明, 出水庸介, 名見耶早織, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 安定化ヘリカルペプチドの設計, 第 48 回ペプチド討論会 (2011. 9).
519. 杉山 亨, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, β -キラル PNA の合成と DNA 結合特性, 第 48 回ペプチド討論会 (2011. 9).
520. 出水庸介, 佐藤由紀子, 堀江恭平, 高木健一郎, 角田真二, 上村みどり, 奥田晴宏, 栗原正明, ノンセコ型 VDR リガンドの創製および VDR との相互作用解析, 日本ケミカルバイオロジー学会第 6 回年会 (2011. 5) .
521. 栗原正明, 出水庸介, 佐藤由紀子, 花尻瑠理, 合田幸広, 奥田晴宏, 定量的構造活性相関 (QSAR) 等による活性予測の応用, 日本薬学会第 131 回年会 (2011. 3) .
522. 竹内由起, 野島萌子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 井上英史, 奥田晴宏, 栗原正明, 落合鋭士, 堀江恭平, 高木健一郎, 角田真二, 上村みどり, ノンセコ VDR リガンドの創製と VDR との相互作用解析, 日本薬学会第 131 回年会 (2011. 3) .
523. 出水庸介, 山縣奈々子, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 奥田晴宏, 栗原正明, ヘリカルペプチドの制御とカルコン類の不斉エポキシ化への応用, 日本薬学会第 131 回年会 (2011. 3) .

- 524.加藤和也, 反田和弘, 大庭誠, 福留誠, 土井光暢, 栗原正明, 出水庸介, 末宗洋, 田中正一, アセタールを有するキラル6員環状アミノ酸からなるペプチドの合成と2次構造解析, 日本薬学会第131回年会(2011.3).
- 525.杉山亨, 今村保忠, 出水庸介, 栗原正明, 高野真史, 橘高敦史, 4位置換キラルPNAの合成, 日本薬学会第131回年会(2011.3).
- 526.矢吹悠, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 奥田晴宏, 栗原正明, L/D-アミノ酸およびジ置換アミノ酸によるペプチド二次構造の制御, 日本薬学会第131回年会(2011.3).
- 527.平田陽子, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 福留誠, 大庭誠, 田中正一, カルボニル基を有する5員環状アミノ酸よりなるペプチドの合成と二次構造解析, 日本薬学会第131回年会(2011.3).
- 528.栗原正明, 佐藤由紀子, 出水庸介, 山縣奈々子, 奥田晴宏, 長野正展, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, α, α -ジ置換アミノ酸を含むオリゴペプチドのコンフォメーション予測と解析, 日本薬学会第131回年会(2011.3).
- 529.島袋充史, 福留誠, 大庭誠, 土井光暢, 栗原正明, 出水庸介, 田中正一, 配座自由度を制限した環状メチオニンの設計とそのペプチドの合成, 日本薬学会第131回年会(2011.3).

平成22年

- 530.島袋充史, 福留誠, 大庭誠, 土井光暢, 栗原正明, 出水庸介, 田中正一, 環状メチオニンの設計とそのペプチドの合成, 第27回日本薬学会九州支部大会(2010.12).
- 531.平田陽子, 栗原正明, 出水庸介, 土井光暢, 大庭誠, 福留誠, 田中正一, カルボニル基を有する光学活性5員環アミノ酸とそのペプチドの合成, 第27回日本薬学会九州支部大会(2010.12).
- 532.平田貴之, 長野正展, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, 2つの異なる不斉中心を有する6員環状ジ置換アミノ酸の合成とそのペプチドの二次構造研究, 第27回日本薬学会九州支部大会(2010.12).
- 533.山縣奈々子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 長澤和夫, 土井光暢, 田中正一, 奥田晴宏, 栗原正明, タンパク質間相互作用を制御する安定化ヘリカルペプチドの創製, 第54回日本薬学会関東支部大会(2010.10).
- 534.栗原正明, 出水庸介, 佐藤由紀子, 花尻瑠理, 合田幸広, 奥田晴宏, 定量的構造活性相関(QSAR)等による違法薬物の活性予測, 第54回日本薬学会関東支部大会(2010.10).
- 535.山縣奈々子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 長澤和夫, 土井光暢, 田中正一, 奥田晴宏, 栗原正明, ヘリカルペプチドの制御と核内受容体転写阻害物質への応用, 第36回反応と合成の進歩シンポジウム(2010.11).

536. 出水庸介, 佐藤由紀子, 落合鋭士, 堀江恭平, 高木健一郎, 角田真二, 上村みどり, 奥田晴宏, 栗原正明, ノンセコ VDR リガンドの創製と結合様式の解析, 第 29 回メディシナルケミストリーシンポジウム (2010. 11) .
537. 出水庸介, 佐藤由紀子, 竹内由起, 落合鋭士, 堀江恭平, 角田真二, 上村みどり, 奥田晴宏, 栗原正明, 新たな水素結合ネットワークを指向した VDR リガンド, 日本ケミカルバイオロジー学会第 5 回年会 (2010. 5) .
538. 高橋健男, 出水庸介, 佐藤由紀子, 落合鋭士, 堀江恭平, 角田真二, 上村みどり, 奥田晴宏, 栗原正明, 水素結合救済型ノンセコ VDR リガンドの設計と合成, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
539. 中津亜紀, 出水庸介, 佐藤由紀子, 奥田晴宏, 栗原正明, ノンセコステロイド型 VDR リガンド YR301 の簡便合成, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
540. 山縣奈々子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢, 長澤和夫, 奥田晴宏, 栗原正明, ハイブリッドペプチドフォールダマーの設計と合成, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
541. 平田貴之, 田中正一, 長野正展, 那須裕之, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 末宗洋, 光学活性 6 員環ジ置換アミノ酸の合成とそのペプチドの 2 次構造研究, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
542. 加藤和也, 反町和弘, 福留誠, 土井光暢, 栗原正明, 出水庸介, 末宗洋, 田中正一, 2 つのアセタールを有する 6 員環アミノ酸の合成とそのオリゴマーの 2 次構造解析, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
543. 出水庸介, 佐藤由紀子, 土井光暢, 田中正一, 奥田晴宏, 栗原正明, C 末端バリリンによるヘリカル二次構造の制御, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
544. 筒井康平, 出水庸介, 佐藤由紀子, 奥田晴宏, 栗原正明, シート構造を形成するペプチドの設計と合成, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
545. 栗原正明, 出水庸介, 佐藤由紀子, 山縣奈々子, 奥田晴宏, 長野正展, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, α, α - ジ置換アミノ酸オリゴペプチドのコンフォメーション予測と解析, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
546. 平田陽子, 長野正展, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 福留誠, 末宗洋, 田中正一, 光学活性 5 員環アミノ酸の設計・合成とそのペプチドの二次構造解析, 日本薬学会第 130 回年会, 岡山 (2010. 3).
547. 出水庸介, 田中正一, ヘリカルオリゴマーによる α, β -不飽和ケトンの不斉エポキシ化, 「協奏機能触媒」第 7 回公開シンポジウム, 東京 (2010. 3).
548. K. Takagi, S. Kakuda, T. Chida, K. Okada, H. Eguchi, K. Takenouchi, Y. Demizu, M. Kurihara, M. Takimoto-Kamimura, Y. Harada, Y. Azumaya,

In vitro and in vivo characterization of nonsecosteroidal vitamin D₃ analogue, 第2回核内受容体研究会, 東京 (2010. 3) .

平成 21 年

549. 出水庸介, 田中正一, 末宗洋, 土井光暢, 佐藤由紀子, 奥田晴宏, 栗原正明, 水溶性キラル環状 α , α -ジ置換アミノ酸およびペプチドの合成とコンフォメーション解析, 第46回ペプチド討論会, 北九州 (2009. 11).
550. 山縣奈々子, 出水庸介, 佐藤由紀子, 大庭誠, 田中正一, 土井光暢, 長澤和夫, 末宗洋, 奥田晴宏, 栗原正明, N末端プロリンによるヘリックス二次構造の制御, 第46回ペプチド討論会, 北九州 (2009. 11).
551. 栗原正明, 佐藤由紀子, 山縣奈々子, 出水庸介, 奥田晴宏, 長野正展, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, キラル α , α -ジ置換アミノ酸オリゴペプチドのコンフォメーション予測と解析, 第46回ペプチド討論会, 北九州 (2009. 11).
552. 出水庸介, 金子文也, 岩井すみれ, 高橋健男, 佐藤由紀子, 落合鋭士, 堀江恭平, 角田真二, 上村みどり, 奥田晴宏, 栗原正明, ノンセコステロイド型VDRリガンドのデノボ設計, 第35回反応と合成の進歩シンポジウム, 金沢 (2009. 11).
553. 田中正一, 福留誠, 高崎紘臣, 河辺直美, 長野正展, 末宗洋, 土井光暢, 出水庸介, 栗原正明, アジド基を持つ環状アミノ酸からなるペプチドの2次構造研究, 第35回反応と合成の進歩シンポジウム, 金沢 (2009. 11).
554. 出水庸介, 金子文也, 岩井すみれ, 高橋健男, 佐藤由紀子, 落合鋭士, 堀江恭平, 角田真二, 上村みどり, 奥田晴宏, 栗原正明, ノンセコステロイド型VDRリガンドの設計と合成, 第28回メディシナルケミストリーシンポジウム, 東京 (2009. 11).
555. 森山敦, 出水庸介, 栗山正巳, 尾野村治, キラル銅触媒を用いたDL- α -ヒドロキシリン酸の不斉ベンゾイル化, 日本プロセス化学会 2009 サマーシンポジウム, 東京 (2009. 7).
556. 森山敦, 出水庸介, 尾野村治, キラル銅触媒を用いた α -ヒドロキシリン酸類の速度論的光学分割, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009. 3) .
557. 濱水亨, 出水庸介, 尾野村治, 超原子価ヨウ素の創製と不斉転位反応, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009. 3) .
558. 飯川慎也, 出水庸介, 栗山正巳, 尾野村治, 水酸基活性化に基づく1,2-ジオールの選択的酸化, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009. 3) .
559. Kirira PG, 栗山正巳, 出水庸介, 尾野村治, Preparation of chiral quaternary cyclic amino acids using anodic deallylation, 電気化学会大会, (2009. 3).

560. 湊大志郎, 出水庸介, 栗山正巳, 尾野村治, 酸化的速度論分割による光学活性アミノ酸エステルの高効率合成, 日本化学会年会 (2009. 3) .
561. 山縣奈々子, 佐藤由紀子, 出水庸介, 奥田晴宏, 井上英史, 栗原正明, コンフォメーション変化するモデルペプチドの設計と合成, 日本薬学会第 129 年会, 京都 (2009. 3) .
562. 岩井すみれ, 金子文也, 佐藤由紀子, 出水庸介, 奥田晴宏, 栗原正明, ノンセコストロイド型 VDR リガンドの設計と合成, 日本薬学会第 129 年会, 京都 (2009. 3) .
563. 金子文也, 岩井すみれ, 佐藤由紀子, 出水庸介, 奥田晴宏, 角田真二, 岡田和久, 江口広志, 上村みどり, 高木健一郎, 竹之内一弥, 栗原正明, ノンセコ型リガンドと VDR の結合様式, 日本薬学会第 129 年会, 京都 (2009. 3) .
564. 栗原正明, 佐藤由紀子, 山縣奈々子, 出水庸介, 奥田晴宏, 長野正展, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, α, α -ジ置換アミノ酸ペプチドのコンフォメーション予測, 日本薬学会第 129 年会, 京都 (2009. 3) .
565. 佐野嘉一, 寺山直樹, 出水庸介, 奥田晴宏, 井上英史, 栗原正明, PET 薬合成のための固相法による F 導入反応の開発, 日本薬学会第 129 年会, 京都 (2009. 3) .

平成 20 年

566. 森博志, 出水庸介, 尾野村治, 不斉酸化メディエーターとなるキラルアザビシクロ-N-オキシルの開発, 第 25 回日本薬学会九州支部大会, 宮崎 (2008) .
567. 久保裕紀, 出水庸介, 尾野村治, 糖類の多官能基化を目指した段階的保護化法の開発, 第 25 回日本薬学会九州支部大会, 宮崎 (2008) .
568. 藤村憲行, 出水庸介, 尾野村治, α -アリルマロンアミドの不斉ハロアミノ化法の開発と光学活性 γ -ラクタムの合成, 第 25 回日本薬学会九州支部大会, 宮崎 (2008) .
569. 木村悠, 出水庸介, 尾野村治, トリクロロシランによるイミンのシス選択的還元と速度論的光学分割, 第 25 回日本薬学会九州支部大会, 宮崎 (2008) .
570. 湊大志郎, 永末洋子, 江藤義和, 出水庸介, 尾野村治, アミノアルデヒドの高効率酸化的光学分割, 第 34 回反応と合成の進歩シンポジウム, 京都 (2008) .
571. 栗原正明, 佐藤由紀子, 山縣奈々子, 奥田晴宏, 長野正展, 出水庸介, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, α, α -ジ置換アミノ酸オリゴペプチドのコンフォメーション予測と解析, 第 45 回ペプチド討論会, 東京 (2008) .
572. 椎木啓文, 森博志, 出水庸介, 尾野村治, アザビシクロ-N-オキシルアミノ酸の合成とアルコールの不斉酸化, 2008 日本化学会西日本大会, 長崎 (2008) .

- 573.ピーター・ガキオ・キリーラ, 飯川慎也, 出水庸介, 尾野村治, L-プロリン 5 位への立体選択的求核剤導入法の開拓, 第 38 回複素環化学討論会, 広島 (2008) .
- 574.森山敦, 出水庸介, 尾野村治, β -置換ピペリジンの位置選択的環開裂反応, 第 25 回有機合成化学セミナー, 熊本 (2008) .
- 575.森博志, 椎木啓文, 出水庸介, 尾野村治, 新規キラル N-オキシルの創製, 第 25 回有機合成化学セミナー, 熊本 (2008) .
- 576.久保裕紀, 出水庸介, 尾野村治, 分子認識に基づく糖の自在分子変換, 第 25 回有機合成化学セミナー, 熊本 (2008) .
- 577.湊大志郎, 永末洋子, 有元暉, 出水庸介, 尾野村治, ハレニウムイオンによるラセミー-1, 2-ジオールおよびアミノアルデヒドの高効率不斉酸化, 第 25 回有機合成化学セミナー, 熊本 (2008) .
- 578.森博志, 椎木啓文, 出水庸介, 尾野村治, 二級アルコールの不斉電極酸化を指向した新規キラル N-オキシルの開発, 第 32 回有機電子移動化学討論会, 大阪 (2008) .
- 579.出水庸介, 満田勝, 松本和也, 松村功啓, 尾野村治, 分子認識に基づくアルコール類の不斉トシル化, 日本薬学会第 128 年会, 横浜 (2008) .
- 580.佐藤由紀子, 金子文也, 奥田晴宏, 長野正展, 出水庸介, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, 栗原正明, α, α -ジ置換ペプチドのコンフォメーション予測法の検討, 日本薬学会第 128 年会, 横浜 (2008) .
- 581.久保裕紀, 三好弘子, 出水庸介, 尾野村治, 有機スズ触媒を用いた糖類への位置選択的モノアシル化, 日本薬学会第 128 年会, 横浜 (2008) .
- 582.S. S. Libendi, 出水庸介, 松村功啓, 尾野村治, Direct electrochemical α -cyanation of cyclic amines, 第 75 回電気化学会春季大会, 山梨 (2008) .
- 583.湊大志郎, 永末洋子, 出水庸介, 尾野村治, アミノアルデヒドの電極酸化による光学分割, 日本化学会第 88 春季年会, 東京 (2008) .
- 584.尾野村治, 森山敦, 出水庸介, TFA- NaNO_2 系による環状アミン類の選択的開裂反応とその有機合成への応用, 日本化学会第 88 春季年会, 東京 (2008) .
- 585.松本和也, 出水庸介, 尾野村治, キラル化合物を簡単に作る, 平成 19 年度長崎大学コラボ産学官交流会, 長崎 (2008) .

平成 19 年

- 586.久保裕紀, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, DL- β -ヒドロキシカルボン酸及びアミドの非酵素的速度論的光学分割, 日本薬学会第 127 年会, 富山 (2007) .
- 587.田中正一, 濱 真利子, 長野正展, 吉田礼, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋, リパーゼによる環状 1, 2-ジオールの速度論的光学分割とキラル環状ジ置換アミノ酸含有ペプチドの合成, 日本薬学会第 127 年会, 富山 (2007) .

588. 長野正展, 田中正一, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 末宗洋, ジアステレオメリックな環状ジ置換アミノ酸の合成とそのホモペプチドの2次構造, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007) .
589. 湊大志郎, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, ラセミジヒドロキシピペリジンの電極酸化による光学分割, 日本化学会第87春季年会, 大阪 (2007) .
590. 尾野村治, 塚田真介, 出水庸介, 松村功啓, 電極酸化を利用した光学活性C₂対称2,5-二置換ピロリジンの合成, 日本化学会第87春季年会, 大阪 (2007) .
591. S. S. Libendi, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, Control of regioselectivity in electrochemical α -methoxylation of *N*-protected amines, 第74回電気化学会春季大会, 東京 (2007) .
592. 松村功啓, 出水庸介, 尾田隆寿, 松本和也, 尾野村治, アルコールの超効率的電極酸化を目的とした新規有機メディエーターの開拓, 第74回電気化学会春季大会, 東京 (2007) .
593. 出水庸介, 末続肇, 尾野村治, 松村功啓, 新規キラル*N*-オキシルを用いる二級アルコールの不斉電極酸化, 第31回有機電子移動化学討論会, 鳥取 (2007) .
594. 尾野村治, 塚田真介, 田中俊充, 出水庸介, 松村功啓, 光学活性C₂対称ピロリジン誘導体の合成とその有機触媒としての利用, 日本プロセス化学会2007サマーシンポジウム, 東京 (2007) .
595. 永末洋子, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, キラル銅触媒を用いるアミノアルデヒド類の不斉電極酸化, 2007年電気化学会秋季大会, 東京 (2007) .
596. 田中俊充, 蓑手怜奈, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, L-プロリン5位へのジアステレオ選択的アリーール基導入とトリクロロシラン類のキラル活性化剤合成への応用, 第37回複素環化学討論会, 長野 (2007) .
597. 森博志, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, アルコール類のエナンチオ特異的酸化を目的とするキラルアザビシクロ-*N*-オキシルの開発, 第33回反応と合成の進歩シンポジウム, 長崎 (2007) .
598. 満田勝, Nguyen T. T. My, 今村英一, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, キラル銅触媒を用いる α -ヒドロキシカルボン酸類の不斉スルホニル化, 第33回反応と合成の進歩シンポジウム, 長崎 (2007) .
599. 木村悠, 湊大志郎, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, トリクロロシランの新規活性化剤の開発とイミンの不斉還元, 第24回日本薬学会九州支部大会, 福岡 (2007) .
600. 藤村憲行, 尾田隆寿, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, 極性転換に基づくピペリジン環4位への求電子剤導入とその不斉化, 第24回日本薬学会九州支部大会, 福岡 (2007) .

- 601.栗原正明, 佐藤由紀子, 金子文也, 奥田晴宏, 長野正展, 出水庸介, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, α , α -ジ置換アミノ酸を含むオリゴペプチドのコンフォメーション予測, 第44回ペプチド討論会, 大阪 (2007) .
- 602.長野正展, 田中正一, 出水庸介, 栗原正明, 土井光暢, 末宗洋, ジアステレオメリックなジ置換アミノ酸よりなるペプチドのヘリカル2次構造, 第44回化学関連支部合同九州大会, 北九州 (2007) .

平成18年

- 603.出水庸介, 真木萌, 尾野村治, 松村功啓, 1-アザビシクロ[3.3.0]オクタン誘導体の電極酸化, 2006年電気化学会秋季大会, 京都 (2006) .
- 604.出水庸介, 村上奈央美, 尾野村治, 松村功啓, 電極酸化を利用したジアミノ化合物の合成と機能性ペプチドへの応用, 第30回有機電子移動化学討論会, 横浜 (2006) .
- 605.有元眸, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, 1,2-ジオールの選択的電極酸化と不斉反応への応用, 第30回有機電子移動化学討論会, 横浜 (2006) .
- 606.濱真利子, 吉田礼, 出水庸介, 田中正一, 末宗洋, 速度論的光学分割を用いた光学活性環状ジ置換アミノ酸の合成とそのペプチド, 第23回日本薬学会九州支部大会, 熊本 (2006) .
- 607.田中俊充, 田中智章, 満田勝, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, キラル銅触媒を用いるアミノアルコール類の光学分割の反応機構, 第23回日本薬学会九州支部大会, 熊本 (2006) .
- 608.長野正展, 出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, 2つの異なる不斉中心を有する環状ジ置換アミノ酸からなるペプチドの2次構造, 第32回反応と合成の進歩シンポジウム, 広島 (2006) .
- 609.永末洋子, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, 動的分子認識に基づくアミノアルデヒド類の不斉電極酸化, 第32回反応と合成の進歩シンポジウム, 広島 (2006) .
- 610.濱真利子, 吉田礼, 出水庸介, 田中正一, 末宗洋, 酵素を用いた光学分割によるキラル環状ジ置換アミノ酸の合成, 第18回若手研究者のためのセミナー, 福岡 (2006) .
- 611.長野正展, 出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, 異なる2つの不斉中心を有する環状 α , α -ジ置換アミノ酸とそのペプチド2次構造, 第18回若手研究者のためのセミナー, 福岡 (2006) .
- 612.濱真利子, 吉田礼, 出水庸介, 田中正一, 末宗洋, 酵素的光学分割による光学活性環状ジ置換アミノ酸の合成, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006) .

613. 河辺直美, 出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, 環状ジ置換アミノ酸の側鎖上官能基の変換とそのペプチドの二次構造, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006) .
614. 長野正展, 出水庸介, 田中正一, 栗原正明, 土井光暢, 末宗洋, α 位と γ 位に不斉中心を有するキラル環状 α, α -ジ置換アミノ酸よりなるペプチドの二次構造, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006) .
615. 鳥居高好, 丸山徳見, 出水庸介, 大西智之, 井澤邦輔, Pieter Lettsen, Johan Nytes, Erik De Clercq, 6-アリアルチオ-9-(2,3-ジデオキシ-3-フルオロ- β -D-リボフラノシル)プリン類の合成並びにそれらの抗HBV活性, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006) .
616. 高地好美, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, トリクロロシランの有機触媒による活性化とケトン・イミンの高効率不斉還元, 第16回福岡シンポジウム戦略的「もの創り」の有機合成, 福岡 (2006).
617. 湊大志郎, 今井美恵子, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, 4-置換ピペリジンの選択的合成法とその不斉反応, 日本プロセス化学会2006サマーシンポジウム, 京都 (2006) .
618. 尾田隆寿, 出水庸介, 尾野村治, 松村功啓, ピペリジン環4位への高効率の求電子剤導入, 第36回複素環化学討論会, 長崎 (2006) .

平成17年

619. 出水庸介, 丸山徳見, 田中正一, 末宗洋, 土井光暢, 栗原正明, 側鎖上に不斉中心を持つアミノ酸とそのオリゴペプチドの二次構造, 第3回次世代を担う有機化学シンポジウム, 東京 (2005) .
620. 出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 丸山徳見, 末宗洋, 右巻き α -ヘリックス形成能を有するキラル環状 α, α -ジ置換アミノ酸の合成とその機能, 第31回反応と合成の進歩シンポジウム, 神戸 (2005) .
621. 長野正展, 出水庸介, 田中正一, 栗原正明, 土井光暢, 末宗洋, 2つの不斉中心を有するキラル環状 α, α -ジ置換アミノ酸とそのペプチドのコンフォメーション, 第42回ペプチド討論会, 福岡 (2005) .
622. 河辺直美, 出水庸介, 田中正一, 栗原正明, 末宗洋, 各種官能基を有するキラル環状 α, α -ジ置換アミノ酸の合成とそのペプチドのコンフォメーション解析, 第42回ペプチド討論会, 福岡 (2005) .
623. 栗原正明, 佐藤由紀子, 袴田航, 奥田晴宏, 出水庸介, 長野正展, 河辺直美, 土井光暢, 田中正一, 末宗洋, 化学計算によるキラル環状 α, α -ジ置換アミノ酸を含むオリゴペプチドのコンフォメーション解析, 第42回ペプチド討論会, 福岡 (2005) .

- 624.河辺直美, 田中正一, 出水庸介, 栗原正明, 末宗洋, 官能基を有する環状 α , α -ジ置換アミノ酸とそのペプチドの設計・合成, 第 22 回日本薬学会九州支部大会, 福岡 (2005) .
- 625.長野正展, 出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, α 位と γ 位に 2 つの不斉中心を有するキラル環状 α , α -ジ置換アミノ酸とそのペプチドの 2 次構造, 第 22 回日本薬学会九州支部大会, 福岡 (2005) .
- 626.長野正展, 出水庸介, 田中正一, 栗原正明, 土井光暢, 末宗洋, α 位と γ 位に不斉を有する環状 α , α -ジ置換アミノ酸の合成とそのペプチド, 第 42 回化学関連支部合同九州大会, 福岡 (2005) .
- 627.出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 丸山徳見, 末宗洋, 光学活性環状 α , α -ジ置換アミノ酸によるヘリックスの方向性と構造安定化, 日本薬学会第 125 年会, 東京 (2005) .
- 628.河辺直美, 阿南浩輔, 出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, 官能基を有する環状 α , α -ジ置換アミノ酸の設計・合成とそのペプチド, 日本薬学会第 125 年会, 東京 (2005) .
- 629.栗原正明, 佐藤由紀子, 奥田晴宏, 田中正一, 出水庸介, 土井光暢, 末宗洋, 側鎖にキラル中心を持つオリゴペプチドのコンフォメーション予測, 日本薬学会第 125 年会, 東京 (2005) .
- 630.丸山徳見, 森若暢康, 出水庸介, 大塚雅巳, 6-0-メチル化グアノシンから得られる新規核酸誘導体について, 日本薬学会第 125 年会, 東京 (2005) .
- 631.栗原正明, 佐藤由紀子, 奥田晴宏, 田中正一, 出水庸介, 土井光暢, 末宗洋, キラル α , α -ジ置換アミノ酸を含むオリゴペプチドのヘリカル構造の予測と設計, 日本コンピュータ化学会, 東京 (2005) .

平成 16 年

- 632.阿南浩輔, 田中正一, 出水庸介, 末宗洋, 栗原正明, 土井光暢, キラルな双環式 α , α -ジ置換アミノ酸の合成とそのペプチドのヘリカル二次構造, 第 30 回反応と合成の進歩シンポジウム-ライフサイエンスを志向した理論, 反応および合成, 北海道 (2004) .
- 633.出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, 水溶性キラル環状 α , α -ジ置換アミノ酸よりなるオリゴペプチドの二次構造, 日本薬学会第 124 年会, 大阪 (2004) .
- 634.阿南浩輔, 出水庸介, 田中正一, 栗原正明, 末宗洋, キラル環状 α , α -ジ置換アミノ酸誘導体とそのペプチドの合成, 日本薬学会第 124 年会, 大阪 (2004) .

- 635.栗原正明, 佐藤由紀子, 野本哲史, 奥田晴宏, 田中正一, 出水庸介, 大庭誠, 末宗洋, キラルアミノ酸を含むオリゴペプチドのヘリカル構造の予測, 日本薬学会第 124 年会, 大阪 (2004) .
- 636.田中正一, 出水庸介, 末宗洋, アミノ酸不斉中心とペプチドのヘリカル 2 次構造の方向性, 万有生命科学振興国際交流財団福岡シンポジウム, 福岡 (2004) .
- 637.阿南浩輔, 田中正一, 出水庸介, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, キラルな環状 α, α -ジ置換アミノ酸とそのペプチドの設計・合成, 第 21 回日本薬学会九州支部大会, 長崎 (2004) .
- 638.丸山徳見, 出水庸介, 香西重忠, Erik De Clercq, 3-ベンジル-1-シアノメチルウラシル類の合成と抗 HIV-1 作用, 第 14 回抗ウイルス化学療法研究会, 名古屋 (2004) .
- 639.丸山徳見, 香西重忠, 出水庸介, Myriam Witvrouw, Christophe Pannecouque, Jan Balzarini, Robert Snoeck, Graciella Andrei, Erik De Clercq, 1-置換-3-(3, 5-ジメチルベンジル)ウラシルの合成ならびに抗 HIV-1 作用, 第 31 回核酸化学シンポジウム, 東京 (2004) .

平成 15 年

- 640.出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, 環状 α, α -ジ置換アミノ酸を用いたヘリカル構造の制御, 第 40 回化学関連支部合同九州大会, 福岡 (2003) .
- 641.出水庸介, 田中正一, 阿南浩輔, 栗原正明, 末宗洋, 光学活性環状 α, α -ジ置換アミノ酸を用いたヘリカル構造の構築, 日本薬学会第 123 年会, 長崎 (2003) .
- 642.栗原正明, 佐藤由紀子, 松崎亜香里, 田中正一, 大庭誠, 出水庸介, 末宗洋, キラル α, α -ジ置換アミノ酸を含むオリゴペプチドのヘリカル構造の予測, 日本薬学会第 123 年会, 長崎 (2003) .
- 643.出水庸介, 田中正一, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, α 位に不斉を持たない光学活性アミノ酸によるヘリカル構造の制御は可能か?, 第 20 回日本薬学会九州支部大会, 福岡 (2003) .
- 644.田中正一, 出水庸介, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, ペプチド側鎖上での不斉中心のみによるヘリックス 2 次構造の制御, 第 29 回反応と合成の進歩シンポジウム-ライフサイエンスを志向した理論, 反応および合成, 岐阜 (2003) .
- 645.田中正一, 出水庸介, 土井光暢, 栗原正明, 末宗洋, キラルな環状 α, α -ジ置換アミノ酸によるヘリックス 2 次構造の制御, 第 40 回ペプチド討論会, 千葉 (2003) .

平成 14 年

646. Demizu, Y., Tanaka, M., Kurihara, M., Suemune, H. Synthesis of chiral cyclic α,α -disubstituted α -amino acid and its peptides, 第 39 回ペプチド討論会, 神戸 (2002) .
647. 出水庸介, 西村晋, 大庭誠, 田中正一, 末宗洋, α -エチル化 α,α -ジ置換アミノ酸よりなるペプチドのコンフォメーション解析, 第 39 回化学関連支部合同九州大会, 福岡 (2002) .
648. 出水庸介, 田中正一, 栗原正明, 末宗洋, キラル環状 α,α -ジ置換アミノ酸よりなるペプチドのコンフォメーション解析, 日本薬学会第 122 年会, 千葉 (2002) .

平成 13 年

649. 出水庸介, 田中正一, 栗原正明, 末宗洋, 光学活性環状 α,α -ジ置換アミノ酸の合成とそのペプチド, 第 18 回日本薬学会九州支部大会, 熊本 (2001) .
650. Tanaka, M., Oba, M., Kurihara, M., Demizu, Y., Nishimura, S., Hayashida, K., Suemune, H. Asymmetric synthesis and conformational analysis of α,α -disubstituted α -amino acids and their peptides. 第 38 回ペプチド討論会, 長崎 (2001) .